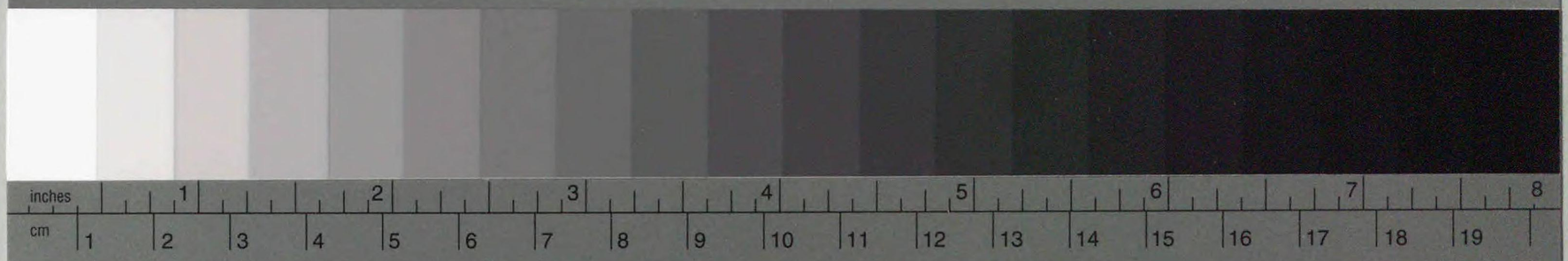
Kodak Gray Scale

© Kodak, 2007 TM: Kodak

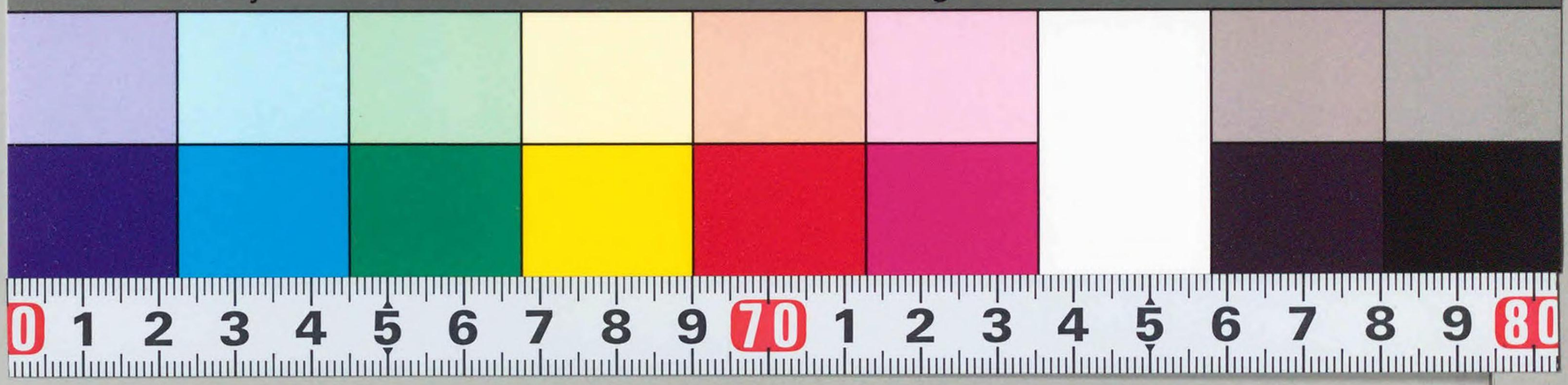
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

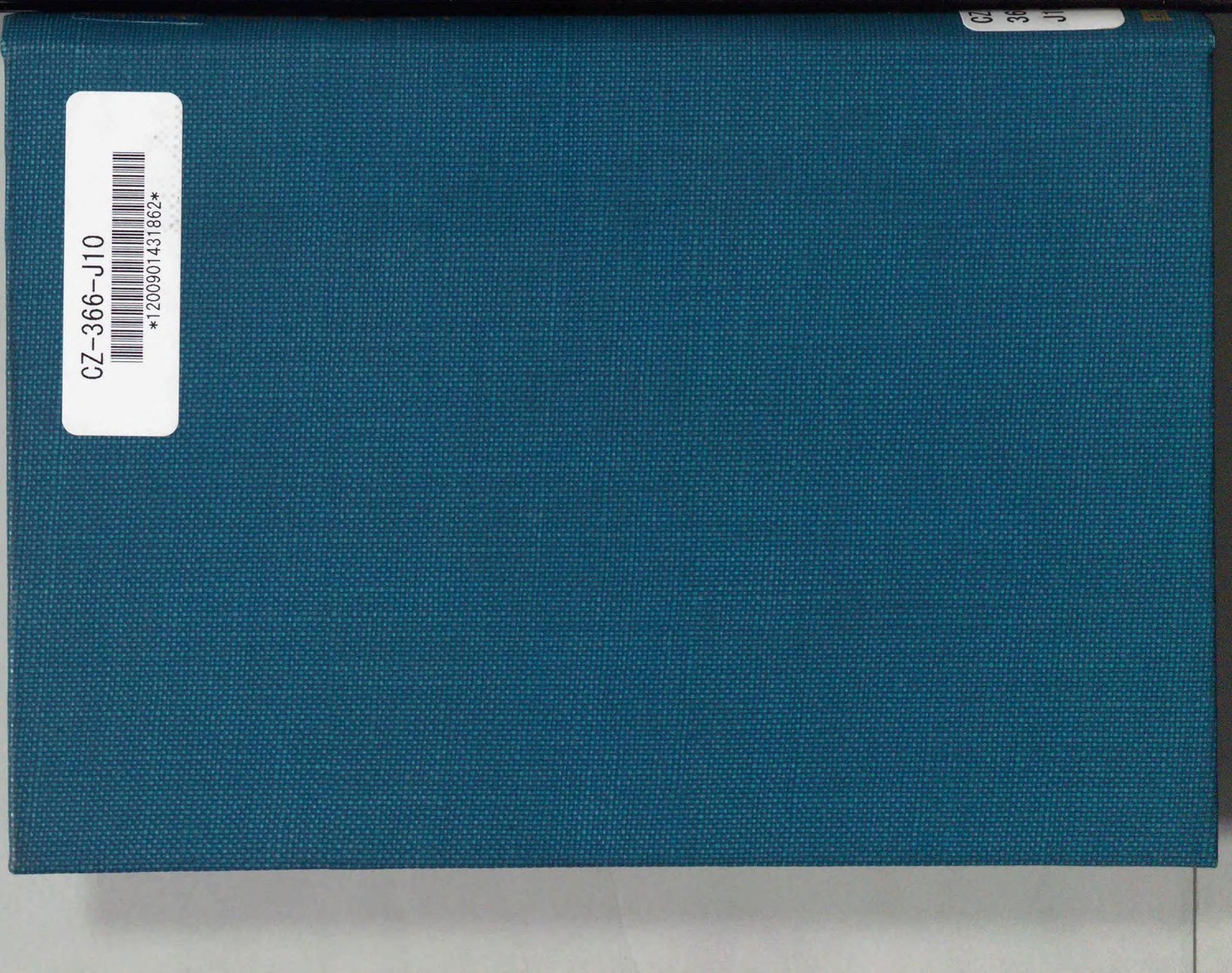


Kodak Color Control Patches

© Kodak, 2007 TM: Kodak

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black





CZ-366-J10
1200901431862

シセA 70

租税法規類集

（經理編）

昭和二十一年十月

大藏省主税局

國會圖書館
43.11.19
圖書館藏書
776119

目次

國稅徵收

	發令年月	法令番號	頁
○國稅徵收法	明治三〇、三	法律二一	一
○國稅徵收法施行規則	明治三五、四	勅令一三五	三
○國稅徵收法施行細則	明治三六、六	大藏省令一〇	二〇
○市町村交付金交付規程	大正三、五	大藏省令八	四
○郵便官署ヲシテ歲入金ノ受入及歲出金ノ繰替拂渡ニ關スル事務ヲ取扱ハシムルノ件	大正四、一	勅令六	四
○郵便官署ヲシテ歲入金ノ受入及歲出金ノ繰替拂ヲ取扱ハシムル件ニ關スル規程	大正四、一	大藏省令一	四
○郵便官署ニ於ケル各廳歲入金及歲出金取扱規則	大正四、一	遞信省令一八	四
○出納官吏事務規程(抄錄)	大正四、一	大藏省令二	九
○支出官事務規程(抄錄)	大正一一、一	大藏省令一	一〇
○日本銀行國庫金取扱規程(抄錄)	大正一一、二	大藏省令一〇	一〇
○日本銀行ノ國稅金受入ニ關スル特別取扱手續	昭和一六、七	大藏省令四七	一〇
○證券ヲ以テスル歲入納付ニ關スル法律	大正五、三	法律一〇	一〇
○歲入納付ニ使用スル證券ニ關スル件	大正五、一二	勅令二五六	一〇
○證券ヲ以テスル歲入納付ニ關スル法律施行細則	大正五、一二	大藏省令三二	一一
○證券納付ニ關スル制限	大正五、一二	大藏省令三〇	一一

○大藏省主管歲入ニ證券ヲ以テ納付スルノ件……大正五、一二　大藏省令　三一……一九
○租稅其ノ他ノ收入徵收處分囑託ニ關スル法律……明治四〇、四　法律　三四……二〇
○歲入年度等誤謬ノ場合訂正手續……大正一一、四　大藏省令　三八……二〇
○諸收入收納取扱規程……明治三三、四　大藏省訓令二七……二二
○國庫出納金端數計算法……大正　五、一　法律　二……二六
○國庫出納金端數計算法第一條第二項、第二條第二項及第四條第二項ノ國稅指定ノ件……昭和一九、三　大藏省令　四二……二七
○國庫出納金端數計算法第六條ニ於テ準用スル同法第一條第二項及第四條第二項ノ地方稅指定ノ件……昭和一九、四　內務省令　一四……二〇
○相續稅物納不動產收納規則……昭和一七、二　勅令　九一……二〇
○相續稅物納不動產收納規則ノ規定ニ依リ調製スルコトヲ要スル書類ノ樣式竝ニ帳簿ノ樣式及記入ノ方法ノ件……昭和一七、三　大藏省令　一四……二三

納稅施設

○納稅施設法……昭和一八、三　法律　六四……二七
○納稅施設法施行規則……昭和一八、三　大藏、內務省令一……二四
○納稅資金亡失責任審查委員會官制……昭和二〇、三　勅令　九八……二五

行政訴訟及訴願

○行政廳ノ違法處分ニ關スル行政裁判ノ件……明治二三、一〇　法律　一〇六……一五五
○行政裁判法……明治二三、六　法律　四八……一五五
○訴願法……明治二三、一〇　法律　一〇五……一六一

會計

○會計法……大正一〇、四　法律　四二……一六五
○會計規則……大正一一、一　勅令　一……一七三
○當分ノ內資金前渡、前金拂若ハ概算拂ヲ爲シ又ハ隨意契約ニ依ルコトヲ得ル場合ニ關スル件(抄錄)……昭和一二、一〇　勅令　五八四……一九七
○大藏大臣ノ承認ヲ經ルニ非サレハ他ノ費途ノ金額ヲ流用スルコトヲ得サル費途ノ件……大正一二、六　勅令　三〇五……一九七
○地方分與稅分與金特別會計法……昭和一五、三　法律　六七……一九八
○地方分與稅分與金特別會計規則……昭和一五、五　勅令　三三七……一九九
○支出官事務規程……大正一一、一　大藏省令　一……二〇〇

【目次了】

國稅徵收

○國稅徵收法（明治三十年三月二十六日法律第二十一號）

改正　明治三五年三六號　同三八年法四六號　同四四年法三七號　大正三年法一二號　昭和六年法一六號　同一〇年法一五號　同一一年法二號　同年法四二號　同一三年法七五號　同一五年法五九號　同一六年法六號　同一八年法五一號　同一九年法二二號　同二一年法一四號

第一章　總則

第一條　國稅ノ徵收ハ關稅其ノ他別ニ法律ヲ以テ定ムルモノノ外總テ此ノ法律ニ依ル

第二條　國稅ノ徵收ハ總テノ他ノ公課及債權ニ先ツモノトス

第三條　納稅人ノ財產上ニ質權又ハ抵當權ヲ有スル者其ノ質權又ハ抵當權ノ設定カ國稅ノ納期限ヨリ一箇年前ニ在ルコトヲ公正證書ヲ以テ證明シタルトキハ該物件ノ價格ヲ限トシ其ノ債權ニ對シテ國稅ヲ先取セサルモノトス

國稅ノ先取權ノ制限

第四條ノ一　納稅人左ノ場合ニ該當スルトキハ未タ納期ノ到ラサルモ既ニ納稅義務ノ確定シタル國稅ハ總テ之ヲ徵收スルコトヲ得（明治三十五年法律第三十六號改正）

一　國稅ノ滯納ニ因リ滯納處分ヲ受クルトキ

二　府縣稅其ノ他ノ公課ノ滯納ニ因リ滯納處分ヲ受クルトキ（昭和三年法律第七十五號、昭和十八年法律第五十一號、昭和二十一年法律第十四號改正）

三　强制執行ヲ受クルトキ

四　破產ノ宣告ヲ受ケタルトキ

五　競賣ノ開始アリタルトキ

繰上徵收

六　法人カ解散ヲ爲シタルトキ
七　納稅人脫稅又ハ逋稅ヲ謀ルノ行爲アリト認ムルトキ
（施規）三・八・二九

共益費用ノ優先權

第四條ノ二　前條第二號乃至第五號ノ場合ニ於テ徵收スヘキ國稅ハ府縣稅其ノ他ノ公課ノ督促手數料、延滯金及滯納處分費、强制執行費用、破產手續上ノ費用又ハ競賣費用ニ先チテ之ヲ徵收セス（明治三十五年法律第三十六號、明治四十四年法律第三十七號改正）

督促手數料、延滯金及滯納處分費ハ國稅其ノ他總テノ公課及債權ニ先チテ之ヲ徵收ス但シ第四條ノ一第二號乃至第五號ノ場合ニ於ケル府縣稅其ノ他ノ公課ノ督促手數料、延滯金及滯納處分費、强制執行費用、破產手續上ノ費用又ハ競賣費用ニ先チテ之ヲ徵收セス（同上）

相續人ノ納稅義務

第四條ノ三　相續開始ノ場合ニ於テハ國稅、督促手數料、延滯金及滯納處分費ハ相續財團又ハ相續人ヨリ之ヲ徵收ス但シ戶主ノ死亡以外ノ原因ニ依リ家督相續ノ開始アリタルトキハ被相續人ヨリモ之ヲ徵收スルコトヲ得（同上）

國籍喪失ニ因ル相續人又ハ限定承認ヲ爲シタル相續人ハ相續ニ因リテ得タル財產ヲ限度トシテ國稅、督促手數料、延滯金及滯納處分費ヲ納付スルノ義務ヲ有ス（同上）

共有物等ノ連帶納稅義務

第四條ノ四　共有物、共同事業又ハ共同事業ニ因リ生シタル物件ニ係ル國稅、督促手數料、延滯金及滯納處分費ハ納稅者連帶シテ其ノ義務ヲ負擔ス（同上）

過誤納金ノ充當

第四條ノ五　既納ノ稅金過納ナルトキハ其ノ稅金ノ屬スル年度內ノ他ノ納期ニ於テ徵收スヘキ同一稅目ノ稅金ニ充ツルコトヲ得（明治三十五年法律第三十六號、昭和六年法律第六號、同十五年法律第五十九號改正）

納稅管理人

第四條ノ六　納稅義務者納稅地ニ住所又ハ居所ヲ有セサルトキハ納稅ニ關スル事項ヲ處理セシムル爲納稅管理人ヲ定メ政府ニ申告スヘシ其ノ納稅管理人ヲ變更シタルトキ亦同シ但シ他ノ法令ニ特別ノ規定アルモノハ各其ノ法令ニ依ル（明治三十五年法律第三十六號改正）

（施規）九
（所得稅法八五・地租法七九・營業稅法二八・家屋稅法五七・相續稅法一一ノ二・建築稅法一〇・鑛區稅法五）

書類ノ送達

第四條ノ七　納稅ノ告知、督促及滯納處分ニ關スル書類ハ名宛人ノ住所又ハ居所ニ送達ス名宛人カ相續財團ニシテ財產管理人アルトキハ財產管理人ノ住所又ハ居所ニ送達ス（同上）
納稅管理人アルトキハ納稅ノ告知及督促ニ關スル書類ニ限リ其ノ住所又ハ居所ニ送達ス（同上）
（施規）一〇（施細）一八

公示送達

第四條ノ八　書類ノ送達ヲ受クヘキ者其ノ住所又ハ居所ニ於テ書類ノ受取ヲ拒ミタルトキ又ハ帝國內ニ住所居所アラサルトキ若ハ其ノ住所、居所共ニ不明ナルトキハ書類ノ要旨ヲ公告シ公告ノ初日ヨリ七日ヲ經過シタルトキハ書類ノ送達アリタルモノト看做ス（明治三十五年法律第三十六號、同三十八年法律第四十六號改正）
（施規）三一

第二章　徵收

市町村ノ國稅徵收

第五條　市町村ハ其ノ市町村內ノ地租及勅令ヲ以テ命シタル國稅ヲ徵收シ其ノ稅金ヲ國庫ニ送付スルノ責任アルモノトス

市町村交付金

政府ハ前項徵收ノ費用トシテ勅令ノ定ムル所ニ依リ市町村ニ交付金ヲ交付ス（明治四十四年法律第三十七號、大正三年法律第十二號、昭和十一年法律第二號改正）
（施規）一ノ二・四・五・六ノ二・六ノ三・七・三二・三三（施細）四・五　市町村交付金交付規程

徵收手續

第六條　國稅ヲ徵收セムトスルトキハ收稅官吏又ハ市町村ハ納稅人ニ對シ其ノ納金額、納期日及納付場所ヲ指定シ之ヲ告知スヘシ
（施規）一ノ二・三（施細）一・二・二ノ二・三ノ一・三ノ二

徵收猶豫

第七條　納稅人非常ノ災害ニ罹リ政府ニ於テ其ノ被害調查ノ爲時日ヲ要スルトキハ其ノ間稅金ノ徵收ヲ爲ササルコトアルヘシ

納稅免除

第八條　市町村ハ避クヘカラサル災害ニ因リ既收ノ稅金ヲ失ヒタルトキハ其ノ事實ヲ證明シ大藏大臣ニ稅金還付ノ責任ノ免除ヲ請フコトヲ得

前項ノ申出アリタルトキハ大藏大臣ハ其ノ事實ヲ審査シ其ノ免除ヲ爲スコトヲ得

〔施規〕六

督促手數料及延滯金ノ徵收

第九條　國稅ノ納期限ヲ過キ其ノ稅金ヲ完納セサル者アルトキハ收稅官吏ハ期限ヲ指定シ之ヲ督促スヘシ但シ第四條ノ一ニ依リ國稅ノ徵收ヲ爲スト キハ此ノ限ニ在ラス（明治三十五年法律第三十六號改正）

前項ニ依リ督促ヲ爲シタル場合ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ督促手數料、延滯金ヲ徵收ス（明治三十五年法律第三十六號、同四十四年法律第三十七號改正）

〔施規〕一一・一一ノ二　〔施細〕六ノ一・六ノ二・六ノ三・六ノ四・六ノ五・六ノ六

第三章　滯納處分

財產差押

第十條　左ノ場合ニ於テハ收稅官吏ハ納稅者ノ財產ヲ差押フヘシ（明治三十五年法律第三十六號改正）

一　納稅者督促ヲ受ケ其ノ指定ノ期限マテニ督促手數料、延滯金及稅金ヲ完納セサルトキ（明治四十四年法律第三十七號改正）

二　第四條ノ一第一號及第七號ノ場合ニ於テ納稅者納期ノ到ラサル國稅納付ノ告知ヲ受ケ稅金ヲ完納セサルトキ

財產差押證票

第十一條　收稅官吏滯納處分ノ爲財產ノ差押ヲ爲ストキハ其ノ命令ヲ受ケタル官吏タルノ證票ヲ示スヘシ

〔施細〕一〇ノ二・一一・一二・一三・一四・一五・一六・一七　〔施規〕九

滯納處分ノ中止

第十二條　差押フヘキ財產ノ價格ニシテ督促手數料、延滯金、滯納處分費及第三條ニ依リ控除スヘキ債務額ニ充テ殘餘ヲ得ル見込ナキトキハ滯納處分ノ執行ヲ止ムル（明治三十五年法律第三十六號、同四十四年法律第三十七號改正）

財產取戻請求

第十四條　收稅官吏財產ノ差押ヲ爲シタル場合ニ於テ第三者其ノ財產ニ就キ所有權ヲ主張シ取戻ヲ請求セムトスルトキハ賣却決行ノ五日前マデニ所有者タルノ證憑ヲ具ヘテ收稅官吏ニ申出ヘシ

詐害行爲ノ取消

第十五條　滯納處分ヲ執行スルニ當リ滯納者財產ノ差押ヲ免ルル爲故意ニ其ノ財產ヲ讓渡シ讓受人其ノ情ヲ知リ讓受ケタル場合ニ於テ政府ハ其ノ行爲ノ取消ヲ求ムルコトヲ得

差押禁止物件

第十六條　左ニ揭クル物件ハ之ヲ差押フルコトヲ得ス

一　滯納者及其ノ同居家族ノ生活上缺クヘカラサル衣服、寢具、家具及廚具

二　滯納者及其ノ同居家族ニ必要ナル三箇月間ノ食料及薪炭（昭和十年法律第十五號改正）

三　實印其ノ他職業ニ必要ナル印

四　祭祀禮拜ニ必要ナリト認ムル物及石碑、墓地

五　系譜其ノ他滯納者ノ家ニ必要ナル日記書付類

六　職務上必要ナル制服、祭服、法衣

七　勳章其ノ他名譽ノ章票

八　滯納者及其ノ同居家族ノ修學上必要ナル書籍器具

九　發明又ハ著作ニ係ル物ニシテ未タ公ニセサルモノ

條件附差押禁止物件

第十七條　左ニ揭クル物件ハ他ニ督促手數料、延滯金、滯納處分費及稅金ヲ償フニ足ルヘキ物件ヲ提供スルトキハ滯納者ノ選擇ニ依リ差押ヲ爲ササルモノトス（明治三十五年法律第三十六號、同四十四年法律第三十七號改正）

一　農業ニ必要ナル器具、種子、肥料及牛馬竝其ノ飼料

二　職業ニ必要ナル器具及材料

差押ノ效力
假差押及假處分トノ關係

第十八條　差押ノ效力ハ差押物ヨリ生スル天然及法定ノ果實ニ及フモノトス

第十九條　滯納處分ハ裁判上ノ假差押又ハ假處分ノ爲ニ其ノ執行ヲ妨ケラルルコトナシ（明治三十五年法律第三十六號改正）

〔施規〕　一三

捜索

第二十條　收稅官吏財產ノ差押ヲ爲ストキハ滯納者ノ家屋、倉庫及筐匣ヲ捜索シ又ハ閉鎖シタル戸扉、筐匣ヲ開カシメ若ハ自ラ之ヲ開クコトヲ得滯納者ノ財產ヲ占有スル第三者ノ家屋、倉庫及筐匣ニ滯納者ノ財產ヲ藏匿スルノ疑アルトキハ收稅官吏ハ前項ニ準シ處分スルコトヲ得前二項ニ依リ家屋、倉庫又ハ筐匣ヲ捜索スルハ日出ヨリ日沒マテニ限ル

立會人

第二十一條　收稅官吏前條ノ處分ヲ爲ストキハ滯納者若ハ前條ニ揭ケタル第三者又ハ其ノ家族雇人ヲシテ立會ハシムヘシ若シ立會フヘキ者不在ナルトキ又ハ立會ニ應セサルトキハ成丁者二人以上又ハ市町村吏員（市制町村制ヲ施行セザル地ニ在リテハ區戶長及其ノ屬吏員）若ハ警察官吏ヲ證人トシテ立會ハシムヘシ

〔施規〕　一六

動產及有價證券ノ差押手續

第二十二條　動產及有價證券ノ差押ハ收稅官吏占有シテ之ヲ爲ス但シ差押物件運搬ヲ爲スニ困難ナルトキハ市町村長、滯納者又ハ第三者ヲシテ保管ヲ爲サシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ封印其ノ他ノ方法ヲ以テ差押ヲ明白ニスヘシ（明治三十五年法第三十六號改正）

差押物件ノ保管證ニ關シテハ印紙稅ヲ納ムルコトヲ要セス（明治三十八年法律第四十六號追加）

債權ノ差押手續

第二十三條ノ一　債權ノ差押ヲ爲ストキハ收稅官吏ハ之ヲ債務者ニ通知スヘシ

前項ノ通知ヲ爲シタルトキハ政府ハ督促手數料、延滯金、滯納處分費及稅金額ヲ限度トシテ債權者ニ代位ス（明治三十五年法律第三十六號、同四十四年法律第三十七號改正）

〔施細〕　一〇

無體財產

第二十三條ノ二　債權及所有權以外ノ財產權ノ差押ヲ爲ストキハ收稅官吏ハ之ヲ其ノ權利者ニ通知スヘシ（明治

三十八年法律第四十六號追加）

前項ノ財產權ニシテ其ノ移轉ニ付登記又ハ登錄ヲ要スルモノニ在リテハ差押ノ登記又ハ登錄ヲ關係官廳ニ囑託スヘシ其ノ抹消又ハ變更ニ付テモ亦同シ（同上）

〔施細〕　一〇

〔登錄稅法〕　一九

不動產及船舶ノ差押手續

第三十三條ノ三　不動產又ハ船舶ヲ差押ヘタルトキハ收稅官吏ハ差押ノ登記ヲ所轄登記所ニ囑託スヘシ其ノ抹消又ハ變更ノ登記ニ付テモ亦同シ（明治三十六年法律第三十六號追加、同三十八年法律第四十六號改正）

差押ノ爲不動產ヲ分割又ハ區分シタルトキハ收稅官吏ハ分割又ハ區分ノ登記ヲ所轄登記所ニ囑託スヘシ其ノ合併又ハ變更ノ登記ニ付テモ亦同シ（明治三十八年法律第四十六號改正）

〔登錄稅法〕　一九

登錄稅ノ免除

第二十三條ノ四　差押ノ解除ニ關シテハ登錄稅ヲ納ムルコトヲ要セス（明治三十八年法律第四十六號追加）

公賣

第二十四條　差押ヘタル動產、有價證券、不動產及第二十三條ノ一ニ依リ收稅官吏カ第三債務者ヨリ給付ヲ受ケタル物件ハ通貨ヲ除クノ外公賣ニ付ス公賣ノ手續ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（明治三十五年法律第三十六號改正）

公賣ニ付スルモ買受人ナキカ又ハ其ノ價格見積價格ニ達セサルトキハ其ノ見積價格ヲ以テ政府ニ買上クルコトヲ得（同上）

隨意契約買受人ノ制限

第二十五條　債權及所有權以外ノ財產權ニ付テハ前二項ノ規定ヲ準用ス（明治三十八年法律第四十六號追加）

第二十六條　公益上必要アル場合ニ於テハ隨意契約ヲ以テ第一項ノ公賣ニ代フルコトヲ得（昭和十六年法律第六號追加）

〔施規〕　一八・一九・二〇・二一・二二・二三・二四・二五・二六・二七・二八（施細）　一二・一三・一四・一五・一六・一七

見積價格僅少ニシテ其ノ公賣費用ヲ償フニ足ラサル物件ハ隨意契約ヲ以テ之ヲ賣却スルコトヲ得

滯納者及賣却ヲ爲ス地方ノ稅務ニ關スル官吏、公吏、雇員ハ直接ト間接トヲ問ハス其ノ賣却物件ヲ

買受クコトヲ得ス

滯納處分費ノ範圍

第二十七條　滯納處分費ハ財產ノ差押、保管、運搬、公賣ニ關スル費用及通信費トス（明治三十五年法律第三十六號改正）

處分金ノ配當手續

第二十八條　物件ノ賣却代金、差押ヘタル通貨及第二十三條ノ一ニ依リ第三債務者ヨリ給付ヲ受ケタル通貨ハ督促手數料、延滯金、滯納處分費及稅金ニ充テ尙殘餘アルトキハ其ノ代金ヨリ先ツ督促手數料、延滯金、滯納處分費ヲ徵シ次ニ其ノ債務額ニ充ツルマテヲ債權者ニ交付シ尙殘餘アルトキハ之ヲ滯納者ニ交付ス（明治三十五年法律第三十六號、同四十四年法律第三十六號改正）

無限責任社員ニ對スル滯納處分

賣却シタル物件質權、抵當權ノ目的物タルトキハ其ノ代金ヨリ先ツ督促手數料、延滯金、滯納處分費及稅金ヲ控除シ次ニ其ノ債務額ニ充ツルマテヲ債權者ニ交付シ尙殘餘アルトキハ之ヲ滯納者ニ交付ス但シ第三條ニ揭ケタル質權、抵當權ノ目的タル物件ニ關シテハ其ノ代金ヨリ先ツ督促手數料、延滯金、滯納處分費ヲ徵シ次ニ其ノ債務額ニ充ツルマテヲ債權者ニ交付シ次ニ稅金ヲ控除シ尙殘餘アルトキハ之ヲ滯納者ニ交付ス（同上）

滯納處分金ノ供託

賣却シタル物件抵當證券ヲ發行シタル抵當權ノ目的物ニシテ第三條ノ證明ヲ爲スヘキ抵當證券所持人分明ナラサル場合ニ於テ其ノ代金ヨリ督促手數料、延滯金及滯納處分費ヲ徵シタル殘額カ債權者ニ交付スヘキ債務額及徵收スヘキ稅金ニ充タサルトキハ其ノ抵當證券所持人ニ交付スヘキ金額ハ之ヲ保管ス此ノ場合ニ於テ債權ノ辨濟期限後四月ヲ過クルモ尙其ノ證明ヲ爲ササルトキハ其ノ保管シタル金額ヲ稅金ニ充テ尙殘餘アルトキハ之ヲ抵當證券所持人ニ交付スヘキ物件ノ賣却後二年內ニ其ノ證明ヲ爲ササルトキ亦同シ（昭和六年法律第十六號追加）

〔施規〕三〇　〔施細〕一七ノ二・一九

第二十九條　會社ニ對シ滯納處分ヲ執行スル場合ニ於テ會社財產ヲ以テ督促手數料、延滯金、滯納處分費及稅金ニ充テ仍不足アルトキハ無限責任社員ニ就キ之ヲ處分スルコトヲ得（明治四十四年法律第三十七號改正）

第三十條　此ノ法律ニ依リ債權者又ハ滯納者ニ交付スヘキ金錢ハ之ヲ供託スルコトヲ得（明治三十五年法律第三十六號改正）

〔施細〕二〇

納稅義務ノ消滅

第三十一條　滯納處分ヲ結了シ若ハ之ヲ中止シタルトキハ納稅義務及督促手數料、延滯金、滯納處分費納付ノ義務ハ消滅ス（明治三十五年法律第三十六號、同四十四年法律第三十七號改正）

第四章　罰則

罰則

第三十二條　滯納者又ハ滯納者ノ財產ヲ占有スル者其ノ財產ヲ藏匿脫漏シ又ハ虛僞ノ契約ヲ爲シタルトキハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス

差押物件ノ保管者其ノ保管ニ係ル物件ヲ藏匿脫漏毀消若ハ故意ニ毀損シタルトキ亦同シ

情ヲ知テ前二項ノ所爲ヲ幇助シ又ハ虛僞ノ契約ヲ承諾シタル者ハ各本刑ニ一等ヲ減ス

前各項ノ場合ニ於テ刑法ニ罰條アルモノハ本條ヲ適用セス

第五章　附則

第三十三條　此ノ法律ハ明治三十年七月一日ヨリ施行ス（註　沖繩縣ハ明治三十二年法律第五十九號、沖繩縣及東京府管內小笠原島、伊豆七島ニハ當分之ヲ施行セス（註　明治三十六年勅令第二百七十八號ヲ以テ本法ヲ施行セラル）

小笠原島及伊豆七島ニ對スル特例

市町村制未施行地ノ公共團體指定

市制町村制ヲ施行セサル地方ニ於テ本法中市町村ニ關スル條項ヲ適用スヘキ公共團體ハ勅令ヲ以テ之ヲ指定ス北海道水產物營業人組合ハ本法ニ於テ市町村ニ準ス（註　明治三十四年法律第三號北海道地方費法ニヨリ自然消滅）

〔施規〕三四

廢止規定

第三十四條　明治二十二年法律第九號國稅徵收法、同年法律第三十二號國稅滯納處分法及同二十三年法律第四號ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ廢止ス

附則（明治四十四年法律第三十七號）

本法ハ明治四十四年度分ヨリ之ヲ適用ス

附　則（大正三年法律第十二號）

本法ハ大正三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（昭和六年法律第十六號）

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（昭和六年勅令第百八十七號ヲ以テ同年八月一日ヨリ施行）

附　則（昭和十年法律第十五號、民事訴訟法中改正法律）

本法ノ施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（昭和十年勅令第八十九號ヲ以テ同年五月一日ヨリ施行）

本法施行前ニ開始シタル强制執行ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル但シ第五百七十條ノ二ノ規定ハ本法施行前ニ開始シタル强制執行ニ付テモ亦之ヲ適用ス

國稅徵收法第十六條第二號中「一箇月」ヲ「三箇月」ニ改ム

附則第二項本文ノ規定ハ前項ノ規定ヲ適用スル場合ニ關シ之ヲ準用ス

附　則（昭和十一年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

本法ハ昭和十一年法律第二號）

附　則（昭和十一年法律第四十二號、退職積立金及退職手當法）

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（昭和十一年十一月勅令第四百十三號退職積立金及退職手當法附則第三十八條ヲ以テ同十二年一月一日ヨリ施行）

國稅徵收法第十六條ニ左ノ一項ヲ加フ（退職積立金及退職手當法附則第四十四條）

退職積立金及退職手當法ニ依ル退職手當積立金及準備積立金ニ付亦前項ニ同シ

附　則（昭和十三年法律第七十五號、日滿國稅徵收事務共助法）

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（昭和十三年勅令第三百五十一號ヲ以テ同年五月二十日ヨリ施行）

國稅徵收法第四條ノ一第二號ヲ左ノ如ク改ム

二　府縣稅其ノ他ノ公課又ハ徵收ノ囑託ヲ受ケタル滿洲國ノ國稅ニ付滯納處分ヲ受クルトキ

附　則（昭和十五年法律第五十九號、租稅法規ノ改正ニ伴フ恩給金庫法等ノ規定ノ整理ニ關スル法律）

本法ハ昭和十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（昭和十六年法律第六號）

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（昭和十八年法律第五十一號、日滿地方稅徵收事務共助法）

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（昭和十八年勅令第四五八號ヲ以テ同年六月一日ヨリ施行）

國稅徵收法第四條ノ一第二號中及地方稅法第二十六條第一項第一號中「滿洲國ノ國稅」ヲ「滿洲國ノ國稅若ハ地方稅」ニ改ム

附　則（昭和十九年法律第二十一號勞働者年金保險法中改正法律（厚生年金保險法）附則

第一條　本法施行ノ期日ハ保險給付ニ關スル改正規定及其ノ他ノ各規定ニ付勅令ヲ以テ之ヲ定ム（昭和十九年勅令第三六二號ヲ以テ同年六月一日ヨリ施行但シ附則第十四條ハ同年十月一日ヨリ施行）

第九條　退職積立金及退職手當法ハ之ヲ廢止ス

第十二條（第二項）　退職積立金及退職手當法ニ依リ積立テタル退職手當積立金及準備積立金ニ付テハ國稅徵收法ニ依ル差押ヲ爲スコトヲ得ズ

第十四條　國稅徵收法中左ノ通改正ス

第十六條第二項ヲ削ル

附　則（昭和二十一年法律第十四號）

第二十九條　この法律施行の期日は、各規定について、勅令でこれを定める。（昭和二十年勅令第四百號により昭和二十一年九月一日から施行）

○國稅徵收法施行規則

（明治三十五年四月十一日勅令第百三十五號）

改正　明治三八年勅六七號　同四四年勅二八二號　大正九年勅五八八號　同一一年勅一七〇號　昭和六年勅一八八號　同一一年勅三五號　同一一年勅三三三號　同一二年勅四二六號　同一五年勅一五九號　同一五年勅六六四號　同一七年勅一五四號　同一八年勅六七八號　同一九年勅一八二號　同二一年勅四一四號

第一條　收稅官吏國稅ヲ徵收セムトスルトキハ納稅人ニ對シ其ノ納金額、納期日及納付場所ヲ記載シタル納稅告知書ヲ發スヘシ但シ日本銀行ニ納付セシムル場合ノ外口頭ヲ以テ告知スルコトヲ得（大正十一年勅令第百七十號改正）

第一條ノ二　地租ノ外左ノ國稅ハ市町村ニ於テ之ヲ徵收スヘシ（昭和十一年勅令第三百三十三號、同十二年勅令第四百二十六號、同十五年勅令第百五十九號、同十七年勅令第百五十四號、同十九年勅令第百八十二號、同二十一年勅令第四百十四號改正）

一　所得稅（源泉課稅ニ依ルモノヲ除ク）

二　個人ノ臨時利得稅

三　家屋稅

四　個人ノ營業稅

第二條　市町村ニ於テ徵收スヘキ國稅ハ收稅官吏書面ヲ以テ其ノ金額ヲ市町村ニ通知スヘシ

市町村ハ前項ノ通知ニ依リ納稅人ニ對シ其ノ納金額、納期日及納付場所ヲ記載シタル納稅告知書ヲ發スヘシ

第三條　國稅徵收法第四條ノ一ニ依リ納期ノ到ラサル稅金ヲ徵收セムトスルトキハ納期日ヲ定メ第一條ノ告知又ハ第二條ノ通知ヲ爲スト同時ニ其ノ旨告知又ハ通知スヘシ

納稅告知ヲ爲シタル後國稅徵收法第四條ノ一ニ依リ納期日前之ヲ徵收セムトスルトキハ收稅官吏ハ納期日ノ變更ヲ納稅人ニ告知スヘシ

前項ノ國稅ニシテ市町村ノ徵收スルモノナルトキハ納稅人ニ告知スルト同時ニ其ノ旨市町村ニ通知スヘシ

第四條　市町村ニ於テ稅金ヲ徵收シタルトキハ領收書ヲ納稅人ニ交付スヘシ

第五條　市町村ニ於テ徵收シタル稅金ハ送付書ヲ添ヘ漸次之ヲ日本銀行ニ送付スヘシ但シ納期後七日ヲ過クルコトヲ得ス（大正十一年勅令第百七十號、昭和十一年勅令第三十五號改正）

第六條　市町村ニ於テ國稅徵收法第八條ニ依リ稅金送付ノ責任ノ免除ヲ請ハムトスルトキハ地方長官ヲ經由シテ大藏大臣ニ申請書ヲ提出スヘシ

地方長官前項ノ申請書ヲ受ケタルトキハ其ノ事實ヲ調査シ意見ヲ具シテ大藏大臣ニ送付スヘシ

第六條ノ二　國稅徵收法第五條第二項ニ依ル交付金ハ徵收金額及納稅告知書數ニ應シ左ノ區別ニ從ヒ之ヲ市町村ニ交付ス（昭和十一年勅令第三百三十三號追加）

一　徵收金額ニ對シテハ人口二百萬以上ノ市ニ在リテハ千分ノ三・五、人口二百萬未滿百萬以上ノ市ニ在リテハ千分ノ五・五、人口百萬未滿五十萬以上ノ市ニ在リテハ千分ノ八、人口五十萬未滿二十萬以上ノ市ニ在リテハ千分ノ十二、人口二十萬未滿五萬以上ノ市ニ在リテハ千分ノ十五、人口五萬未滿ノ市ニ在リテハ千分ノ二十、町ニ在リテハ千分ノ二十七、村ニ在リテハ千分ノ三十ニ相當スル金額（昭和十五年勅令第六百六十四號、同十八年勅令第六百七十八號改正）

二　納稅告知書ニ對シテハ一通ニ付市ニ在リテハ四錢、町村ニ在リテハ六錢ノ割合ヲ以テ計算シタル金額

第六條ノ三　前條ノ人口ハ國勢調査ニ依ル總人口ヨリ刑務所內ニ在ル人員ヲ除外シタルモノトシ國勢調査ノ施行毎ニ其ノ翌年四月一日ヨリ新調査人口ニ依ル（昭和十一年勅令第三百三十三號追加、同十七年勅令第百五十四號改正）

第七條　市町村ハ納期內ニ稅金ノ納付ヲ了ラサル者アルトキハ直ニ其ノ氏名、住所若ハ居所及納金額滯納ノ事由ヲ所轄稅務署ニ報告スヘシ

第八條　國稅徵收法第四條ノ一ニ依リ徵收スルコトヲ得ル國稅ハ左ニ揭クルモノニシテ納期ニ到リ稅金ノ徵收ヲ

完ウスルコト能ハスト認ムルモノニ限ル

一　納稅ノ告知ヲ爲シタル諸稅

二　所得金額決定ノ通知ヲ爲シタル所得稅、利得金額決定ノ通知ヲ爲シタル個人ノ營業稅（昭和十五年勅令第百五十九號、同十九年勅令第一八二號改正）

三　製造場外ニ移出セラレタル酒類ニ對スル酒稅及清涼飲料ニ對スル清涼飲料稅竝ニ販賣セラレタル砂糖ニ對スル砂糖特別消費稅及販賣セラレタル第一種ノ物品又ハ製造場ヨリ移出セラレタル第二種若ハ第三種ノ物品ニ對スル物品稅（同上）

四　遊興、飲食又ハ宿泊ニ付領收シタル料金ニ對スル遊興飲食稅、特別行爲稅法第一條ニ揭ク行爲ニ付取得シ又ハ取得スヘカリシ料金ニ對スル特別行爲稅、入場稅又ハ特別入場稅及第一種ノ廣告ニ付取得シ若ハ取得スヘカリシ料金又ハ第二種第三種ノ廣告ニ對スル廣告稅（同上）

第九條　納稅義務者納稅管理人ヲ定メ若ハ變更シタルトキハ其ノ氏名及住所若ハ居所ヲ所轄稅務署ニ申告スヘシ

納稅管理人其ノ氏名、住所又ハ居所ヲ變更シタルトキハ之ヲ所轄稅務署ニ申告スヘシ

市町村ニ於テ徵收スヘキ國稅ニ係ルトキハ前二項ノ申告ハ其ノ市町村ヲ經由スヘシ

第十條　國稅徵收法ニ依ル書類ノ送達ハ使丁又ハ郵便ニ依ルヘシ

第十一條　國稅徵收法第九條ニ依リ納稅ノ督促ヲ爲サムトスルトキハ收稅官吏ハ納稅者ニ對シ督促狀ヲ發スヘシ

督促狀ヲ發シタルトキハ手數料トシテ一圓ヲ徵收ス（昭和十一年勅令第三十五號、昭和十九年勅令第一八二號、同二十一年勅令第四一四號改正）

第十一條ノ二　前條ニ依リ督促ヲ受ケタル場合ニ於テハ稅金額百圓ニ付一日四錢ノ割合ヲ以テ納期限ノ翌日ヨリ

稅金完納又ハ財產差押ノ日ノ前日迄ノ日數ニ依リ計算シタル延滯金ヲ徵收ス但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合又ハ滯納ニ付酌量スヘキ情狀アリト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス（明治四十四年勅令第二百八十二號追加、昭和十九年勅令第一八二號）

一　納稅告知書一通ノ稅金額二十圓未滿ナルトキ

二　納期ヲ繰上ケ徵收ヲ爲ストキ

三　納稅者ノ住所若ハ居所カ帝國內ニ在ラサル爲又ハ其ノ住所、居所共ニ不明ナル爲公示送達ノ方法ニ依リ納稅ノ告知又ハ督促ヲ爲シタルトキ

督促狀ニ指定シタル期限迄ニ稅金及督促手數料ヲ完納シタルトキハ延滯金ヲ徵收セス（同上）

第十二條　質權又ハ抵當權ノ設定セラレタル財產ヲ差押フルトキハ收稅官吏ハ督促手數料、延滯金、滯納處分費及稅金額其ノ他必要ト認ムル事項ヲ其ノ債權者ニ通知スヘシ（明治四十四年勅令第二百八十二號改正）

前項ノ場合ニ於テ抵當證券ヲ發行シタル抵當權ニ付其ノ證券所持人分明ナラサルトキハ債務者又ハ證券ノ讓渡人等ニ付調査シ尙分明ナラサルトキハ前項ニ依リ通知スヘキ事項ヲ公告スヘシ（昭和六年勅令第百八十八號追加）

前二項ノ場合ニ於テ國稅ニ對シ先取權ヲ有スル債權者其ノ權利ヲ行使セムトスルトキハ證憑書類ヲ添ヘ其ノ事實ヲ證明スヘシ（同上）

第十三條　民事訴訟法ニ依リ假差押ヲ受ケタル財產ヲ差押フルトキハ之ヲ執行裁判所又ハ執達吏若ハ强制管理人ニ通知スヘシ假處分ヲ受ケタル財產ヲ差押フルトキ亦之ニ準ス

第十四條　差押フヘキ財產管轄區域外ニ在ルトキハ收稅官吏ハ其ノ財產所在地ノ收稅官吏ニ滯納處分ノ引繼ヲ爲スヘシ

第十五條　差押フヘキ財產數人ノ共有ニ係ルトキハ滯納者ニ屬スル持分ニ就キ滯納處分ヲ爲シ其ノ持分ノ定メナ

キモノハ持分相均シキモノトシテ處分スヘシ

第十六條　收稅官吏財產ヲ差押ヘタルトキハ左ノ事項ヲ記載シタル差押調書ヲ作リ之ニ署名捺印（記名捺印ヲ含ム以下同シ）スヘシ（明治四十四年勅令第二百八十二號、昭和十九年勅令第百八十二號改正）

一　滯納者ノ氏名及住所若ハ居所

二　差押財產ノ名稱、數量、性質、所在其ノ他重要ナル事項

三　差押ノ事由

四　調書ヲ作リタル場所、年月日

國稅徵收法第二十一條ノ場合ニ於テハ收稅官吏ハ立會人ト共ニ差押調書ニ署名捺印スヘシ但シ立會人ニ於テ署名捺印ヲ拒ミ又ハ署名捺印スルコト能ハサルトキハ其ノ理由ヲ附記スヘシ（同上）

收稅官吏差押調書ヲ作リタルトキハ其ノ謄本ヲ滯納者及立會人ニ交付スヘシ但シ債權及所有權以外ノ財產權ノミヲ差押ヘタルトキハ此ノ限ニ在ラス（同上）

第十七條　收稅官吏財產ヲ差押ヘタル場合ニ於テ滯納者又ハ第三者ヨリ督促手數料、延滯金、滯納處分費及稅金ヲ完納シタルトキハ其ノ財產ノ差押ヲ解クヘシ（明治四十四年勅令第二百八十二號改正）

第十八條　公賣ハ入札又ハ競賣ノ方法ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第十九條　國稅徵收法第二十四條ニ依リ公賣ヲ爲サムトスルトキハ左ノ事項ヲ公告スヘシ（明治四十四年勅令第二百八十二號改正）

一　滯納者ノ氏名及住所若ハ居所

二　公賣財產ノ名稱、數量、性質、所在其ノ他重要ナル事項

三　入札又ハ競賣ノ場所、日時

四　開札ノ場所、日時

五　保證金ヲ徵收スルトキハ其ノ金額

六　代金納付ノ期限

第二十條　財產公賣ノ場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ加入保證金又ハ契約保證金ヲ徵スヘシ

加入保證金又ハ契約保證金ハ國債ヲ以テ之ニ代用スルコトヲ得（大正九年勅令第五百八十九號改正）

落札者又ハ買受人義務ヲ履行セサルトキハ其ノ保證金又ハ之ニ代用シタル國債ハ之ヲ政府ノ所得トス（同上）

第二十一條　公賣ハ財產所在ノ市區町村內ニ於テ之ヲ爲スヘシ但シ收稅官吏必要ト認ムルトキハ他ノ地方ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得

第二十二條　公賣ハ公告ノ初日ヨリ十日ノ期間ヲ過キタル後之ヲ執行スヘシ但シ其ノ物件不相應ノ保存費ヲ要スルモノ又ハ著シク其ノ價格ヲ減損スルノ虞アルモノナルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十三條　財產ヲ公賣セムトスルトキハ收稅官吏ハ其ノ財產ノ價格ヲ見積リ之ヲ封書トシ公賣ノ場所ニ置クヘシ

第二十四條　賣却シタル財產ニ付滯納者ヲシテ權利移轉ノ手續ヲ爲サシムル必要アルトキハ收稅官吏ハ期限ヲ指定シ其ノ手續ヲ爲サシムヘシ（明治三十八年勅令第六十七號改正）

前項ノ期間內ニ滯納者其ノ手續ヲ爲ササルトキハ收稅官吏ハ滯納者ニ代リ之ヲ爲スコトヲ得

第二十五條　入札ノ方法ヲ以テ公賣ニ付スル場合ニ於テ落札トナルヘキ同價ノ入札ヲ爲シタル者二名以上アルトキハ其ノ同價ノ入札ヲシテ追加入札ヲ爲サシメ落札者ヲ定ム

第二十六條　財產ヲ公賣ニ付スルモ買受望人ナキカ又ハ其ノ價格見積價格ニ達セサルトキハ更ニ公賣ヲ爲スコトアルヘシ

第二十七條　公賣財產ノ買受人代金納付ノ期限マテニ其ノ代金ヲ完納セサルトキハ收稅官吏ハ其ノ賣買ヲ解除シ更ニ之ヲ公賣ニ付スヘシ

第二十八條　前二條ニ依リ再公賣ヲ爲ス場合ニ於テハ第二十二條ノ期間ヲ短縮スルコトヲ得

第二十九條　國稅徵收法第四條ノ一第一號乃至第六號ニ該當スル揚合ニ於テハ收稅官吏ハ當該官廳、公共團體、執行裁判所、執達吏、强制管理人、破產管財人又ハ淸算人ニ督促手數料、延滯金、滯納處分費及滯納稅金ノ交付ヲ求ムヘシ但シ他ニ差押フヘキ財產アルトキハ之ヲ差押フルコトヲ妨ケス（明治四十四年勅令第二百八十二號、昭和六年勅令第百八十八號、同十五年勅令第百五十九號改正）

第三十條　滯納處分ヲ結了シタルトキハ收稅官吏ハ其ノ處分ニ關スル計算書ヲ作リ之ヲ滯納者ニ交付スヘシ賣却シタル財產ニ對シ質權又ハ抵當權ヲ有スル者ハ其ノ計算ニ關スル記錄ノ閱覽ヲ收稅官吏ニ求ムルコトヲ得

第三十一條　納稅告知督促及滯納處分ニ關スル公告ハ稅務署ニ之ヲ爲スヘシ但シ必要ト認ムルトキハ稅務署ノ外適當ノ揚所ニ又ハ他ノ方法ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

附　則

第三十二條　市制町村制ヲ施行セサル地方（稅務署所在地ヲ除ク）ノ戶長ハ稅務署收稅官吏ノ通知ヲ受ケ其ノ町村內ノ國稅（酒類、酒精、酒精含有飲料並醬油ノ造石稅及麥酒稅ヲ除ク）ヲ徵收シ之ヲ日本銀行ニ拂込ムヘシ（大正十一年勅令第百七十號改正）

第三十三條　前條ニ依リ徵收スヘキ國稅ヲ其ノ納期內ニ完納セサル者アルトキハ戶長ハ本則中ニ規定セル市町村ノ例ニ準シ所轄稅務署ニ報告スヘシ

第三十四條　本令中市町村ニ關スル規定ハ國稅徵收法第三十三條ニ依リ指定セラレタル公共團體ニ之ヲ準用ス

第三十五條　本令ハ明治三十五年法律第三十六號國稅徵收法中改正法律施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十年勅令第二百二十一號ハ之ヲ廢止ス

附　則（明治三十八年勅令第六十七號）

本令ハ明治三十八年法律第四十六號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（明治四十四年勅令第二百八十二號）

本令中延滯金ニ關スル規定ハ本令施行後ニ於テ納期ノ開始スル明治四十四年分租稅ヨリ之ヲ適用ス

附　則（大正九年勅令第五百八十八號）

本令ハ大正十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（大正十一年勅令第百七十號）

本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（昭和六年勅令第百八十八號）

本令ハ昭和六年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（昭和十一年勅令第三十五號）

本令ハ昭和十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（昭和十一年勅令第三百三十三號）

本令ハ昭和十一年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十年勅令第百九十五號ハ之ヲ廢止ス

附　則（昭和十二年勅令第四百二十六號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス（昭和十二年八月十二日ヨリ施行）

附　則（昭和十五年勅令第百五十九號）

本令ハ昭和十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前ニ賦課シ若ハ賦課スヘカリシ又ハ徵收シ若ハ徵收スヘカリシ第三種ノ所得ニ係ル所得稅、個人ノ營業收益稅、乙種ノ資本利子稅、第三種所得稅ヲ納ムル者ノ所得特別稅及個人ノ臨時利得特別稅ニ關シテハ國稅徵收法施行規則第一條ノ二ノ改正規定ニ拘ラス仍從前ノ例ニ依ル

附　則（昭和十五年勅令第六百六十四號）

本令ハ昭和十五年度後半期分交付金ヨリ之ヲ適用ス

附　則（昭和十七年勅令第百五十號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

國稅徵收　國稅徵收法施行規則　一九

附　則（昭和十八年勅令第六百七十八號）

本令ハ昭和十八年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（昭和十九年勅令第百八十二號）

第二十二條　本令ハ昭和十九年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第三十二條　酒類造石稅及本令施行前督促ヲ爲シタル國稅ニ對スル延滯金ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

第三十三條　明治三十三年勅令第四十七號及昭和十五年勅令第百八十七號ハ之ヲ廢止ス

附　則（昭和二十一年勅令第四百十四號）

第二十一條　この勅令は、公布の日から、これを施行する。（昭和二十一年九月一日公布）

○國稅徵收法施行細則

（明治三十六年六月二十六日大藏省令第十號）

改正　明治三三年藏令九號　同三四年藏令二號　同年藏令一八號　同三五年藏令八號　同年藏令一六號　同年藏令一九號　同四〇年藏令一二號　同年藏令四二號　同四一年藏令一五號　同四四年藏令四一號　大正二年藏令一二號　同四年藏令第二號　同年藏令一八號　同五年藏令三三號　同一一年藏令二八號　昭和六年藏令二六號　同一五年藏令二七號　同一九年藏令三一號　同二〇年藏令二七號　同二一年藏令八號

第一條　國稅徵收法施行規則第一條ノ納稅告知書ハ稅務署長ニ於テ第一號書式ニ依リ之ヲ調製スヘシ（明治三十四年大藏省令第十八號、同三十五年大藏省令第二十六號改正）

第二條　市町村ノ徵收スヘキ國稅ハ稅務署長ニ於テ第二號書式ノ納額通知書ヲ調製シ之ヲ市町村ニ送附スヘシ其ノ異動ヲ生シタルトキハ更ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ（明治三十五年大藏省令第二十六號、昭和六年大藏省令第二十六號改正）

第二條ノ二　稅務署長ハ納稅人又ハ市町村ノ爲便宜ト認ムル納付場所ヲ指定スヘシ

納稅人又ハ市町村ハ指定ノ納付場所以外ノ地ニ於テ納付スルヲ便宜トスルトキハ稅務署ニ申告シテ納付場所ノ變更ヲ求ムルコトヲ得（明治三十五年大藏省令第二十六號、同四十四年大藏省令第四十一號改正）（第三項）（削除）（大正四年大藏省令第二號、同年大藏省令第十八號削除）

第三條ノ一　市町村第二條ノ納額通知書ヲ受ケタルトキハ第三號書式ノ納稅告知書ヲ調製シ之ヲ納稅人ニ交付スヘシ（明治三十五年大藏省令第八號、昭和六年大藏省令第二十六號、同二十年大藏省令第二十七號改正）

第三條ノ二　納稅人納稅告知書ヲ受ケタルトキハ稅金ニ納稅告知書ヲ添ヘ之ヲ指定ノ場所ニ納付スヘシ（明治三十五年大藏省令第八號改正）

第四條　市町村其ノ領收シタル稅金ヲ日本銀行ニ送付スルトキハ第四號書式ノ送付書ヲ添付スヘシ（大正十一年大藏省令第二十八號改正）

第五條　市町村滯納ノ報告ヲ爲ストキハ第五號書式ノ滯納報告書ヲ調製シ稅務署ニ送付スヘシ送付後ニ其ノ報告書ニ異動ヲ生シタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ（明治三十五年大藏省令第二十六號、昭和六年大藏省令第二十六號改正）

第六條ノ一　稅務署長稅金納付ノ督促ヲ爲ストキハ第六號書式ノ督促狀ヲ發スヘシ但シ延滯金ヲ徵收スヘキモノニ付テハ第七號書式ニ依ルヘシ（明治三十四年大藏省令第十八號、同三十五年大藏省令第八號、同四十四年大藏省令第二十六號、同四十五年大藏省令第十二號、同四十四年大藏省令第四十一號改正）

第六條ノ二　前條ノ督促ヲ爲ス場合ニ於テ日本銀行ニ納付セシムルトキハ左ノ各號ニ依ルヘシ（明治四十年大藏省令第十二號、同四十四年大藏省令第十四號、大正十一年大藏省令第二十八號、昭和二十年大藏省令第二十七號改正）

一　市町村ノ納稅告知書ヲ發シタル稅金ニ付テハ第八號書式及第九號書式ノ納付書ヲ添付スヘシ

二　收稅官吏ノ納稅告知書ヲ發シタル稅金ニ付テハ第九號書式ノ納付書ヲ添付スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ第二條ノ二ヲ準用ス（大正四年大藏省令第十八號改正）

第六條ノ三　納稅人督促ヲ受ケ稅金及督促手數料ヲ日本銀行ニ納付スヘキ場合ニ於テハ前條第一號ノ納付書又ハ第二號ノ納付書及收稅官吏ノ發シタル納稅告知書ヲ添付シ稅務署ニ納付スヘキ場合ニ於テハ市町村又ハ收稅官吏ノ發シタル納稅告知書ヲ添付スヘシ（明治四十四年大藏省令第四十一號、大正十一年大藏省令第二十八號改正）

第六條ノ四　督促狀ニ記載スヘキ納付場所ヲ稅務署ト指定シタル場合ニ於テ市町村ノ納稅告知書ヲ發シタル稅金ナルトキハ收稅官吏ハ其ノ納稅告知書ヲ以テ稅金ヲ領收スルコトヲ得（明治三十五年大藏省令第二十六號、明治四十四年大藏省令第四十一號改正）

第六條ノ五　前三條ノ規定ハ滯納報告後督促狀發付前稅金ヲ領收スル場合ニ之ヲ準用ス（明治四十四年大藏省令第四十一號改正）

第六條ノ六　延滯金ヲ納付スヘキ場合ニ於テハ稅金及督促手數料ト共ニ之ヲ稅務署ニ納付スヘシ（明治四十四年大藏省令第四十一號改正）

前項ノ場合ニ於テハ第六條ノ三ノ規定ヲ準用ス

第七條　削除（大正五年大藏省令第三十三號削除）

第八條　削除（明治四十四年大藏省令第四十一號削除）

第九條　稅務署長ハ國稅滯納者ノ財產差押ヲ命シタル收稅官吏ニ左ノ證票ヲ交付スヘシ（明治三十四年大藏省令第十八號、同三十五年大藏省令第八號、同年大藏省令第二十六號改正）

用紙厚紙　縱二寸五分　橫一寸五分

表

第「何」號

國稅滯納者
財產差押
證票

稅務署
印

裏

「何」稅務署

「官氏名」

第十條　收稅官吏債權ノ差押ヲ爲ストキハ債務者ニ對シ第十號書式、債權及所有權以外ノ財產權ノ差押ヲ爲ストキハ權利者ニ對シ第十一號書式ノ差押通知書ヲ發スヘシ（明治四十四年大藏省令第四十一號改正）

第十條ノ二　國稅徵收法施行規則第十二條ノ公告ハ第十一號ノ二書式ニ依リ之ヲ爲スヘシ（昭和六年大藏省令第八號、同四十四年大藏省令第四十一號改正）

第十一條　國稅徵收法施行規則第十六條ノ差押調書ハ第十二號書式ニ依リ之ヲ調製スヘシ（明治三十五年大藏省令第八號、同四十四年大藏省令第四十一號改正）

第十二條　收稅官吏財產ヲ賣却セムトスル場合ニ其ノ價格ヲ見積リ難キモノアルトキハ適當ナル鑑定人ヲ選ミ其ノ評價ヲ爲サシムルコトヲ得（明治三十五年大藏省令第八號改正）

第十三條　入札ノ方法ヲ以テ財產ヲ公賣スル場合ニハ買受望人ハ其ノ住所氏名買受財產ノ種類員額及入札價格ヲ記シタル入札書ヲ封緘シ差出スヘシ（同上）

第十四條　入札書ハ公告ニ示シタル開札ノ場所、日時ニ入札人又ハ其ノ代理人開札ノ場所ニ出席セサルトキハ其ノ立會ヲ要セスシテ開札スルコトヲ得

第十五條　競賣ノ方法ヲ以テ財產ヲ公賣スルトキハ競賣人ヲ選ミ之ヲ取扱ハシムルコトヲ得（明治三十五年大藏省令第八號改正）

第十六條　加入保證金又ハ契約保證金ノ割合ハ買受望人各自ノ公賣財産見積價格百分ノ五以上トシ公賣ノ時々之ヲ定ムルモノトス（明治四十年大藏省令第四十二號改正）

第十七條　公賣財産ノ買受人又ハ競賣人ハ納付書ヲ添（其ノ代金ヲ稅務署長ニ納付スヘシ（明治三十四年大藏省令第十八號、同三十五年大藏省令第二十六號改正）

第十七條ノ二　國稅徵收法第二十八條ニ依リ抵當證券所持人ニ債務額ヲ交付スル場合ニ於テハ抵當證券ヲ提出セシメ左ノ取扱ヲ爲スヘシ（昭和六年大藏省令第二十六號追加）

一　債務額ノ全部ヲ交付シタルトキハ其ノ提出ニ係ル抵當證券ニ第十二號ノ二書式ノ通知書ヲ添付シ之ヲ證券交付登記所ニ送付スヘシ

二　前號以外ノ場合ニ於テハ其ノ提出ニ係ル抵當證券ニ第十二號ノ三書式ノ通知書ヲ添付シ之ヲ證券所ニ送付シテ其ノ記載ノ變更ヲ受ケタル後抵當證券所持人ニ還付スヘシ此場合ニ於テ共同證券ニシテ數個ノ登記所ニ於テ記載ノ變更ヲ要スルトキハ其ノ一ノ登記所ニ證券ヲ送付シ其ノ登記所ヨリ順次他ノ登記所ニ之ヲ轉送スヘキ旨ヲ囑託スルコトヲ得

第十八條　督促又ハ滯納處分ニ關シ使丁ヲ以テ書類ノ送達ヲ爲ストキハ第十三號書式ノ送達書ニ受取人ノ署名捺印ヲ求ムヘシ（明治三十六年大藏省令第八號、同三十六年大藏省令第十二號、同四十四年大藏省令第四十一號改正）

第十九條　滯納處分ヲ結了シタルトキハ收稅官吏ハ第十四號書式ノ計算書ヲ調製シ之ヲ滯納者ニ交付スヘシ（明治四十四年大藏省令第四十一號改正）

第二十條　收稅官吏ハ債權者又ハ滯納者ニ交付スヘキ金錢ヲ供託シタルトキハ其ノ旨債權者又ハ滯納者ニ通知スヘシ（同上）

附　則（明治四十四年大藏省令第四十一號）

本令ハ明治四十四年勅令第二百八十二號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ明治四十五年三月三十一日迄ハ延滯金ヲ徵收スヘキモノニ對スル督促狀ヲ除ク外從來ノ書式ニ依ルコトヲ得

附　則（大正四年大藏省令第二號）

本令ハ大正四年勅令第六號施行ノ日ヨリ施行ス

附　則（昭和十五年大藏省令第二十七號）

本令ハ昭和十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十四年度分以前ノ地租ニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル

附　則（昭和十九年大藏省令第三十一號）

本令ハ昭和十九年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ書式ニ依ル用紙ハ當分ノ內仍之ヲ使用スルコトヲ得

附　則（昭和二十年大藏省令第二十七號）

本令ハ昭和二十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（昭和二十一年大藏省令第八十八號）

本令は、公布の日から、これを施行する。（昭和二十一年八月九日公布）

從前の書式による用紙は、當分の內なほ、これを使用することが出來る。

第一號書式

領収證書

第何號	(納入)											
何年度	住所											
會計名	氏名											
大藏省主管	租稅	何	稅務署									
金額	萬	千	百	十	圓	十	錢	何何期何稅(目)				年分

何年何月何日領収

日本銀行何店㊞

「何稅務署收入官吏

官氏名㊞」

領収濟通知書

第何號	(納入)											
何年度	住所											
會計名	氏名											
大藏省主管	租稅	何	稅務署									
金額	萬	千	百	十	圓	十	錢	何何期何稅(目)				年分

何年何月何日領收

日本銀行何店㊞

「何稅務署收入官吏

官氏名㊞」

納稅告知書

第何號	(納入)											
何年度	住所											
會計名	氏名											
大藏省主管	租稅	何	稅務署									
金額	萬	千	百	十	圓	十	錢	何何期何稅(目)				年分

納期日　何年何月何日限

納付場所　日本銀行何店又ハ何稅務署「又ハ日本銀行本店、支店、代理店、國稅代理店又ハ何稅務署」

上記ノ通納付セラルベシ

何年何月何日

歲入徵收官

何稅務署長官氏名㊞

備考

一　用紙寸法各片日本標準規格A6ノ輪廓寸法各片

二　領收濟通知書及領收證書用紙ノ番號、年度、會計名、稅務署名、金額、科目及納入(住所氏名)ハ總テ納稅告知書發行者ニ於テ記載スルモノトス

三　番號、年度及金額ヘ亞剌比亞數字ヲ以テ明瞭ニ記載スルモノトス

四　「還付稅」ニ關スル記載ハ同一事業年度ノ法人稅、法人臨時利得稅及法人事業稅ハ之ヲ並記シ其ノ合計額ヲ揭記スルモノトス、此ノ場合ニ於テハ「租稅」ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

五　還付稅收入官吏ハ大正十一年大藏省令第二十號ノ現金領收證書ヲ發行スルコトヲ得

六　收稅官吏ニ於テ稅金ノ領收ヲ爲スト雖モ本書中所定ノ事項ヲ記入シ檢印ヲ爲サザル間ハ本書ヲ以テ領收濟通知書ト爲スコトヲ得ス

七　收稅官吏ニ於テ領收濟年月日ヲ記入シ檢印ヲ爲シ領收濟通知書ヲ省略スルコトヲ得但シ所得稅法第九十三條第一項ノ規定ニ依リ納稅告知書發行者ニ於テ記載スルモノトス

第二號書式

納額通知書

第何號	何市町村分	
何年度		
會計名		
大藏省主管	租稅	何　稅務署
納期日	何年何月何日限	
送付場所	日本銀行何店「又ハ日本銀行本店、支店又ハ代理店」	
金	萬　千　百　十　圓　十　錢	何年何期分何稅(目)

上記ノ通及通知候也

何年何月何日

歳入徵收官

何　稅務署長　官　氏　名　印

備考

一　用紙寸法日本標準規格A6

二　一人別納額ノ通知ヲ要スル場合ニ於テハ一人別納額調書ヲ添付スルモノトス但シ人員少キトキハ金額ノ下ニ記載スルモ妨ナシ

三　番號、年度及金額ハ亞剌比亞數字ヲ以テ明瞭ニ記入スルモノトス

四　地方分與稅分與金特別會計ニ屬スル地租、家屋稅及營業稅ノ歳入金ニ付テハ、「租稅」ヲ「還付稅收入」トスルモノトス

第三號書式

領收證書

第何號	(納人)住所	
何年度	氏名	
會計名	租稅	
金	萬　千　百　十　圓　十　錢	何年何期分何稅(目)

何年何月何日　領收　取扱主任印

「領收者　氏　名　印」

納稅告知書

第何號	(納人)住所	
何年度	氏名	
會計名	租稅	
金	萬　千　百　十　圓　十　錢	何年何期分何稅(目)

納期日　何年何月何日限

納付場所　何役場

上記ノ通納付セラルベシ

何年何月何日

何市町村長　何　某　印

備考

一　用紙寸法適宜(昭和二十年大藏省令第二十七號改正)

二　市町村ニ於テ稅金ノ取扱上必要アルトキハ領收證書ノ外ニ別符ヲ附スルモ妨ナシ

三　番號、年度及金額ハ亞剌比亞數字ヲ以テ明瞭ニ記載スルモノトス

四　地方分與稅分與金特別會計ニ屬スル地租、家屋稅及營業稅ノ歳入金ニ付テハ「租稅」ヲ「還付稅收入」トスルモノトス

五　削除(昭和二十年大藏省令第二十七號)

六　國稅ト同一納期タル東京都稅、北海道地方稅、府縣稅、市町村稅ヲ並記セントスルトキハ都長官、道廳長官又ハ府縣知事ノ認可ヲ得ルコトヲ要ス

第四號書式

領收證書

第何號														
何年度	何市町村													
會計名														
大藏省主管	租稅	何	稅務署											
金	萬	千	百	十	圓	十	錢	何何期何稅(目)	年分					

何年何月何日領收

日本銀行何店囘

第四號書式

領收濟通知書

第何號														
何年度	何市町村													
會計名														
大藏省主管	租稅	何	稅務署											
金	萬	千	百	十	圓	十	錢	何何期何稅(目)	年分					

何年何月何日領收

日本銀行何店囘

圖錄參考見第四百三十九頁

第四號書式

送付書

第何號														
何年度	何市町村													
會計名														
大藏省主管	租稅	何	稅務署											
金	萬	千	百	十	圓	十	錢	何何期何稅(目)	年分					

備考

一　用紙寸法各片日本標準規格A6横長九百三十五粍

二　領收濟通知書及領收證書用紙ノ番號、年度、會計名、稅務署名、金額、科目及市町村名ハ總テ市町村ニ於テ記載スルモノトス

三　番號、年度及金額ハ亞刺比亞數字ヲ以テ明瞭ニ記載スルモノトス

四　地方分權稅分與金竝別會計ニ屬スル地租、家屋稅及營業稅ノ歲入金ニ付テハ「租稅」ヲ「還付稅收入」トスルモノトス

圖錄參考見第四百三十九頁

第五號書式

昭和何年何月何日

何稅務署長官氏名宛

何年度何期何稅（目）滯納報告書

稅額	事由	住所	氏名
一、〇〇〇	何々	何町村大字何々番地	何某
二、〇〇〇	何々	何郡市何町村大字何々番地 何町村大字何々番地	何管理人何某
計 三、〇〇〇			

何郡市町村長　何某　㊞

第六號書式

督促狀

第何號

（納人）

何年度　租稅　何稅（項）

住所

氏名

一金何程

一金壹圓

右の金額は、何月何日限り、日本銀行何店「又は日本銀行本店、支店、代理店又は國稅代理店」（又は何稅務署）へ納めて下さい。

何年何月何日

何稅務署長

官氏名　㊞

何年何期分

何稅（目）

督促手數料

御注意

右の期限までに完納されないときは、已むを得ず、國稅徵收法の規定によって、財產差押をしなければならないことになりますから、特に御注意願ひます。

備考

一　地租、家屋稅及び個人營業稅の歲入金については、「租稅」とあるのを「還付稅收入」とすること。

二　同一事業年度の法人稅、法人臨時利得稅及び法人營業稅は、これを竝記すること。この場合においては「租稅」とあるのを「租稅還付稅收入」と記載すること。

第七號書式

第何號	（納人）	住所	氏名
何年度	租稅	何稅	（項）

督促狀

何年何期分
何稅（目）
督促手數料
延滯金

一金　何程
一金　壹圓

一納期限の翌日より稅金額百圓につき一日四錢の割合による金額
右の金額は、何月何日限り、日本銀行何店「又は日本銀行本店、支店又は代理店」（又は何稅務署）へ納めて下さい。
右の期限までに稅金及び督促手數料を完納されれば、延滯金を納める必要はありません。

何年何月何日

何稅務署長
官氏名㊞

●御注意
右の期限までに完納されないときは、已むを得ず、國稅徵收法の規定によつて、財產差押をしなければならないことになりますから、特に御注意願ひます。

備考
一　地租、家屋稅及び個人營業稅の歲入金については、「租稅」とあるのを「還付稅收入」とすること。
二　同一事業年度の法人稅、法人臨時利得稅及び法人營業稅は、これを竝記すること。この場合においては「租稅」とあるのを「租稅　還付稅收入」と記載すること。
三　日本銀行を指定したときは、本文「納めて下さい」の下に次の但し書を加へること。
「但し、同日を經過したときは、何稅務署へ納めて下さい。」

領收濟通知書

第何號	（納人）	住所	氏名
何年度			
會計名			

大藏省主管	租稅	何稅務署
金	萬 千 百 十 圓 十 錢	何年分 何期 何稅（目）

何年何月何日領收
日本銀行何店㊞
「何稅務署收入官吏
官氏名㊞」

領收證書

第何號	（納人）	住所	氏名
何年度			
會計名			

大藏省主管	租稅	何稅務署
金	萬 千 百 十 圓 十 錢	何年分 何期 何稅（目）

何年何月何日領收
日本銀行何店㊞
「何稅務署收入官吏
官氏名㊞」

第八號書式

納付書

第何號	（納人）住所 氏名			
何年度				
會計名				
大藏省主管	租稅	何 稅務署		
金	萬 千 百 十 圓 十 錢			何年分 何期分 何稅(目)

指定納期日　何年何月何日限

納付場所　日本銀行何店（日本銀行本店、支店、代理店、國稅代理店）

備考

一　用紙寸法各片日本標準規格A6輪廓寸法各片縱百三十粍横九十五粍

二　領收濟通知書及領收證書用紙ノ番號、年度、會計名、稅務署名、金額、科目及納人（住所氏名）ハ總テ納付書作成ノトキ記載スルモノトス

三　番號、年度及金額ハ亞刺比亞數字ヲ以テ明瞭ニ記載スルモノトス

四　地方分與稅分與金特別會計ニ屬スル地租、家屋稅及營業稅ノ歲入金ニ付テハ「租稅」ヲ「還付稅收入」トスルモノトス

五　削除（昭和二十年省令第二十七號）

六　收稅官吏本書ニ依リ稅金ヲ領收スルトキハ大正十一年大藏省令第二十號ノ現金領收證書ヲ發行スルコトヲ要セス

七　收稅官吏ニ於テ領收ヲ爲ストキハ本書式納付書中餘白ニ領收濟年月日ヲ記入シ檢印ヲ爲シ領收濟通知書ヲ省略スルコトヲ得

第九別書式

領收證書

第何號	（納人）住所 氏名		
何年度			
會計名			
大藏省主管	雜收入	何 稅務署	
金	圓 十 錢		手數料

何年何月何日領收

日本銀行何店印

「何稅務署收入官吏

官氏名印」

領收濟通知書

第何號	（納人）住所 氏名		
何年度			
會計名			
大藏省主管	雜收入	何 稅務署	
金	圓 十 錢		手數料

何年何月何日領收

日本銀行何店印

「何稅務署收入官吏

官氏名印」

備考

一　用紙寸法ハ日本標準規格A6ノ輪廓寸法ニ依ルモノトス

二　領收濟通知書及領收證書用紙ハ縱寸法十三糎五橫寸法九十糎ノ模造白紙ニ稅務署名、年度、科目及納入（住所氏名）金額、領收濟通知書及領收證書ノ總番號、年度、科目及金額ヲ記載スルモノトス

三　番號、年度及金額ハ亞剌比亞數字ヲ以テ明瞭ニ記載スルモノトス

四　督促手數料ニシテ租稅ト所屬年度ノ同一ナルモノハ第八號書式ノ納付書ニ科目及金額ヲ竝記兼用シ本書式ノ納付書ヲ省略スルコトヲ得

五　收稅官吏本書ニ依リ督促手數料延滯金ヲ領收スルトキハ大正十一年大藏省令第二十號ノ領收證書ヲ發行スルコトヲ得

六　收稅官吏ニ於テ第二十號ノ現金領收證書ヲ爲ストキハ本書納付書ヲ省略スルコトヲ得

第十號書式

納付書

第何號	（納入）		
何年度	住所		
會計名	氏名		
大藏省主管	雜收入	何稅務署	
金		圓 十 錢	手數料

指定納期日　何年何月何日限

納付場所　日本銀行何店（日本銀行本店、支店、代理店、國稅代理店）

第十一號書式

債權差押通知書

右債權者ノ滯納ニ係ル何稅金何程、督促手數料、延滯金及滯納處分費金何程徵收ノ爲（〔明治〕何年何月何日債務者ヨリ支拂フヘキ何々金何程ノ內金何程）ヲ差押フルニ付（〔明治〕何年何月何日迄ニ本官ニ支拂フヘキモノトス此ノ通知ヲ受ケタル後債權者ニ對シ支拂ヲ爲スモ其ノ支拂ハ無效タルヘシ）右通知候也

〔明治〕何年何月何日

何府縣何郡市何町村大字何々番地

何稅務署長

官氏名㊞

何府縣何郡市何町村大字何々番地

債權者　何某

何府縣何郡市何町村大字何々番地

債務者　何某

備考

一　債務者官廳ナルトキハ其ノ支出官氏名、法人ナルトキハ其ノ法人ノ名ヲ記入スルモノトス（大正十一年第十八號改正）

二　債權ノ目的カ金錢以外ノモノナルトキハ其ノ名稱數量其ノ他重要ナル事項ヲ明記スルモノトス

第十一號書式

何々權差押通知書

一　差押財產權ノ表示

（名稱、數量、性質、所在其ノ他重要ナル事項）

何年度何稅何期分滯納金何程、督促手數料及延滯金何程徵收ノ爲前記ノ財產ヲ差押フルモノ也

右通知ス

（明治）何年何月何日

何府縣何郡市何町村大字何々番地

（權利者）何　某　宛

何稅務署長

官氏名　印

第十一號ノ二書式

抵當證券ノ目的タル抵當權設定財產差押公告

何府縣何郡市何町村大字何々番地

滯納者　何　某

一　抵當證券ノ番號
二　抵當權ノ目的タル差押財產ノ表示
三　抵當權設定者ノ住所氏名
四　抵當權ノ順位及登記ノ年月日
五　債務者ノ住所氏名
六　登記簿ニ表示シタル抵當權者ノ住所氏名
七　登記所ノ表示
八　證券作成ノ年月日

右何年度何稅何期分滯納金何程、督促手數料、延滯金及滯納處分費何程徵收ノ爲何年何月何日前記財產差押ヘタルニ付國稅徵收法施行規則第十二條第三項ニ依リ權利ヲ行使セムトスル者ハ速ニ當署ニ申出ツヘシ

右公告ス

何年何月何日

何稅務署

第十二號書式

差押調書

何府縣何郡市何町村大字何々番地
滯納者　何　某

一　差押財産ノ表示
（名稱、數量、性質、所在其ノ他重要ナル事項）

右何年度何稅何期分滯納金何程、督促手數料、延滯金何程徵收ノ爲何月何日（本人「又ハ本人不在ニ付何某」立會ノ上）前記ノ財産ヲ差押フルモノ也

（明治）何年何月何日何所ニテ此ノ調書ヲ作ル

何稅務署
官　氏　名㊞

何府縣何郡市何町村何々番地
立會人　何　某㊞

備考
一　滯納者其ノ他立會人ヲシテ差押財産ノ保管ヲ爲サシムルトキ若ハ立會人ニ本書ノ謄本ヲ交付シタルトキハ保管又ハ受領ノ旨ヲ本書ノ末尾ニ記載セシメ署名捺印ヲ徵シ保管證又ハ受領證ニ代フルコトヲ得

第十二號ノ二書式

抵當證券送付通知書

何府縣何郡市何町村大字何々番地
滯納者（又ハ何々）　何　某

一　抵當證券ノ番號
二　賣却シタル抵當權設定財産ノ表示
三　何年何月何日國稅滯納處分ニ依リ賣却
四　何年何月何日債務額全部交付濟

右通知ス

何年何月何日

何稅務署長
官　氏　名㊞

何區裁判所（又ハ何區裁判所何出張所）宛

第十二號ノ三書式

抵當證券送付通知書

一　抵當證券ノ番號

二　賣却シタル抵當權設定財産ノ表示

三　何年何月何日國稅滯納處分ニ依リ賣却

四　何年何月何日債務額ノ內何程交付濟（交付金額ナキトキハ其ノ旨）

右　通知ス

尙抵當證券ハ記載ノ變更ヲ爲シタル上當稅務署ニ返付セラレタシ

何年何月何日

何區裁判所（又ハ何區裁判所何出張所）宛

何稅務署長

官　氏　名印

何府縣何郡市何町村大字何々番地

滯納者（又ハ何々）　何　某

第十三號書式

送達書

送達シタル書名通數	
名宛人ノ住所又ハ居所及氏名	
受取人ノ署名捺印	
送達シタル年月日	
受取人ナキトキ又ハ受取人受取若ハ署名捺印ヲ拒ミタルトキハ其ノ理由	

右ノ通取扱候也

使丁　何　某印

第十四號書式

計算書

收入			支出		
種目	金額		種目	金額	
通貨	一〇〇〇		督促手數料	一〇〇	
何々公債代	三九〇〇〇		延滯金	二〇〇	
何々公債代	一〇〇〇〇		滯納處分費	二〇〇	
			債權者(優先權者)へ交付	一〇〇〇〇	
			稅金	三四〇〇〇	
			債權者へ交付	五〇〇〇	
			滯納者へ還付	五〇〇	
計	五〇〇〇〇		計	五〇〇〇〇	

右ノ通候也

(明治)何年何月何日

何稅務署長
官氏名印

○市町村交付金交付規程

(大正三年五月六日大藏省令第八號)

改正 昭和一一年勅令三二號 同一八年勅令四〇號

第一條 國稅徵收法第五條第二項ニ依リ市町村交付金ハ左ノ二期ニ分チテ之ヲ交付ス

前期 其ノ年四月ヨリ
其ノ年九月迄

後期 其ノ年十月ヨリ
翌年三月迄

第二條 徵收金額ニ對スル交付金ハ每期中ニ國庫ニ送付濟ノ金額、納稅告知書ニ對スル交付金ハ每期中ニ發布シタル納稅告知書數ニ依リ之ヲ計算ス(昭和十一年大藏省令第三十二號追加)

市町村ノ廢置分合アリタル場合ニ於ケル交付金ハ徵收金額竝納稅告知書ヲ廢置分合ノ前後ニ區分シ各別ニ國稅徵收法施行規則第六條ノ二ヲ適用シ之ヲ計算ス(昭和十一年大藏省令第三十二號追加)

國稅徵收法第八條ニ依リ送付ノ責任ヲ免除セラレタル金額ニ付テハ其ノ免除セラレタル日ニ於テ國庫ニ送付シタルモノト看做ス

第三條 市町村ハ每期中ニ發布シタル地租及家屋稅ノ納稅告知書數ヲ前期分ハ十月五日迄ニ後期分ハ四月五日迄ニ所轄稅務署ニ通知スヘシ(昭和十八年大藏省令第四十號追加)

第四條 稅務署長ハ每期中各市町村ニ於テ發布シタル納稅告知書數及國庫ニ送付濟ノ金額ヲ稅目別ニ調査シ前期分ハ十月十五日迄ニ後期分ハ四月十五日迄ニ財務局長ニ報告スヘシ(昭和十八年大藏省令第四十號改正)

前項ノ場合ニ於テ第二條第二項ニ該當スルモノアルトキハ之ヲ區分掲記スヘシ第三條ノ通知ニ付亦同シ(昭和十一年大藏省令第三十二號追加)

附則

本令ハ大正三年度租稅ニ對スル交付金ヨリ之ヲ適用ス

國稅徵收　郵便官署ヲシテ歲入金ノ受入及歲出金ノ繰替拂渡ニ關スル事務ヲ取扱ハシムルノ件

大正二年度以前ノ租稅ニ對スル交付金ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附　則

本令ハ昭和十一年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス（昭和十八年五月十二日公布）

○郵便官署ヲシテ歲入金ノ受入及歲出金ノ繰替拂渡ニ關スル事務ヲ取扱ハシムルノ件

（大正四年一月二十七日勅令第六號）

改正　大正一二年勅六六號、昭和一八年勅八五六號

郵便官署ハ各官廳ノ徵收スル歲入金ノ受入及日本銀行ノ本店、支店又ハ代理店ノ所在地外ニ於テ支拂ヲ要スル歲出金ノ繰替拂渡ニ關スル事務ヲ取扱フコトヲ得其ノ範圍及取扱ニ關スル規定ハ運輸通信大臣大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ム

附　則（大正四年勅令第六號）

本令ハ大正四年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（大正十一年勅令第六十六號）

本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○郵便官署ヲシテ歲入金ノ受入及歲出金ノ繰替拂ヲ取扱ハシムル件ニ關スル規程

（大正四年一月二十八日大藏省令第一號）

改正　大正四年勅令一九號　同一〇年勅令二三號　同一一年勅令二一號　昭和六年勅令一九號　同九年勅令一六號　同一三年勅令六號　同一五年勅令三二號　同一六年勅令第二〇號　同年勅令五三號　同一七年勅令五〇號　同年勅令五七號　同年勅令七七號　同一八年勅令二六號　同年勅令一〇三號　同一九年勅令一〇四號　同二〇年勅令四一號　同二〇年勅令七二號

第一條　大正四年勅令第六號ニ依リ郵便官署ヲシテ取扱ハシムルコトヲ得ル歲入金ノ受入及歲出金ノ繰替拂ハ左ニ揭クルモノニ限ル（大正十一年大藏省令第二十二號、昭和六年大藏省令第九號、同年大藏省令第六號、同十三年大藏省令第三十二號、同年大藏省令第五十九號改正）

一　稅務署及樺太支廳ノ直接徵收スル國稅金（昭和十七年大藏省令第百四號改正）

二　東京都、北海道廳、樺太廳、府縣、稅務署、稅務局ノ收納スル國庫ノ諸收入金（昭和六年大藏省令第五十三號、同十七年大藏省令第五十七號改正）

二ノ二　警視廳、北海道廳及府縣ニ於テ收納スル健康保險、船員保險及厚生年金保險ニ關スル諸收入金（昭和九年大藏省令第五十號、同年大藏省令第五十七號、同十九年大藏省令第百四號改正）

三　收入官吏カ日本銀行（本店、支店又ハ代理店ヲ謂フ以下同シ）ニ拂込ムヘキ前三號ノ收入金

三ノ二　專賣官署ノ收入官吏カ日本銀行ニ拂込ムヘキ煙草專賣ニ關スル收入金（昭和六年大藏省令第九號追加、同十七年大藏省令第五十七號改正）

四　市町村カ日本銀行ニ送付スヘキ國稅金（昭和五年大藏省令第二十二號改正）

四ノ二　徵收義務者（國稅徵收法ノ規定ニ依リ市町村ニ於テ徵收スル場合ヲ除ク以下同シ）カ日本銀行ニ拂込ムヘキ國稅徵收ニ關スル郵便官署ヲシテ歲入金ノ受入及歲出金ノ繰替拂ヲ取扱ハシムル件

國稅徵收　郵便官署ヲシテ歳入金ノ受入及歳出金ノ繰替拂ヲ取扱ハシムル件

ニ關スル規程

ムヘキ國稅金（昭和十五年大藏省令第三十二號追加）

四ノ三　臨時租稅措置法第三條若ハ樺太臨時租稅措置令第三十二條又ハ昭和二十一年勅令第四百二十三號第十二條若ハ同年勅令第四百二十四號第二號ノ規定ニ依リ納稅義務者ノ納付スベキ國稅金（昭和二十年大藏省令第四十一號追加、同二十年大藏省令第七十二號改正）

五　日本銀行所在地外ニ於テ債主ニ支拂ヲ要スル歳出金

第二條　歳入徵收官（分掌官ヲ含ム以下同ジ）ハ其ノ在勤廳所在地東京都、北海道廳、樺太廳又ハ府縣管內ニ在ル納入ニ對シ前條第一號乃至第二號ノ二ノ國稅金又ハ諸收入金ヲ徵收セムトスルトキハ納入ニ對シ第一號書式ノ納稅告知書又ハ第二號書式ノ納入告知書ヲ發スルコトヲ得但シ歳入徵收官ニ於テ必要アリト認ムルトキハ郵便局ヲ特ニ指定スルコトヲ得（昭和九年大藏省令第六號、昭和十五年大藏省令第五十九號、同十七年大藏省令第五十七號改正）

第三條　國稅滯納者ニ對シテ督促狀ヲ發スル場合ニ於テハ第三號及第四號書式ノ納付書ヲ督促狀ニ添付スヘシ但シ收稅官吏ノ納稅告知書ヲ發シタル稅金ニ付テハ第三號書式ノ納付書ヲ添付スルコトヲ要セス

健康保險、船員保險又ハ厚生年金保險ニ關スル諸收入金ノ滯納者ニ對シテ督促狀ヲ發スル場合ニ於テハ第四號書式ノ納付書ヲ督促狀ニ添付スヘシ（昭和九年大藏省令第十六號、昭和十五年大藏省令第五十九號、昭和十七年大藏省令第五十七號、同十九年大藏省令第百四號改正）

歳入徵收官在勤廳所在地ノ北海道廳、樺太廳又ハ府縣管內ニ在ル納入ニシテ當該北海道廳、樺太廳又ハ府縣管外ノ郵便局ニ歳入金ヲ納付セムトスルトキハ前項ヲ準用ス（昭和十七年大藏省令第五十七號、同十八年大藏省令第二十六號改正）

第四條　納入前二條ノ納稅告知書、又ハ納付書ヲ受ケタルトキハ現金ニ納稅告知書、納入告知書又ハ納付書ヲ添ヘ指定ノ場所ニ納付スヘシ

第五條　收入官吏カ領收シタル收入金ハ第五號書式ノ現金拂込書ニ依リ所屬歳入徵收官在勤廳所在地ノ東京都、北海道廳、樺太廳又ハ府縣管內ニ在ル便宜ノ郵便局ニ拂込ムコトヲ得但シ專賣官署ノ收入官吏カ領收シタル收入金ハ其ノ在勤廳所在地ノ北海道廳、樺太廳又ハ府縣管內ニ在ル便宜ノ郵便局ニ拂込ムコトヲ得（昭和六年大藏省令第十九號、同十七年大藏省令第五十七號、同十八年大藏省令第二十六號、同十九年大藏省令第百四號改正）

前項ノ場合ニ於テハ出納官吏事務規程第十八條乃至第二十條ノ規定ニ拘ハラス其ノ領收シタル金額ハ每日之ヲ取纏メ翌日限之ヲ拂込ムヘシ（大正十一年大藏省令第二十一號改正）

第六條　市町村ニ對シ稅務署又ハ樺太廳支廳ノ發付スル納額通知書ニ指定スヘキ國稅金ノ送付場所ニ付テハ第二條ノ規定ヲ準用ス（昭和十五年大藏省令第三十二號、同十八年大藏省令第二十六號改正）

第六條ノ二　徵收義務者ハ其ノ徵收シタル國稅金ニ第六號書式ノ送付書ヲ添ヘ前項指定ノ場所ニ送付スヘシ（同上）

市町村ハ其ノ徵收シタル國稅金ニ第六號ノ二書式ノ拂込書竝ニ所定ノ徵收高計算書及明細書ヲ添ヘ其ノ所在地ノ東京都、北海道廳、樺太廳又ハ府縣管內ニ在ル便宜ノ郵便局ニ拂込ムコトヲ得但シ歳入徵收官ニ於テ必要アリト認ムルトキハ豫メ拂込郵便局ヲ指定スルコトヲ得（昭和十五年大藏省令第三十二號、同十八年大藏省令第二十六號、同十九年大藏省令第百四號改正）

第六條ノ三　納稅義務者第一條第四號ノ三ニ規定スル國稅金ヲ納付セムトスルトキハ臨時租稅措置法第三條又ハ樺太臨時租稅措置令第三十二條ノ規定ニ依ルモノニ在リテハ第六號ノ三書式ノ納付書ヲ、昭和二十年勅令第四百二十三號第十二條又ハ同年勅令第四百二十四號第二號ノ規定ニ依ルモノニ在リテハ第三號書式ノ納付書ヲ添ヘ其ノ所在地ノ東京都、北海道廳、樺太廳又ハ府縣管內ニ在ル便宜ノ郵便局ニ納付スルコトヲ得但シ歳入徵收官ニ於テ必要アリト認ムルトキハ豫メ納付郵便局ヲ指定スルコトヲ得（昭和二十年大藏省令第四十一號追加、

同年大藏省令第七十二號改正）

第七條　郵便局ニ於テ納入又ハ市町村ヨリ領收シタル國稅金又ハ諸收入金ニ付テハ歳入徵收官ハ取纏郵便局ヨリ送付スル領收濟通知書ニ依リ徵收簿ニ收入濟額ヲ登記スヘシ（昭和十五年大藏省令第三十二號改正）

第七條ノ二　郵便局ニ於テ第六條ノ二又ハ第六條ノ三ノ規定ニヨリ領收シタル國稅金ニ付テハ歳入徵收官ハ取纏郵便局ヨリ送付スル領收濟通知書又ハ徵收高計算書ニ依リ徵收簿ニ調定濟額及收入濟額ヲ登記スヘシ（昭和十五年大藏省令第三十二號、昭和二十一年大藏省令第四十一號改正）

第八條　收入官吏ハ第五條ニヨリ郵便局ニ拂込タル金額ヲ區別シテ現金拂込仕譯書ヲ作成シ歳入徵收官ニ報告スヘシ（大正十一年大藏省令第二十一號改正）

第九條　歳入徵收官ハ前條ノ報告ニ依リ徵收報告書現金拂込仕譯欄ニ登記シ郵便局出納官吏ノ取扱ヒタル現金振替拂込仕譯ニ付テハ前月送拂込未濟及差引翌月ヘ越高ヲ收入官吏ノ現金拂込仕譯中各相當欄ノ次ニ外書登記スヘシ（大正十年大藏省令第二十三號改正）

第十條　日本銀行ハ取纏郵便局出納官吏ヨリ第七號書式ノ各廳歳入金振替拂込書ニ歳入金振替證券ヲ添ヘ拂込ヲ受ケタルトキハ歳入ニ受入ノ手續ヲ爲シ該證券ヲ添ヘ其旨ヲ日本銀行本店ニ通知スヘシ（大正十一年大藏省令第二十一號、同十九年大藏省令第百四號改正）

第十一條　日本銀行本店ハ前條歳入金振替證券ヲ通信貯金保險局出納官吏ニ提出シ該證券金額ニ相當スル小切手ノ交付ヲ受ケ歳入金ニ關スル決濟手續ヲ爲スヘシ（大正十一年大藏省令第二十一號、昭和十八年大藏省令第百三號、同十九年大藏省令第百四號改正）

第十一條ノ二　支出官ハ日本銀行所在地外ニ於テ債主ニ對シ其ノ所在地又ハ最寄ノ郵便局ヲシテ現金ノ支拂ヲ爲サシムルコトヲ得朝鮮、臺灣、關東州、南洋群島、滿洲國及中華民國ニ在ル支出官（以下單ニ朝鮮等ノ支出官ト謂フ）內地ノ債主ニ支拂ヲ爲ス場合亦同シ（大正十一年大藏省令第二十一號、昭和十八年大藏省令第二十六號改正）

第十二條　支出官前條ノ規定ニ依リ支拂ヲ爲サシメムトスルトキハ其ノ振出ス小切手ノ裏面ニ受取人ノ住所、氏名及何地郵便局ニ於テ支拂ヲ要スル旨ヲ記載シ之ヲ其ノ小切手ノ支拂店ニ送付シ第八號書式ノ郵便局扱歳出支拂通知書ヲ債主ニ送付スヘシ但シ朝鮮等ノ支出官ニ在リテハ該通知書中ノ取纏郵便局ニハ運輸通信大臣ノ指定スル郵便局ヲ記載シ欄外餘白ニ「特扱」ノ印ヲ押捺スルモノトス（同上、昭和十九年大藏省令第百四號改正）

第十三條　日本銀行前條ノ小切手ヲ受ケタルトキハ第九號書式ノ各廳歳出金繰替拂案內書ヲ作成シ之ヲ指定ノ拂渡郵便局ニ送付スヘシ但シ朝鮮、臺灣、關東州、南洋群島、滿洲國及中華民國ニ在ル日本銀行（以下單ニ朝鮮等ニ在ル日本銀行ト謂フ）ハ該繰替拂案內書ノ送付ト同時ニ其ノ旨ヲ日本銀行本店ニ通知スヘシ（同上）

第十四條　日本銀行ハ取纏郵便局ヨリ各郵便局ニ於テ拂渡濟ニ係ル各廳歳出金繰替拂案內書並日計表正本ノ送付ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ當該案內書ノ金額ニ依リ振替拂證書ヲ作成シ取纏郵便局ニ送付ノ上其ノ旨ヲ日本銀行本店ニ通知スヘシ（同上）

第十四條ノ二　日本銀行國庫金取扱規程第三十三條及第四十條ノ規定ハ前二條ノ場合之ヲ準用ス（大正十一年大藏省令第二十一號、昭和十八年大藏省令第二十六號改正）

第十五條　日本銀行本店ハ通信院貯金保險局出納官吏ヨリ第十四條振替拂證書ニ預託金拂込書ヲ添ヘ振替拂込ノ請求ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ歳出金ニ關スル決濟ノ手續ヲ爲スヘシ（同上）

第十六條　削除（昭和十九年大藏省令第百四號）

第十七條　本令ニ定ムルモノヲ除クノ外支出官ノ郵便局ヲシテ現金ノ支拂ヲ爲サシムル場合ノ取扱手續ニ付テハ支出官事務規程第九條乃至第十二條、第十四條、第十五條、第十七條及第二十九條乃至第三十六條ノ規定ヲ準用ス（同上）

附　則

本令ハ大正四年一月勅令第六號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス（大正四年三月一日ヨリ施行）

附　則（大正十年大藏省令第二十三號）

國稅徵收　郵便官署ヲシテ歳入金ノ受入及歳出金ノ繰替拂ヲ取扱ハシムル件

國稅徵收　郵便官署ヲシテ歳入金ノ受入及歳出金ノ繰替拂ヲ取扱ハシムル規程

本令ハ大正十年七月分ヨリ之ヲ施行ス

附　則（大正十一年大藏省令第二十一號）

本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

支出官事務規程第四十條及第四十一條ノ規定ハ本令施行前其ノ支拂ヲ了セサル歳出金支拂通知書ノ支拂ニ付之ヲ準用ス

本令施行ノ際現存スル用紙ハ當分ノ內之ヲ取繕ヒ使用スルコトヲ得

附　則（昭和六年大藏省令第十九號）

本令ハ昭和六年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（昭和九年大藏省令第十六號）

本令ハ昭和九年度分ヨリ之ヲ施行ス

附　則（昭和十三年大藏省令第六號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス（昭和十三年一月二十四日ヨリ施行）

附　則（昭和十五年大藏省令第三十二號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス（昭和十五年四月十日ヨリ施行）

附　則（昭和十五年大藏省令第五十九號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス（昭和十五年七月二十六日ヨリ施行）

附　則（昭和十六年大藏省令第二十號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス（昭和十六年五月十二日ヨリ施行）

附　則（昭和十六年大藏省令第五十三號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス（昭和十六年八月二十八日ヨリ施行）

本令施行ノ際現存スル郵便局扱歳出金支拂通知書ノ用紙ハ當分ノ內之ヲ其ノ儘使用スルコトヲ得

附　則（昭和十七年大藏省令第五十號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス（昭和十七年六月二十九日ヨリ施行）

附　則（昭和十七年大藏省令第五十七號）

本令ハ昭和十七年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（昭和十七年大藏省令第七十七號）

本令ハ昭和十八年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（昭和十八年大藏省令第二十六號）

本令ハ昭和十八年四月一日ヨリ之ヲ適用ス

樺太廳郵便局現金受拂規則ハ之ヲ廢止ス但シ昭和十七年度分ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附　則（昭和十八年大藏省令第百三號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（昭和十九年大藏省令第百四號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ第十四條第一項ノ改正規定ハ昭和十九年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ書式ニ依ル用紙ハ當分ノ內仍之ヲ使用スルコトヲ得（昭和十九年十一月二十九日公布）

附　則（昭和二十年大藏省令第四十一號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス（昭和二十年五月十一日公布）

附　則（昭和二十年大藏省令第七十二號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス（昭和二十年八月三十日公布）

第一號書式

領收證書

第何號	（納人）	
何年度	住所	
會計名	氏	名
大藏省主管	租稅	何稅務署
金	萬 千 百 十 圓 十 錢	何年何期分何稅（目）

「何郵便局出納官吏又ハ何郵便局出納官吏所屬出納員

官氏名㊞」

「日本銀行何店㊞」

「何稅務署收入官吏

官氏名㊞」

領收日附印

領收濟通知書

第何號	（納人）	
何年度	住所	
會計名	氏	名
大藏省主管	租稅	何稅務署
金	萬 千 百 十 圓 十 錢	何年何期分何稅（目）

「何郵便局出納官吏又ハ何郵便局出納官吏所屬出納員

官氏名㊞」

「日本銀行何店㊞」

「何稅務署收入官吏

官氏名㊞」

領收日附印

取纏郵便局	郵便局

納稅告知書

第　何　號	（納入）住所	
何　年　度		
會　計　名	氏名	
大藏省主管	何　稅務署	租稅
金	萬 千 百 十 圓 十 錢	何年分（何期目）何稅

納期日　何年何月何日限

納付場所　内管縣府何、北海道廳、樺太廳、東京都郵便局「又ハ東京都、北海道、樺太、何府縣何郵便局」、日本銀行何店（日本銀行本店、支店、代理店又ハ國稅代理店又ハ何稅務署ヘ

上記ノ通納付セラルベシ

何年何月何日

歳入徵收官

何稅務署長

官氏名　㊞

領收日附印

備考

一　用紙寸法各片日本標準規格A6

二　領收濟通知書及領收證書用紙ノ金額、年度、科目、取纏郵便局名等ハ總テ納稅告知書發行者ニ於テ記入スルモノトス

三　番號、年度、年月日及金額ハ亞剌比亞數字ヲ以テ明瞭ニ記入スルモノトス

四　樺太廳特別會計歳入金ニ付テハ「大藏省主管」ハ「内務省所管」、「何稅務署」ハ「何支廳」ト記入スルモノトス

五　法人營業稅ニ付テハ「租稅」ハ「還付稅收入」ト記入スルモノトス

六　同一事業年度ノ法人稅、法人臨時利得稅及法人營業稅ハ之ヲ竝記シ其ノ合計額ヲ揭記スルモノトス此ノ場合ニ於テハ「租稅」ヲ「租　稅　還付稅收入」ト記入スルモノトス

七　用紙ハ下方ノ一邊ヲ著色（青）スルモノトス

八　郵便局ニ於テ取扱フ場合ニ於テハ領收濟通知書及領收證書ニハ領收日附印欄ニ取扱郵便局ノ表示アル領收日附印ヲ押捺シ出納官吏又ハ出納員ノ記名捺印ハ之ヲ省略スルコトヲ得ルモノトス

第二號書式

領收證書

第何號	（納人）
何年度	住所
會計名	氏名
大藏省主管	取扱廳名

金　萬 千 百 十 圓 十 錢　何目

但　何々（收入ノ目的ヲ記載ス）

「何郵便局出納官吏又ハ何郵便局出納官吏所屬出納員

官氏　名　印」

「日本銀行何店　印」

「何廳收入官吏

官氏　名　印」

領收日附印

領收濟通知書

第何號	（納人）
何年度	住所
會計名	氏名
經常「臨時」	何款　何項
大藏省主管	取扱廳名　歲入徵收官吏氏名

金　萬 千 百 十 圓 十 錢　何目

但　何々（收入ノ目的ヲ記載ス）

「何郵便局出納官吏又ハ何郵便局出納官吏所屬出納員

官氏　名　印」

「日本銀行何店　印」

「何廳收入官吏

官氏　名　印」

領收日附印	取纏郵便局	郵便局

納入告知書

第　何　號	（納入）	
何　年　度	住　所	
會　計　名	氏　名	
經常「臨時」	何　款	何　項
大藏省主管	取扱廳名	歳入徵收官　官氏名
金　萬　千　百　十　圓　十　錢		何　目

但　何々（收入ノ目的ヲ記載ス）

納期日　何年何月何日限

納付場所　東京都、北海道廳、樺太廳、何府縣管內郵便局「又ハ東京都、北海道、樺太、何府縣何郵便局」、日本銀行何店（日本銀行本店、支店又ハ代理店）又ハ收入官吏官氏名

上記ノ通納付セラルベシ

何年何月何日

歳入徵收官「又ハ歳入徵收官分掌官」

官　氏　名　印

領收日附印

備考

一　用紙寸法各片日本標準規格A6

二　領收濟通知書及領收證書用紙ノ金額、年度、科目、取纏郵便局名等ハ總テ納入告知書發行者ニ於テ記入スルモノトス

三　番號、年度、年月日及金額ハ亞剌比亞數字ヲ以テ明瞭ニ記入スルモノトス

四　樺太廳特別會計歳入金ニ付テハ「大藏省主管」ハ「內務省所管」ト記入スルモノトス

五　厚生保險特別會計歳入金ニ付テハ「經常「臨時」」ノ欄ヲ削リ「何項」ノ欄ノ次ニ「何目」ノ欄ヲ加ヘ「大藏省主管」ハ「厚生省所管」、「何目」ハ「何勘定」ト記入スルモノトス

六　同一年度分ノ健康勘定ノ保險料收入及年金勘定ノ保險料收入ハ之ヲ竝記シ其ノ合計額ヲ揭記スルコトヲ得ルモノトス

七　用紙ハ下方ノ一邊ヲ著色（厚生保險特別會計歳入金ニ付テハ赤其ノ他ハ青）スルモノトス

八　郵便局ニ於テ取扱フ場合ニ於テハ領收濟通知書及領收證書ニハ領收日附印欄ニ取扱郵便局ノ表示アル領收日附印ヲ押捺シ出納官吏又ハ出納員ノ記名捺印ハ之ヲ省略スルコトヲ得ルモノトス

第三號書式

領收證書

第何號	(納人) 住所 氏名	
何年度		
會計名		
大藏省主管	租稅	何 稅務署

金	萬	千	百	十	圓	十	錢	何年分 何期分 何稅(目)

「何郵便局出納官吏又ハ何郵便局出納官吏所屬出納員
官 氏 名 印」

「日本銀行何 店 印」

「何稅務署收入官吏
官 氏 名 印」

領收日附印

領收濟通知書

第何號	(納人) 住所 氏名	
何年度		
會計名		
大藏省主管	租稅	何 稅務署

金	萬	千	百	十	圓	十	錢	何年分 何期分 何稅(目)

「何郵便局出納官吏又ハ何郵便局出納官吏所屬出納員
官 氏 名 印」

「日本銀行何 店 印」

「何稅務署收入官吏
官 氏 名 印」

領收日附印

取扱郵便局	郵便局

納　付　書

第何號	（納人）
何年度	住所
會計名	氏名

大藏省主管	租稅	何　稅務署

	萬	千	百	十	圓	十	錢	
金								何年 何期分 何稅(目)

指定納期日　何年何月何日限

納付場所　東京都、北海道廳、樺太廳、何府縣管內郵便局「又ハ東京都、北海道、樺太、何府縣何郵便局」、日本銀行何店（日本銀行本店、支店、代理店又ハ國稅代理店）又ハ何稅務署

何年何月何日

領收日附印

備考

一　用紙寸法各片日本標準規格A6

二　領收濟通知書及領收證書用紙ノ金額、年度、科目、取纏郵便局名等ハ總テ納付書作成ノ時記入スルモノトス

三　番號、年度、年月日及金額ハ亞剌比亞數字ヲ以テ明瞭ニ記入スルモノトス

四　樺太廳特別會計歳入金ニ付テハ「大藏省主管」ハ「內務省所管」、「何稅務署」ハ「何支廳」ト記入スルモノトス

五　地租、家屋稅及個人營業稅ニ付テハ「租稅」ハ「還付稅收入」ト記入スルモノトス

六　用紙ハ下方ノ一邊ヲ著色（青）スルモノトス

七　郵便局ニ於テ取扱フ場合ニ於テハ領收濟通知書及領收證書ニハ領收日附印欄ニ取扱郵便局ノ表示アル領收日附印ヲ押捺シ出納官吏又ハ出納員ノ記名捺印ハ之ヲ省略スルコトヲ得ルモノトス

領收證書

第何號	（納人）	
何年度	住所	
會計名	氏名	
大藏省主管	雜收入	何稅務署

金	圓	十	錢	手數料

「何郵便局出納官吏又ハ何郵便局出納官吏所屬出納員
官氏名 印」

「日本銀行何店 印」

「何稅務署收入官吏
官氏名 印」

領收日附印

領收濟通知書

第何號	（納人）	
何年度	住所	
會計名	氏名	
大藏省主管	雜收入	何稅務署

金	圓	十	錢	手數料

「何郵便局出納官吏又ハ何郵便局出納官吏所屬出納員
官氏名 印」

「日本銀行何店 印」

「何稅務署收入官吏
官氏名 印」

領收日附印

取纏郵便局	郵便局

納付書

第何號	（納入）		
何年度	住所		
會計名	氏名		
大藏省主管	雜收入	何稅務署	
金	圓	十	錢
			手數料

指定納期日　何年何月何日限

納付場所　東京都、北海道廳、樺太廳、何府縣管內郵便局「又ハ東京都、北海道、樺太、何府縣何郵便局」、日本銀行何店（日本銀行本店、支店、代理店又ハ國稅代理店）又ハ何稅務署

何年何月何日

領收日附印

備考

一　用紙寸法各片日本標準規格A6トス

二　領收濟通知書及領收證書用紙ノ金額、年度、科目、取纏郵便局名等ハ總テ納付書作成ノ時記入スルモノトス

三　番號、年度、年月日及金額ハ亞剌比亞數字ヲ以テ明瞭ニ記入スルモノトス

四　樺太廳特別會計歳入金ニ付テハ「大藏省主管」ハ「內務省所管」、「何稅務署」ハ「何支廳」ト記入スルモノトス

五　厚生保險特別會計歳入金ニ付テハ「大藏省主管」ハ「厚生省所管」、「雜收入」ハ「厚生保險業務收入雜收入」、「何稅務署」ハ「何廳」、「手數料」ハ「督促手數料」又ハ「延滯金」ト記入スルモノトス

六　用紙ハ下方ノ一邊ヲ著色（厚生保險特別會計歳入金ニ付テハ赤其ノ他ハ青）スルモノトス

七　督促手數料ニシテ租稅ト所屬年度ノ同一ナルモノハ第三號書式ノ納付書中ニ科目及金額ヲ竝記發用シ本書式ノ納付書ヲ省略スルコトヲ得ルモノトス

八　郵便局ニ於テ取扱フ場合ニ於テハ領收濟通知書及領收證書ニハ領收日附印欄ニ取扱郵便局ノ表示アル領收日附印ヲ押捺シ出納官吏又ハ出納員ノ記名捺印ハ之ヲ省略スルコトヲ得ルモノトス

第五號書式

領收證書

第何號	（拂込人）
何年度	何廳主任收入官吏「何廳主任收入官吏所屬分任收入官吏」
會計名	官氏名
大藏省主管	取扱廳名
	歳入徵收官　官氏名

金	萬	千	百	十	圓	十	錢

「何郵便局出納官吏又ハ何郵便局出納官吏所屬出納員

官氏名　㊞」

領收日附印

領收濟通知書

第何號	（拂込人）
何年度	何廳主任收入官吏「何廳主任收入官吏所屬分任收入官吏」
會計名	官氏名
大藏省主管	取扱廳名
	歳入徵收官　官氏名

金	萬	千	百	十	圓	十	錢

「何郵便局出納官吏又ハ何郵便局出納官吏所屬出納員

官氏名　㊞」

領收日附印

郵便局取纏	郵便局

現金拂込書

第何號	（拂込人）
何年度	何廳主任收入官吏「何官吏所屬分任收入官吏」
會計名	官氏名
大藏省主管	取扱廳名
	歳入徴收官吏官氏名

金　萬 千 百 十 圓 十 錢

何年何月何日

領收日附印

備考

一　用紙寸法各片日本標準規格A6

二　領收濟通知書及領收證書用紙ノ金額、年度、歳入徴收官官氏名、拂込人官氏名、取纏郵便局名等ハ總テ收入官吏ニ於テ記入スルモノトス

三　番號、年度、年月日及金額ハ亞剌比亞數字ヲ以テ明瞭ニ記入スルモノトス

四　樺太廳特別會計歳入金ニ付テハ「大藏省主管」ハ「内務省所管」ト「厚生省所管」ト記入スルモノトス

五　厚生保險特別會計歳入金ニ付テハ「大藏省主管」ハ「厚生省所管」ト記入スルモノトス

六　專賣官署ノ收入官吏ノ分ニ付テハ各片金額欄ノ下ニ專賣局作業收入ト記入シ領收濟通知書ニハ取纏郵便局ヲ記載スルノ外其ノ下ニ拂込郵便局ヲ記入スルモノトス

七　用紙ハ下方ノ一邊ヲ著色（厚生保險特別會計歳入金ニ付テハ赤其ノ他ハ青）スルモノトス

八　領收濟通知書及領收證書ニハ領收日附印欄ニ取扱郵便局ノ表示アル領收日附印ヲ押捺シ出納官吏又ハ出納員ノ記名捺印ハ之ヲ省略スルコトヲ得ルモノトス

第六號書式

領收證書

第何號	何市町村		
何年度			
會計名			
大藏省主管	租稅	何稅務署	
金	萬 千 百 十 圓 十 錢		何年分 何期分 何稅(目)

「何郵便局出納官吏又ハ何郵便局出納官吏所屬出納員

官 氏 名 ㊞」

領收日附印

領收濟通知書

第何號	何市町村		
何年度			
會計名			
大藏省主管	租稅	何稅務署	
金	萬 千 百 十 圓 十 錢		何年分 何期分 何稅(目)

「何郵便局出納官吏又ハ何郵便局出納官吏所屬出納員

官 氏 名 ㊞」

領收日附印

取扱郵便局	郵便局

送付書

第何號	何市町村
何年度	
會計名	
大藏省主管	租稅　何稅務署
金	萬　千　百　十　圓　十　錢　何年分　何期分　何稅(目)

何年何月何日

領收日附印

備考

一　用紙寸法各片日本標準規格Ａ６

二　領收濟通知書及領收證書用紙ノ金額、年度、科目、取纏郵便局名等ハ總テ市町村ニ於テ記入スルモノトス

三　番號、年度、年月日及金額ハ亞刺比亞數字ヲ以テ明瞭ニ記入スルモノトス

四　樺太廳特別會計歲入金ニ付テハ「大藏省主管」ハ「內務省所管」、「何稅務署」ハ「何支廳」ト記入スルモノトス

五　地租、家屋稅及個人營業稅ニ付テハ「租稅」ハ「還付稅收入」ト記入スルモノトス

六　用紙ハ下方一邊ヲ著色（青）スルモノトス

七　領收濟通知書及領收證書ニハ領收日附印欄ニ取扱郵便局ノ表示アル領收日附印ヲ押捺シ出納官吏又ハ出納員ノ記名捺印ハ之ヲ省略スルコトヲ得ルモノトス

第六號ノ二書式

領　收　證　書

第　何　號	（拂込人）
何　年　度	住　所
會　計　名	氏　名
大藏省主管	何　稅務署
租　稅	何　稅（目）
金	萬　千　百　十　圓　十　錢

「何郵便局出納官吏又ハ何郵便局出納官吏所屬出納員

官　氏　名　㊞」

領收日附印

領收濟通知書

第　何　號	（拂込人）
何　年　度	住　所
會　計　名	氏　名
大藏省主管	何　稅務署
租　稅	何　稅（目）
金	萬　千　百　十　圓　十　錢

「何郵便局出納官吏又ハ何郵便局出納官吏所屬出納員

官　氏　名　㊞」

領收日附印	
取繼郵便局	郵便局

拂込書

第　何　號	（拂込人）
何　年　度	住　所
會　計　名	氏　名
大藏省主管	何　署務稅
租　稅	何　稅（日）
金	萬　千　百　十　圓　十　錢

何年何月何日

領收日附印

備考

一　用紙寸法各片日本標準規格A6

二　領收濟通知書及領收證書用紙ノ金額、年度、科目、取纏郵便局名等ハ總テ徵收義務者ニ於テ記入スルモノトス

三　番號、年度、年月日及金額ハ亞剌比亞數字ヲ以テ明瞭ニ記入スルモノトス

四　樺太廳特別會計歳入金ニ付テハ「大藏省主管」ハ「內務省所管」、「何稅務署」ハ「何支廳」ト記入スルモノトス

五　本書ノ年度ハ拂込ノ日ヲ以テ區別シ記入スルモノトス

六　拂込人官公署、公法人又ハ私法人其ノ他ノ團體ナルトキハ官公署名、法人名又ハ團體名ヲ肩書シ代表者氏名ヲ記入スルモノトス

七　所得稅ノ拂込ノ場合ハ各片金額欄ノ下ニ分類所得稅ニ在リテハ甲種ノ配當利子所得（公社債ノ利子、預金ノ利子、其ノ他ニ區分スルコト）ニ對スル分、乙種ノ事業所得ニ對スル分、丙種ノ事業所得ニ對スル分、甲種ノ勤勞所得ニ對スル分、乙種ノ退職所得ニ對スル分、綜合所得稅ニ在リテハ公社債ノ利子ニ對スル分、預金ノ利子ニ對スル分、其ノ他ニ對スル分ト其ノ拂込ノ目的ヲ記入スルモノトス但シ合算シテ拂込ヲ爲ストキハ其ノ金額ヲモ附記スルモノトス

八　所定ノ徵收高計算書ヲ本書式ニ附屬セシメントスルトキハ本書式一片ノ寸法ニ依リ拂込書ト領收濟通知書トノ間ニ附屬セシムルモノトス

九　用紙ハ下方ノ一邊ヲ著色（青）スルモノトス

十　領收濟通知書及領收證書ニハ領收日附印ヲ押捺シ出納官吏又ハ分納員ノ記名捺印ハ之ヲ省略スルコトヲ得ルモノトス

第六號ノ三書式

領　收　證　書

第　何　號	（納人）	
何　年　度	住　所	
會　計　名	名　稱	
	代表者	
大藏省主管	租稅	何　稅務署
	還付稅收入	

	萬	千	百	十	圓	十	錢	
金								何　稅（目）
								何　稅（目）
								何　稅（目）
計								事業年度　自何年月　至何年月

納付ノ目的　臨時租稅措置法第三條ノ規定ニ依ル納付

稅額

「何郵便局出納官吏又ハ何郵便局出納官吏所屬出納員　官　氏　名　㊞」

領收日附印

領收濟通知書

第　何　號	（納人）	
何　年　度	住　所	
會　計　名	名　稱	
	代表者	
大藏省主管	租稅	何　稅務署
	還付稅收入	

	萬	千	百	十	圓	十	錢	
金								何　稅（目）
								何　稅（目）
								何　稅（目）
計								事業年度　自何年月　至何年月

納付ノ目的　臨時租稅措置法第三條ノ規定ニ依ル納付

稅額

「何郵便局出納官吏又ハ何郵便局出納官吏所屬出納員　官　氏　名　㊞」

領收日附印

取纏郵便局　郵便局

納付書

第何號	(納人) 住所								
何年度	名稱								
會計名	代表者								
大藏省主管	租税 還付税收入						何税務署		
金	萬	千	百	十	圓	十	錢	何税(目)	
								何税(目)	
								何税(目)	
計								事業年度	自何年何月 至何年何月

納付ノ目的　臨時租税措置法第三條ノ規定ニ依ル納付税額

何年何月何日

領收日附印

備考

一　用紙寸法各片日本標準規格A6

二　領收濟通知書及領收證書用紙ノ金額、年度、科目、取纏郵便局名等ハ總テ納人ニ於テ記入スルモノトス

三　番號、年度、年月日、金額及事業年度ハ亞剌比亞數字ヲ以テ明瞭ニ記入スルモノトス

四　樺太廳特別會計歳入金ニ付テハ「大藏省主管」ハ「內務省所管」、「租税還付税收入」ハ「租税收入」、「何税務署」ハ「何支廳」、「臨時租税措置法第三條」ハ「樺太臨時租税措置令第三十二條」ト記入スルモノトス

五　本書ノ年度ハ納付ノ日ヲ以テ區別シ記入スルモノトス

六　用紙ハ下方ノ一邊ヲ著色(青)スルモノトス

七　領收濟通知書及領收證書ニハ領收日附印欄ニ取扱郵便局ノ表示アル領收日附印ヲ押捺シ出納官吏又ハ出納員ノ記名捺印ハ之ヲ省略スルコトヲ得ルモノトス

第七號書式

領收證書

第何號	(拂込人)
何年度	何郵便局出納官吏
會計名	官氏名
大藏省主管	取扱廳名
	歳入徵收官 官氏名
金	萬 千 百 十 圓 十 錢

但通信院貯金保險局渡振替證券ヲ以テ拂込ノ分

何年何月何日領收

日本銀行何店印

領收濟通知書

第何號	(拂込人)
何年度	何郵便局出納官吏
會計名	官氏名
大藏省主管	取扱廳名
	歳入徵收官 官氏名
金	萬 千 百 十 圓 十 錢

但通信院貯金保險局渡振替證券ヲ以テ拂込ノ分

何年何月何日領收

日本銀行何店印

取繰郵便局	郵便局

書込拂替振替金入歳廳各

第何號	（拂込人）
何年度	何郵便局出納官吏
會計名	官氏名
大藏省主管	取扱廳名
	歳入徵收官官氏名

金	萬	千	百	十	圓	十	錢

但通信院貯金保險局振替證券ヲ以テ拂込ノ分

備考

一　用紙寸法各片日本標準規格A6

二　領收濟通知書及領收證書用紙ノ金額、年度、歳入徵收官官氏名、取扱廳名、拂込出納官吏官氏名、取纏郵便局名等ハ總テ拂込出納官吏ニ於テ記入スルモノトス

三　番號、年度、年月日及金額ハ亞剌比亞數字ヲ以テ明瞭ニ記入スルモノトス

四　樺太廳特別會計歳入金ニ付テハ「大藏省主管」ハ「內務省所管」ト記入スルモノトス

五　厚生保險特別會計歳入金ニ付テハ「大藏省主管」ハ「厚生省所管」ト記入スルモノトス

國稅徵收　郵便官署ヲシテ歳入金ノ受入及歳出金ノ繰替拂ヲ取扱ハシムル件ニ關スル規程

第八號書式　用紙寸法縱五寸二分　横六寸三分　輪廓寸法縱四寸六分　横五寸四分トシテ左方ニ八分ノ綴代ヲ設クヘシ

郵便局扱歳出金支拂通知書

拂渡日附印	指定拂渡郵便局	「何」郵便局
	取纏郵便局	「何」郵便局
	第「何」號	「何」年度 「何」會計
	「何」省主管	「何」廳
小切手振出日附		昭和「何」年「何」月「何」日
小切手番號		第「何」號
金額氏名表番號		第「何」號
小切手ヲ宛テタル日本銀行名		日本銀行本店（何地支店又ハ代理店）

一金

前記ノ金額指定拂渡郵便局ニ於テ受領セラルヘシ

「何廳支出官　官氏名」印

昭和「何」年「何」月「何」日

「何　某」宛

證收領

前記ノ金額領收候也

昭和「何」年「何」月「何」日

印　收入印紙

住所

受取人　「何　某」印

（注意）受取人ハ裏面ノ注意事項ヲ熟讀スヘシ

（裏面）

注意事項

一　受取人ハ表面領收證ノ部ニ年月日及住所ヲ記入シ記名捺印スヘシ但シ官吏公吏ニ在リテハ官廳名又ハ公共團體名等ヲ肩書シ官職名ヲ記シ記名捺印スヘシ

二　受取人ノ印章ハ請求書ニ押捺シタルモノト同一ノモノニ限ル

三　受取人カ代理人ヲ以テ現金支拂ノ請求ヲ爲サムトスルトキハ本人ニ於テ本書刷込ノ委任狀ニ相當ノ事項ヲ記載シ記名捺印スルカ又ハ別ニ委任狀ヲ差出スヘシ此ノ場合ニ於テハ代理人ハ本書ニ代人タル肩書ヲ附シ記名捺印スヘシ

四　受領金額五圓以上ノモノハ規定ノ收入印紙ヲ貼附消印スヘシ但シ營業ニ關セサルモノハ此ノ限ニ在ラス

五　小切手振出ノ日附ヨリ六十日ヲ過クルトキハ支拂上特別ノ手續ヲ要スルニ付可成同期限内ニ支拂ヲ請求スヘシ

六　本書ヲ亡失シタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ拂渡郵便局ニ通知シ支拂ノ停止ヲ請求スヘシ

印　收入印紙

委任狀

表面金額ノ受取方ヲ

ニ委任候也

住所

「何　某」印

昭和「何」年「何」月「何」日

備考

一　用紙ハ【印刷局】紙若ハ永久保存ニ耐ユル用紙ヲ用フヘシ

二　官廳又ハ公共團體等ノ收入ト爲ルヘキモノハ宛名ニ官廳名又ハ公共團體名等ヲ記入シテ發行スヘシ

三　領收證ニ收入印紙ノ貼用ヲ要スルモノハ其ノ貼用場所ニ「要印紙」ノ印ヲ押捺スヘシ

國稅徵收　郵便官署ヲシテ歳入金ノ受入及歳出金ノ繰替拂ヲ取扱ハシムル件ニ關スル規程

國稅徵收　郵便官署ヲシテ歳入金ノ受入及歳出金ノ繰替拂ヲ取扱ハシムル件ニ關スル規程

第九號書式

何　郵　便　局　御　中

各廳歳出金繰替拂案内書

何年何月何日
日本銀行何店圖

下記ノ金額規定ノ手續ヲ履行シ現金拂渡相成度候也

年度會計及小切手振出廳名		受取人	住所	
小切手番號	金額氏名表番號		氏名	
小切手振出日附		金額		四

拂渡日附印　○　取纏郵便局名

何　郵　便　局

備考

一　用紙寸法日本標準規格A6

二　年月日、年度、小切手及金額氏名表番號、小切手振出日附及金額ハ亞剌比亞數字ヲ以テ明瞭ニ記入スルモノトス

○郵便官署ニ於ケル各廳歳入金及歳出金取扱規則

（大正四年一月遞信省令第八號）

改正　大正七年遞令三五號…（略）…昭和二一年閣令一九號

第一條　大正四年勅令第六號ニ依リ郵便官署ニ於テ取扱フ歳入金ノ受入及歳出金ノ繰替拂渡ハ左ニ掲クルモノニ限ル

一　稅務官署ノ直接徵收スル國稅金

二　東京都、北海道廳、府縣及稅務官署ノ收納スル國庫ノ諸收入金

二ノ二　警視廳、北海道廳及府縣ニ於テ收納スル健康保險、船員保險及厚生年金保險ニ關スル諸收入金

三　收入官吏カ日本銀行（本店、支店又ハ代理店ヲ謂フ以下同シ）ニ送付スヘキ前三號ノ收入金

三ノ二　專賣官署ノ收入官吏カ日本銀行ニ送付スヘキ煙草專賣ニ關スル收入金

四　市町村カ日本銀行ニ送付スヘキ國稅金

四ノ二　徵收義務者（國稅徵收法ノ規定ニ依リ市町村ニ於テ徵收スル場合ヲ除ク以下同シ）カ日本銀行ニ送付スヘキ國稅金

四ノ三　臨時租稅措置法第三條、昭和二十年勅令第四百二十三號第十二條又ハ登錄稅法施行規則第二條ノ規定ニ依リ納稅義務者ノ納付スヘキ國稅金

五　日本銀行所在地外ニ於テ債主ニ支拂ヲ要スル歳出金

國稅徵收　郵便官署ニ於ケル各廳歳入金及歳出金取扱規則

國稅徵收　郵便官署ニ於ケル各廳歲入金及歲出金取扱規則

第二條　前條第一號乃至第二號ノ二ノ國稅金及諸收入金ヲ國庫ニ納付セムトスル者ハ歲入ヲ徵收スル官吏ニ於テ其ノ納付場所ヲ特ニ限定シタル場合ヲ除クノ外其ノ歲入ヲ徵收スル官吏ノ在勤廳ト同一ノ都道府縣內ニ在ル任意ノ郵便局ニ就キ之カ納付ヲ爲スコトヲ得

納入前項ノ納付ヲ爲サムトスルトキハ歲入ヲ徵收スル官吏ノ發シタル令書ニ現金ヲ添ヘ郵便局ニ差出シ其ノ領收證書ヲ受取ルヘシ

第三條　市町村、徵收義務者又ハ收入官吏其ノ領收シタル歲入金ヲ日本銀行ニ送付セムトスルトキハ前條ノ例ニ依リ送付書又ハ拂込書ニ徵收高計算書（徵收義務者ニ限ル）及現金ヲ添ヘ郵便局ニ差出シ其ノ領收證書ヲ受取ルヘシ但シ專賣官署ノ收入官吏ハ其ノ在勤廳ト同一ノ都道府縣內ニ在ル任意ノ郵便局ニ就キ拂込ヲ爲スコトヲ得

第四條　郵便局ニ於テ前二條ニ依リ現金ヲ受入レタルトキハ其ノ通知書及徵收高計算書ヲ取纏郵便局ニ送付スヘシ

取纏郵便局ニ於テハ受入郵便局ヨリ送付ニ係ル通知書及徵收高計算書ヲ取纏メ通知書ニ日計表ヲ附シ徵收高計算書ト共ニ當該歲入ヲ徵收スル官吏ニ送付シ且別記書式ニ依リ受入金額ニ相當スル歲入金振替證券ヲ發行シ之ヲ取扱店タル日本銀行ニ送付シ受入金拂込ノ手續ヲ爲スヘシ

第五條　前條ノ振替證券ニ對シテハ日本銀行本店ノ請求ニ依リ通信院貯金保險局ニ於テ其ノ振替計理ヲ爲スヘシ

第六條　日本銀行所在地外ニ於テ支拂ヲ受クヘキ債主歲出金ノ拂渡ヲ受ケタルトキハ當該繰替拂案內書ヲ取纏メ通知書ニ日計表ヲ附シ徵收高計算書ト共ニ當該歲入ヲ徵收スル官吏ニ送付シ且別記書式ニ依リ受入金額ニ相當スル歲入金振替證券ヲ發行シ之ヲ取扱店タル日本銀行ニ送付シ受入金拂込ノ手續ヲ爲スヘシ

第七條　前條ニ依リ郵便局ニ於テ歲出金ノ拂渡ヲ爲シタルトキハ當該繰替拂案內書ヲ取纏郵便局ニ送付スヘシ

取纏郵便局ニ於テハ拂渡郵便局ヨリ送付ニ係ル繰替拂案內書ヲ取纏メ之ニ日計表ヲ附シ當該日本銀行ニ送付シ之ニ對スル代リ金振替拂證書ヲ受取ルヘシ

通信院貯金保險局ニ於テハ前項ノ代リ金振替拂證書ニ依リ日本銀行本店ヨリ其ノ代リ金ノ振替受入ヲ爲スヘシ

第八條　郵便局扱歲出金支拂通知書發行ノ日ヨリ六十日以內ニ債主ヨリ拂渡ノ請求ナキトキハ郵便局ハ繰替拂案內書ヲ所屬日本銀行ニ送付スヘシ

前項ノ期間經過後ニ於テ債主ヨリ拂渡ノ請求アルモ拂渡郵便局ハ當該日本銀行ヨリ繰替拂案內書ノ再送ヲ受クルニアラサレハ之カ拂渡ヲ爲サス

第九條　債主ニ於テ郵便局扱歲出金支拂通知書ヲ亡失シタルトキハ金額、番號、所屬年度、小切手ヲ當テラレタル日本銀行名、拂渡郵便局名、支拂通知書ヲ發行シタル日本銀行名及官廳名ヲ記載シタル屆書ヲ拂渡郵便局ニ差出スヘシ

拂渡郵便局ニ於テ前項ノ屆書ヲ受ケタルトキハ之ヲ當該日本銀行ニ廻付スヘシ

第十條　債主ニ於テ支出官ヨリ再發行ニ係ル郵便局扱歲出金支拂通知書ノ送付ヲ受ケタル場合ノ拂渡ニ付テハ第六條ノ規定ヲ準用ス

附　則

本令ハ大正四年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

（別記）

第　號　　參證替振金入歲

所屬年度	（大正）　年度										
在勤廳名歲入徵收官											
銀行名振替拂込	日本銀行「何」店										
日數				所屬月計	分　月						
金額	十	萬	千	百	十	圓	十	錢	厘		

上記ノ通本日本銀行本店へ振替拂込相成度候也

日ヲ於テ局保険金貯金院信通ニ該金額ニ換引券本ヲ以テ入歲收官ヘ受濟ノ通知ヲ付ス

郵便局長氏名印

（印刷日局扱）

通信貯金保険金局長殿

○出納官吏事務規程（抄錄）（大正十一年一月十一日大藏省令第二號）

第一條　出納官吏ハ本令ノ定ムル所ニ依リ現金ノ出納保管ニ關スル事務ヲ處理スヘシ

第二條　出納官吏法令ノ規定ニ依リ現金ニ代ヘ證券ヲ受領シタルトキハ現金ニ準シ之カ取扱ヲ爲スヘシ

第三條　出納官吏其ノ手許ニ保管スル現金ハ之ヲ堅牢ナル容器中ニ藏置スヘシ但シ特別ノ事由アルトキハ自己ノ責任ヲ以テ之ヲ郵便局若ハ確實ナル銀行ニ預入レ又ハ資產信用アル者ニ其ノ保管ヲ託シ其ノ他適當ノ方法ニ依リ之ヲ保管スルコトヲ得

第四條　出納官吏其ノ取扱ニ係ル現金ハ私金ト混同スルコトヲ得ス

第五條　出納官吏他ノ公金ノ出納保管ヲ兼掌スル場合ニ於テハ其ノ現金ハ官金ト區分シ同一容器中ニ之ヲ保管スルコトヲ得

第六條　出納官吏本令ノ定ムル所ニ依リ振出ス小切手ハ本令中別段ノ定アル場合ヲ除クノ外之ヲ記名式持參人拂ト爲スヘシ

第七條　官廳、出納官吏又ハ日本銀行ヲ受取人トシテ振出ス小切手ハ之ヲ記名式トシ之ニ裏書禁止ノ旨ヲ記載スヘシ

前項ノ小切手金額ニシテ振替拂込ヲ要スルモノナルトキハ表面餘白ニ「要振替」ノ印ヲ押捺スヘシ

第八條　現金出納簿ハ一人一冊トシ出納官吏ハ職務及所管廳ノ如何ヲ問ハス其ノ取扱ニ係ル現金ノ出納ヲ總テ之ニ記入スヘシ

第十條　各省大臣ハ本令ニ定ムルモノヲ除クノ外其ノ所屬出納官吏ノ事務取扱ニ付大藏大臣ト協議シ之カ必要ナル事項ヲ定ムルコトヲ得

第十一條　本令ハ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外出納員ノ事務取扱ニ付之ヲ準用ス

第十三條　收入官吏納入ヨリ納稅告知書、納入告知書又ハ納付書ヲ添ヘ現金ノ納付ヲ受ケタルトキハ之ヲ收納シ領收證書ヲ納入ニ交付シ其ノ報告書ヲ歲入徵收官ニ送付スヘシ

第十四條　收入官吏納入ヨリ納稅告知書、納入告知書又ハ納付書ヲ添附セスシテ現金ノ納付ヲ受ケタルトキ又ハ歲入徵收官ノ口頭告知ニ依リ現金ノ納付ヲ受ケタルトキハ之ヲ收納シ領收證書ヲ納入ニ交付シ其ノ報告書ヲ歲入徵收官ニ送付スヘシ

第十八條　日本銀行（本店、支店又ハ代理店ヲ謂フ以下同シ）所在地ニ在勤スル收入官吏其ノ在勤地ニ於テ現金ヲ領收シタルトキハ第一號書式ノ現金拂込書ヲ添ヘ現金領收ノ日又ハ其ノ翌日日本銀行ニ拂込ムヘシ但シ領收金額百圓未滿ナルトキハ每十日分ヲ取纏メ日本銀行ニ拂込ムコトヲ得

第十九條　日本銀行所在地外ニ在勤スル收入官吏其ノ在勤地ニ於テ現金ヲ領收シタルトキハ左記期限內ニ現金拂込書ヲ添ヘ日本銀行ニ拂込ムヘシ但シ第二號乃至第四號ノ場合ニ於テハ最初ノ現金領收ノ日ヨリ起算シテ十五日ヲ超ユルコトヲ得ス

一　領收金高百圓未滿ナルトキハ最初ノ現金領收ノ日ヨリ起算シテ十五日內

二　領收金高百圓以上ニ達シタルトキハ其ノ日ヨリ起算シテ十日內

三　領收金高五百圓以上ニ達シタルトキハ其ノ日ヨリ起算シテ五日內

四　領收金高千圓以上ニ達シタルトキハ其ノ翌日限

第二十條　收入官吏其ノ在勤地外ニ於テ現金ヲ領收シタルトキハ第十八條ノ規定ニ準シ拂込ヲ爲シ得ル場合ヲ除クノ外前條ノ規定ニ準シ之カ拂込ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十一條　運輸交通ノ不便ナル地方ニ在勤スル收入官吏ニシテ第十九條ノ規定ニ依リ難キ場合ニ於テハ所管大臣大藏大臣ト協議シ之カ特例ヲ設クルコトヲ得

第二十四條　收入官吏ハ現金出納簿ニ依リ每月第二號書式ノ現金拂込仕譯書ヲ調製シ翌月五日迄ニ之ヲ歲入徵收官ニ送付スヘシ

分任收入官吏ノ調製シタル現金拂込仕譯書ハ主任收入官吏ニ於テ之ヲ取纏メ歲入徵收官ニ送付スルモノトス但シ歲入徵收官ニ於テ必要アリト認ムルトキハ分任收入官吏ヲシテ直接之カ送付ヲ爲サシムルコトヲ得

第五十條　歲入歲出外現金出納官吏現金ヲ領收シタルトキハ領收證書ヲ交付シ其ノ旨ヲ取扱官廳ニ報告スヘシ

第五十一條　歲入歲出外現金出納官吏ノ領收シタル現金ヲ大藏省預金部預金ニ拂込ヲ爲ス場合ニ於テハ保管金取扱規程及預金部預金取扱規程ノ定ムル所ニ依ルヘシ

第五十二條　歲入歲出外現金出納官吏其ノ保管ニ係ル現金ヲ拂渡シタルトキハ受取人ヨリ領收證書ヲ徵シ其ノ旨ヲ取扱官廳ニ報告スヘシ

第五十九條　出納官吏交替ノ場合ニ於テハ前任出納官吏ハ現金出納簿ニ締切ヲ爲シ引繼ノ年月日ヲ記入シ後任出納官吏ト共ニ記名捺印スヘシ

第六十條　日本銀行ニ預託金ヲ有スル前任出納官吏ハ前條ノ締切ヲ爲シタル日ニ於ケル預託金現在高ノ證明ヲ日本銀行ニ對シ請求スヘシ

第六十一條　前任出納官吏ハ第八號書式ノ現金現在高書又ハ現金及預託金現在高書竝其ノ引繼クヘキ帳簿、證憑其ノ他ノ書類ノ目錄各二通ヲ調製シ後任出納官吏立會ノ上現物ニ對照シ受授ヲ爲シタル後現在高書及目錄ニ年月日及受授ヲ了シタル旨ヲ記入シ兩出納官吏ニ於テ記名捺印シ各一通ヲ保存スヘシ

第六十二條　前條ノ手續ヲ了シタルトキハ前任出納官吏ハ後任出納官吏ニ於テ之ヲ調製スヘシ知書ヲ所屬官廳及日本銀行ニ送付スヘシ

前項ノ通知書ニハ前任出納官吏ノ振出シタル小切手ニシテ日本銀行ニ於テ未タ支拂ヲ了セサル金額ヲ區分記載スヘシ

第六十三條　第二十四條ノ規定ニ依リ調製スヘキ現金拂込仕譯額ハ後任收入官吏ニ於テ之ヲ調製スヘシ

第六十四條　前任出納官吏死亡又ハ其ノ他ノ事由ニ因リ引繼ヲ爲スコト能ハサルトキハ會計規則第百四十六條ノ規定ニ依リ計算書ノ調製ヲ命セラレタル官吏本章ノ定ムル所ニ依リ之カ手續ヲ爲スヘシ

第六十五條　出納官吏其ノ保管ニ係ル現金ヲ亡失シタルトキハ遲滯ナク其ノ事由ヲ具シ所屬官廳ニ報告スヘシ

第六十六條　出納官吏領收濟報告書、現金拂込額又ハ預託金拂込書ノ記載事項中誤謬アルコトヲ發見シタルトキハ翌年度五月三十一日迄ニ歲入徵收官又ハ日本銀行ニ之カ訂正ヲ請求スヘシ

第六十九條　出納官吏現金拂込ニ係ル領收證書又ハ預託金領收證書ヲ亡失又ハ毀損シタル場合ニ於テハ日本銀行ヨリ其ノ拂込濟ノ證明ヲ受クヘシ

第一號書式

領　收　證　書

第　何　號	（拂込人） 何廳主任收入官吏 「何廳主任收入官吏 所屬分任收入官吏」 官　氏　名
何　年　度	
會　計　名	
所管廳名	取　扱　廳　名
	歲入徵收官　官　氏　名
金	百　千　百　十　圓　十　錢

何年何月何日

日本銀行何店　㊞

領　收　濟　通　知　書

第　何　號	（拂込人） 何廳主任收入官吏 「何廳主任收入官吏 所屬分任收入官吏」 官　氏　名
何　年　度	
會　計　名	
所管廳名	取　扱　廳　名
	歲入徵收官　官　氏　名
金	萬　千　百　十　圓　十　錢

何年何月何日領收

日本銀行何店　㊞

現金拂込書

第何號	（拂込人）	
何年度	何廳主任收入官吏 「何廳主任收入官吏 所屬分任收入官吏」	
會計名	官氏名	
所管廳名	取扱廳名	
	歲入徵收官官氏名	
金	萬 千 百 十 圓 十 錢	
何年何月何日		

備考

一　用紙寸法各片日本標準規格A6

二　金額、番號、年度、會計名、所管廳名、歲入徵收官官氏名等ハ總テ收入官吏ニ於テ記入スルモノトス

三　番號、年度、年月日及金額ハ亞剌比亞數字ヲ以テ明瞭ニ記入スルモノトス

○支出官事務規程（抄錄）（大正十一年一月十一日大藏省令第一號）

第二十六條ノ二　支出官俸給、給料、歲費、年金、恩給、賞與、退職給與及此等ノ性質ヲ有スル給與竝ニ所得稅法施行規則第四條ノ二第十項及第四條ノ三ニ規定スル丙種ノ事業所得ト爲ル報酬又ハ料金ノ支拂ヲ爲ス爲振出ス小切手ハ其ノ支給額ヨリ分類所得稅額（朝鮮、臺灣、樺太、關東州又ハ南洋群島ニ在リテハ一時恩給ニ類スル退職給與ニ對スル第二種所得稅額トス以下同シ）ヲ控除シタル殘額ヲ券面金額トスヘシ

支出官ハ前項ノ小切手ノ振出ト同時ニ分類所得稅額ヲ券面金額トシ歲入所屬ノ當該官廳ヲ受取人トスル小切手ヲ振出シ且表面餘白ニ「分類所得稅」（朝鮮、臺灣、樺太、關東州又ハ南洋群島ニ在リテハ「第二種所得稅」）ノ印ヲ押捺シ之ニ所得稅法施行細則第一條ニ定ムル拂込書及計算書（關東州、朝鮮、臺灣、樺太、關東州又ハ南洋群島ニ在リテハ其ノ當該法規ニ定ムル拂込書、計算書及明細書）ヲ添附シ小切手ノ支拂店ニ交付シ振替拂込ノ手續ヲ爲サシムヘシ

附　則（昭和十五年大藏省令第三十三號）

本令ハ昭和十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○日本銀行國庫金取扱規程（抄錄）（大正十一年二月一日大藏省令第十號）

第一條　日本銀行ハ本令ノ定ムル所ニ依リ國庫金ノ出納竝政府預金ニ關スル事務ヲ取扱フヘシ

第二條　日本銀行ハ其ノ本店支店及代理店ヲシテ國庫金ノ出納ヲ取扱ハシムヘシ

前項ノ代理店ハ日本銀行大藏大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ定ムヘシ

第三條　日本銀行ハ地方ニ統轄店ヲ設ケ其ノ所屬店ニ於ケル國庫金出納ノ事務ヲ統轄スヘシ

日本銀行ハ前項ノ所屬店中特ニ必要アルモノヲ特扱店ト爲スコトヲ得

第一項ノ統轄店及其ノ所屬店竝前項ノ特扱店ハ日本銀行大藏大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ定ムヘシ

第十二條ノ二　日本銀行ノ事務取扱ニシテ特別ノ事情ニ因リ本令ニ依リ難キモノニ付テハ特例ヲ設クルコトヲ得

第十三條　日本銀行（本店、支店又ハ代理店ヲ謂フ以下同シ）納入告知書、納入告知書又ハ納付書ヲ添ヘ現金ノ納付ヲ受ケタルトキハ之ヲ領收シ領收證書ヲ納入ニ交付シ領收濟通知書ハ之ヲ歲入徵收官ニ送付スヘシ

第十四條　日本銀行出納官吏又ハ收納事務ヲ取扱フ市町村、銀行、會社其ノ他ノ者ヨリ現金拂込書、送付書、又ハ國稅金ノ拂込書ヲ添ヘ現金ノ拂込ヲ受ケタルトキハ之ヲ領收シ領收證書ヲ拂込人ニ交付シ領收濟通知書ハ之ヲ歲入徵收官ニ送付スヘシ

第十五條　日本銀行納入又ハ出納官吏ヨリ支拂元受高ヲ要スル特別會計ノ歲入金ノ納付又ハ拂込ヲ受ケタルトキハ之ヲ領收シ領收證書ヲ納入又ハ出納官吏ニ交付スヘシ

日本銀行前項ノ場合ニ於テ自店カ當該歲入徵收官ノ取扱店ナル場合ニ於テハ領收金額ニ相當スル額ヲ當該特別會計ノ支拂元受高トシテ受入ノ記入ヲ爲シ、他店カ當該歲入徵收官ノ取扱店ナル場合ニ於テハ領收濟通知書ヲ添ヘ其ノ旨ヲ當該取扱店ニ通知スヘシ但シ大藏大臣ノ別ニ定ムル場合ニ於テハ電信ヲ以テ之カ通知ヲ爲スモノトス

前項ノ通知ヲ受ケタル日本銀行ハ其ノ金額ヲ當該特別會計ノ歲入金トシテ其ノ支拂元受高ニ組入ノ手續ヲ爲シ領收濟通知書ハ之ヲ歲入徵收官ニ送付スヘシ

第十七條ノ二　日本銀行支出官事務規程第二十六條ノ二ノ規定ニ依リ小切手ノ交付ヲ受ケタルトキハ振替受拂ノ手續及所得稅法施行細則第二條（朝鮮、臺灣、樺太、關東州又ハ南洋群島ニ在リテハ其ノ當該法規）ノ手續ヲ爲スヘシ

第十七條ノ三　前條ノ規定ハ日本銀行出納官吏事務規程第四十七條ノ規定ニ依リ分類所得稅納付ノ爲振出シタル小切手ノ交付ヲ受ケタル場合ニ之ヲ準用ス

第十八條　日本銀行每年度所屬歲入金ノ受入ヲ爲シ得ル期間經過後納入ヨリ當該年度ノ記載アル納稅告知書、納入告知書又ハ納付書ヲ添ヘ現金ノ納付ヲ受ケタルトキハ現年度ノ歲入ニ組入ノ手續ヲ爲スヘシ

第十九條　日本銀行每年度所屬歲入金ノ受入ヲ爲シ得ル期間經過後出納官吏又ハ收納事務ヲ取扱フ市町村若ハ之ニ準スヘキモノヨリ當該年度ノ記載アル現金拂込書又ハ送付書ヲ添ヘ現金ノ拂込ヲ受ケタルトキハ現年度ノ歲入トシテ之ヲ領收シ現金拂込書、送付書、領收證書又ハ領收濟通知書ニ現年度ノ押印ヲ爲シ第十四條ノ手續ヲ爲スヘシ但シ第十九條ノ規定ニ依リ取扱ヒタル收入額ハ所屬年度每ニ別表ニ調製スルモノトス

第八十八條　歲入金月計突合表ハ日本銀行統轄店ニ於テ自店及其ノ所屬店（大藏大臣ノ指定スル所屬店ヲ除ク）ノ取扱ヒタル收入額及其ノ累計額ヲ揭ケタル歲入金月計突合表二通ヲ每月（年度經過後整理期間末日ノ屬スル月以外ノ收入額及更正拂額ナキ月ヲ除ク）前條ノ歲入金月計突合表ト別表ニ調製シ翌月七日迄ニ到達ノ日取ヲ以テ歲入徵收官ニ送付シ其ノ一通ニ證明ヲ受ケ之カ返付ヲ受クヘシ但シ第十九條ノ規定ニ依リ取扱ヒタル收入額ハ所屬年度每ニ別表ニ調製スルモノトス

第八十八條ノ二　日本銀行統轄店ハ大藏大臣ノ指定スル所屬店ヲ除ク）ノ取扱ヒタル收入額及其ノ累計額ヲ揭ケタル歲入金月計突合表二通ヲ每月（年度經過後整理期間末日ノ屬スル月以外ノ收入額及更正拂額ナキ月ヲ除ク）前條ノ歲入金月計突合表ト別表ニ調製シ大藏大臣ノ指定スル期日迄ニ到達ノ日取ヲ以テ歲入徵收官ニ送付シ其ノ一

通ニ證明ヲ受ケ之カ返付ヲ受クヘシ

前條但書ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第九十六條　日本銀行歲入徵收官、支出官又ハ出納官吏ノ送付ニ係ル納稅告知書、納入告知書、小切手、返納告知書又ハ現金拂込書ノ誤謬訂正請求書ニシテ每年度所屬歲入金又ハ歲出金ノ受入又ハ支拂ヲ爲シ得ル期間內ニ到達シタルモノニ付テハ當該店ニ於テ受付ヲ爲シタル日附ニ依リ之カ訂正ノ手續ヲ爲シ歲入徵收官又ハ出納官吏ノ請求ニ依ルモノハ歲入徵收官ニ對シ、支出官ノ請求ニ係ルモノハ支出官ニ對シ其ノ旨ヲ通知スヘシ

第九十八條　日本銀行歲入徵收官、出納官吏、預金部預金ノ預ケ人又ハ拂込人ヨリ領收濟通知書、領收證書、預託金領收證書、預金部預金領收證書、預金部預金拂込濟通知書又ハ預金證入有價證券保管通知書ノ證明請求書ノ提出アリタル場合ニ於テハ之ヲ調査シ正當ナリト認メタルトキハ該請求書ノ餘白ニ證明ノ上之ヲ歲入徵收官、出納官吏、預ケ人又ハ拂込人ニ交付スヘシ但シ拂込人ニ對シ證明ヲ爲シタル場合ニ於テハ預ケ人ニ對シテ其ノ旨ヲ通知スルモノトス

前項ノ規定又ハ收納事務ヲ取扱フ市町村、銀行、會社其ノ他ノ者ヨリ拂込濟證明ノ請求アリタル場合ニ之ヲ準用ス

前二項ノ手續ヲ爲シタルトキハ其ノ事由ヲ帳簿又ハ證憑書類ニ記入シ置クヘシ

○日本銀行ノ國稅金受入ニ關スル特別取扱手續

（昭和十六年七月三十日大藏省令第四十七號）

改正　昭和一七年勅令五八號　同一九年勅令八號

第一條　日本銀行ハ大藏大臣ノ認可ヲ經テ定メタル地域ニ國稅金（國稅徵收法第五條ノ規定ニ依リ市町村ノ徵收スルモノ及支出官、出納官吏又ハ市町村ノ拂込又ハ送付ヲ爲スモノヲ除ク以下同シ）及其ノ督促手數料ノ受入ノミヲ取扱フ代理店ヲ設クルコトヲ得

前項ノ代理店ハ之ヲ日本銀行國稅代理店ト稱ス

第一項中國稅徵收法トアルハ朝鮮ニ在リテハ國稅徵收令ニ於テ依ルコトヲ定メタル國稅徵收法、臺灣ニ在リテハ明治四十年勅令第五十六號ニ於テ準用スルコトヲ定メタル國稅徵收法トシ市町村トアルハ、朝鮮ニ在リテハ府邑面、臺灣ニ在リテハ市街庄、關東州ニ在リテハ市會トス

第二條　日本銀行其ノ國稅代理店ヲ設ケントスル場合ニ於テハ豫メ其ノ位置及之カ事務ヲ取扱フ銀行ノ店舖ノ名稱竝ニ其ノ事務ヲ取纏ムル日本銀行ノ本店、支店又ハ代理店（以下國稅取纏店ト稱ス）ノ名稱及位置ヲ大藏大臣ニ屆出ヅベシ此ノ場合大藏大臣ハ之ヲ告示ス

前項ノ規定ハ日本銀行其ノ國稅代理店ヲ廢止セントスル場合ニ之ヲ準用ス

第三條　日本銀行國稅代理店國稅及其ノ督促手數料ノ納付義務者ヨリ納稅告知書、納付書、又ハ拂込書ヲ添ヘ現金ノ納付又ハ拂込ヲ受ケタルトキハ之ヲ領收シ領收證書ヲ納付義務者ニ交付シ領收濟通知書ハ納稅告知書、納付書、拂込書其ノ他ノ證憑書類ト共ニ之ヲ所轄國稅取纏店前條ノ規定ニ依リ書類ノ送付ヲ受ケタルトキハ自店ノ受入レタル歲入金ノ事務取扱ニ準シ之カ事務ヲ取扱フヘシ

第四條　國稅取纏店前條ノ規定ニ依リ書類ノ送付ヲ受ケタルトキハ自店ノ受入レタル歲入金ノ事務取扱ニ準シ之

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○證券ヲ以テスル歲入納付ニ關スル法律

（大正五年三月七日法律第十號）

證券納付　**第一條**　租稅其ノ他ノ政府ノ歲入ハ命令ノ定ムル所ニ依リ證券ヲ以テ之ヲ納付スルコトヲ得但シ印紙又ハ郵便切

國稅徵收　證券ヲ以テスル歲入納付ニ關スル法律

ノ範圍

手ヲ以テ納付スヘキモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

證券納付ノ支拂不能ノ場合

第二條　前條ノ規定ニ依リ納付シタル證券ニ付支拂ナカリシモノト看做ス此ノ場合ニ於テハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

前項ノ規定ニ依リ關稅又ハ噸稅ヲ初ヨリ納付ナカリシモノト看做シテ徵收スル場合ニ於テ之ヲ納付セサルトキハ內國稅徵收ニ關スル規定ヲ準用ス

市町村ニ關スル事項

第三條　本法ニ依リ證券ヲ受領シタル市町村ハ證券ニ屬スル權利ヲ行使シ現金ヲ國庫ニ送付スル責任アルモノトス但シ命令ノ定ムル所ニ依リ證券ヲ國庫ニ送付スルコトヲ得

市町村其ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ依リ證券金額ノ支拂又ハ償還ヲ受クルコトヲ得サルトキハ其ノ事實ヲ具シ政府ニ責任ノ免除ヲ請フコトヲ得

前項ノ申出アリタルトキハ政府ハ事實ヲ審査シ市町村ノ歲入ノ納付ニ使用スルコトヲ得ル證券ハ左ニ揭クルモノニシテ其ノ金額ノ納付金額ヲ超過セサルモノニ限ル但シ第二號ノ場合ニ於テ利子支拂ノ際課稅セラルル租稅ノ額ニ相當スル金額ニ付テハ此ノ限ニ在ラス（大正十一年勅令第四百六十六號改正）

一　小切手又ハ一覽拂ノ爲替手形ニシテ無記名式又ハ記名式ノモノヲ除ク）ニシテ支拂期ノ到達シタルモノ

二　國債證券ノ利札（記名式ノモノヲ除ク）ニシテ支拂期ノ到達シタルモノ

三　郵便通常爲替證書（日滿通常爲替證書ヲ含ム）若ハ郵便振替貯金拂出證書ニシテ歲入ヲ納付スヘキ官署、日本銀行、市町村ヲ受取人ト爲シタルモノ又ハ郵便小爲替證書（日滿小爲替證書ヲ含ム）ニシテ歲入ヲ納付スヘキ官署、日本銀行、市町村ヲ受取人ト指定シ若ハ受取人ヲ指定セサルモノ

前項ノ證券ニシテ呈示期間若ハ有效期間ノ滿了ニ近ツキタルモノ又ハ支拂不確實ナリト認ムルモノハ出納官吏、日本銀行又ハ市町村其ノ受領ヲ拒絕スルコトヲ得

證券ノ支拂場所カ受領者ノ所在地ニ在ラサルモノニ付亦前項ニ同シ但シ支拂場所カ受領者ノ所在地ニ在ラサルモノハ此ノ限ニ在ラス

第二條　證券ヲ呈示期間內又ハ有效期間內ニ呈示シ支拂ヲ請求シタル場合ニ於テ支拂ノ拒絕アリタルトキハ歲入ハ初ヨリ納付ナカリシモノト看做ス

第三條　前條ノ場合ニ於テハ出納官吏、日本銀行又ハ市町村ハ納人ニ對シ遲滯ナク書面ヲ以テ證券ノ支拂ナカリシ旨及其ノ證券ノ還付ヲ請求スヘキ旨ヲ通知スヘシ（大正十一年勅令第百六十五號改正）

前項ノ通知書ヲ受クヘキ者其ノ受取ヲ拒ミタルトキ又ハ住所、居所不明ナルトキハ通知書記載ノ要旨ヲ公告スヘシ

第一項ノ通知書ヲ發シタル日又ハ第二項ノ公告ヲ爲シタル日ヨリ一年ヲ經過シタルトキハ納人ハ證券ノ還付ヲ請求スルコトヲ得ス

第四條　出納官吏、日本銀行又ハ市町村ノ受領シタル證券ノ取扱ニ關シテハ大藏大臣ノ定ムル所ニ依ル

第五條　證券ヲ以テ納付シ得ル歲入ノ種目ハ主管大臣之ヲ定ム

○歲入納付ニ使用スル證券ニ關スル件

（大正五年十二月二十一日勅令第二百五十六號）

改正　大正一一年勅一六五號　同五年勅二九四號　昭和九年勅三九五號　同一二年勅六八五號　同一五年勅四六六號

第一條　大正五年法律第十號ニ依リ租稅其ノ他ノ歲入ノ納付ニ使用スルコトヲ得ル證券ハ左ニ揭クルモノニシテ其ノ金額ノ納付金額ヲ超過セサルモノニ限ル但シ第二號ノ場合ニ於テ利子支拂ノ際課稅セラルル租稅ノ額ニ相

當スル金額ニ付テハ此ノ限ニ在ラス（大正十一年勅令第百六十五號、同十五年勅令第二百九十四號及昭和十五年勅令第四百六十六號改正）

一　小切手又ハ一覽拂ノ爲替手形ニシテ無記名式又ハ記名持參人拂ノモノ

二　國債證券ノ利札（記名式ノモノヲ除ク）ニシテ支拂期ノ到達シタルモノ

三　郵便通常爲替證書（日滿通常爲替證書ヲ含ム）若ハ郵便振替貯金拂出證書ニシテ歲入ヲ納付スヘキ官署、日本銀行、市町村ヲ受取人ト爲シタルモノ又ハ郵便小爲替證書（日滿小爲替證書ヲ含ム）ニシテ歲入ヲ納付スヘキ官署、日本銀行、市町村ヲ受取人ト指定シ若ハ受取人ヲ指定セサルモノ又ハ支拂不確實ナリト認ムルモノハ出納官吏、日本銀行又ハ市町村其ノ受領ヲ拒絕スルコトヲ得

證券ノ支拂場所カ受領者ノ所在地ニ在ラサルモノニ付亦前項ニ同シ但シ支拂場所カ受領者ノ所在地ニ在ラサルモノハ此ノ限ニ在ラス

第二條　證券ヲ呈示期間內又ハ有效期間內ニ呈示シ支拂ヲ請求シタル場合ニ於テ支拂ノ拒絕アリタルトキハ歲入ハ初ヨリ納付ナカリシモノト看做ス

第三條　前條ノ場合ニ於テハ出納官吏、日本銀行又ハ市町村ハ納人ニ對シ遲滯ナク書面ヲ以テ證券ノ支拂ナカリシ旨及其ノ證券ノ還付ヲ請求スヘキ旨ヲ通知スヘシ（大正十一年勅令第百六十五號改正）

前項ノ通知書ヲ受クヘキ者其ノ受取ヲ拒ミタルトキ又ハ住所、居所不明ナルトキハ通知書記載ノ要旨ヲ公告スヘシ

第一項ノ通知書ヲ發シタル日又ハ第二項ノ公告ヲ爲シタル日ヨリ一年ヲ經過シタルトキハ納人ハ證券ノ還付ヲ請求スルコトヲ得ス

第四條　出納官吏、日本銀行又ハ市町村ノ受領シタル證券ノ取扱ニ關シテハ大藏大臣ノ定ムル所ニ依ル

第五條　證券ヲ以テ納付シ得ル歲入ノ種目ハ主管大臣之ヲ定ム

第六條　大藏大臣ハ證券ノ金額、種類又ハ納付場所ニ依リ其ノ納付ニ關シ制限ヲ加フルコトヲ得
主管大臣ハ前項規定ニ依リ大藏大臣ノ定メタルモノノ外主管歲入ノ納付ニ付更ニ制限ヲ加フルノ必要アリト認
ムルトキハ大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ムルコトヲ得

第七條　市町村ニ於テ大正五年法律第十號第三條第二項ノ規定ニ依リ責任ノ免除ヲ請ハムトスルトキハ地方長官
ヲ經由シテ主管大臣ニ申請書ヲ提出スヘシ
地方長官前項ノ申請書ヲ受ケタルトキハ事實ヲ調査シ意見ヲ具シテ主管大臣ニ送付スヘシ

第八條　本令中市町村ニ關スル規定ハ法令ニ依リ租稅其ノ他ノ歲入ヲ徵收シ其ノ徵收金ヲ國庫ニ送付スヘキ責任
アル者ニ之ヲ準用ス

第九條　本令中主管大臣ノ職務ハ朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督、臺灣ニ在リテハ臺灣總督、樺太ニ在リテハ樺太廳長
官、關東州ニ在リテハ滿洲國駐劄特命全權大使、南洋群島ニ在リテハ南洋廳長官之ヲ行フ但シ第六條第二項ノ
場合ニ於テハ主管大臣ヲ經由スルコトヲ要ス（大正一一年第一六五號、昭和九年第三九五號及同一二年第六八
五號改正）
本令中地方長官ノ職務ハ朝鮮ニ在リテハ道知事、臺灣ニ在リテハ州知事又ハ廳長、樺太ニ在リテハ樺太廳支廳
長之ヲ行フ

附　則

本令ハ大正六年一月一日ヨリ之ヲ施行ス
明治三十八年勅令第三十四號ハ之ヲ廢止ス

○證券ヲ以テスル歲入納付ニ關スル法律施行細則

（大正五年十二月二十一日大藏省令第三十二號）

改正　大正一一年證令三六號　同一五年藏令三二號　昭和一五年藏令五三號

證券ヲ以テスル歲入納付ニ關スル法律施行細則左ノ通定メ大正六年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

第一條　證券ヲ以テ租稅其ノ他ノ歲入金ヲ納付セムトスル者ハ其ノ證券ノ裏面ニ記名捺印シ指定ノ場所ニ之ヲ納
付スヘシ納稅告知書、納入告知書、納付書又ハ拂込通知書ノ交付ヲ受ケタル者ニ在リテハ之ヲ添付スルコトヲ
要ス

第一條ノ二　國債證券ノ利札（記名式ノモノヲ除ク）ハ當該利札ニ對スル利札支拂ノ際課稅セラルル租稅ノ額ヲ控
除シタルモノヲ以テ納付金額ト爲スヘシ法令ノ規定ニ依リ租稅ヲ課セラレサルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス
（大正十五年大藏省令第三十二號及昭和十五年大藏省令第五十三號改正）

第二條　出納官吏（出納員ヲ含ム以下同シ）、日本銀行又ハ市町村（朝鮮ノ府面、臺灣ノ區長ヲ含ム以下同シ）ニ
於テ證券ヲ受領シタルトキハ歲入金ノ領收證書、歲入徵收官ニ對スル領收濟報告書又ハ領收濟通知書ニ「證券
受領」ノ印章ヲ押捺スヘシ歲入金ノ一部分ヲ證券ヲ以テ受領シタル場合ニ於テハ其ノ證券金額ヲ附記スルコト
ヲ要ス（大正十一年大藏省令第三十六號及昭和十五年大藏省令第五十三號改正）

第三條　受領シタル證券ハ遲滯ナク其ノ支拂人ニ呈示シ支拂ノ請求ヲ爲スヘシ出納官吏又ハ市町村ノ受領シタル
證券ニシテ左記各號ノ要件ヲ具フルモノハ其ノ裏面ニ第一號樣式ノ朱印ヲ押捺シ第二號樣式ノ仕譯書ヲ添附シ
テ之ヲ日本銀行ニ拂込又ハ送付スルコトヲ得（大正十一年大藏省令第三十六號改正）

一　持參人ニ支拂ハルヘキモノニシテ其ノ支拂場所カ日本銀行本店、支店又ハ代理店所在地ニ在ルモノ
二　日本銀行ニ到達後呈示期間又ハ有效期間ノ滿了迄ニ三日以上ノ餘裕アルモノ

出納官吏支拂保證ヲ要セサル旨ノ承認ヲ得タル納人ヨリ支拂保證ナキ小切手ヲ受領シタル場合ニ於テ之ヲ日本

銀行ニ拂込マムトスルトキハ其ノ裏面ニ「無保證證券承認」ノ捺印ヲ押捺スヘシ

第四條　出納官吏ノ拂込又ハ市町村ノ送付ニ係ル證券中前條規定ノ印章ヲ押捺セサルモノアルトキハ日本銀行ハ之カ受領ヲ拒絶スヘシ(大正十一年大藏省令第三十六號改正)

第五條　大正五年勅令第二百五十六號第二條ノ規定ニ該當スル場合ニ於テハ出納官吏、日本銀行又ハ市町村ハ直ニ其ノ支拂ナカリシ金額ニ相當スル領收濟額ヲ取消スヘシ領收濟額ヲ取消シタル出納官吏又ハ日本銀行ハ遲滯ナク其ノ旨ヲ歳入徵收官(分掌官經由)ニ報告スルコトヲ要ス(同上)

歳入徵收官收入濟額ヲ取消シタルトキハ日本銀行ハ直ニ其ノ旨ヲ出納官吏又ハ市町村ニ通知シ該證券ヲ返付スヘシ(同上)

第六條　歳入徵收官(分掌官ヲ含ム以下同シ)ニ於テ出納官吏又ハ日本銀行ヨリ領收濟額取消ノ報告ヲ受ケタルトキハ直ニ收入濟額ヲ取消スヘシ(同上)

歳入徵收官收入濟額ヲ取消シタルトキハ納入ニ對シ前ニ發付又ハ交付シタルモノト同一納期日ノ納稅告知書、納入告知書、納付書又ハ拂込通知書ヲ送付スヘシ但シ領收濟額取消ノ報告ヲ受ケタル日カ歳入金ノ納期日又ハ督促狀若ハ督促書ノ指定期日後ニ屬スルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ハ市町村ニ於テ領收濟證ヲ取消シタル場合ニ之ヲ準用ス

第七條　大正五年勅令第二百五十六號第三條ノ通知書ハ納入ヨリ證券ヲ受領シタル出納官吏、日本銀行又ハ市町村之ヲ發スヘシ(大正十一年大藏省令第三十六號改正)

前項通知書ノ送達ヲ爲スコト能ハサル場合ニ於ケル公告ハ官報ニ揭載シテ之ヲ爲スヘシ但シ出納官吏在勤官署、日本銀行又ハ市町村ノ揭示場ニ七日間揭示シテ之ニ代フルコトヲ得(同上)

第八條　支拂ナカリシ證券ノ還付ヲ受ケムトスル納入ハ其ノ證券ヲ納付シタル官署、日本銀行又ハ市町村役場ニ就キ之カ請求ヲ爲スヘシ(同上)

出納官吏、日本銀行又ハ市町村ハ領收證書ヲ徵シ之ト引換ニ證券ヲ還付スヘシ(同上)

第九條　郵便ニ依リ納付シタル證券ニシテ受領スヘカラサルモノ又ハ受領シタル證券ニシテ僞造、變造若ハ違式ナルモノニ付テハ第五條乃至第八條ノ規定ヲ準用ス

第十條　證券ノ呈示期間若ハ有效期間ヲ經過シタルカ爲支拂ヲ受クルコトヲ得サルトキ又ハ證券ヲ亡失シタルトキハ出納官吏在勤官署、日本銀行又ハ市町村ハ證券ノ種類ニ從ヒ直ニ當該法規ノ定ムル所ニ依リ必要ナル手續ヲ爲シ支拂又ハ償還ノ請求ヲ爲スヘシ(同上)

前項ノ場合ニ於テ裁判上ノ行爲ヲ必要トスルトキハ出納官吏在勤官署ニ在リテハ民事訴訟ニ付國ヲ代表スル所屬官廳ニ、日本銀行ニ在リテハ大藏大臣ニ遲滯ナク其ノ事由ヲ具シテ之カ處理ヲ申請スヘシ(同上)

市町村ハ第一項ニ依リ支拂又ハ償還ヲ受クルニ先タチ之ニ相當スル金額ヲ日本銀行ニ送付スルコトヲ得(同上)

第十一條　亡失シタル證券又ハ呈示期間若ハ有效期間ヲ經過シタル證券ニシテ支拂又ハ償還ヲ受クルコトヲ得サリシモノノ金額ニ付テハ出納官吏、日本銀行又ハ市町村ハ避クヘカラサル事由ヲ證明スルニアラサレハ其ノ責任ヲ免カルルコトヲ得ス(同上)

第十二條　歳入徵收官ニ於テ大正五年大藏省令第三十號第二條ニ依リ承認ヲ爲ストキハ納稅告知書、納入告知書、納付書、拂込通知書又ハ即納通知書ヲ用キルモノニ在リテハ其ノ餘白ニ第三號樣式ノ印章ヲ押捺スヘシ

第十三條　出納官吏、日本銀行又ハ市町村ニ於テ證券ヲ受領シタルトキハ現金ニ準シテ之ヲ取扱フヘシ(同上)

市町村ハ受領證券仕譯簿ヲ備ヘ納入別ニ之カ整理ヲ爲スヘシ

第十四條　鐵道、郵便電信電話官署ノ出納官吏ニ於テ受領シタル證券ニシテ第三條第一項但書ニ該當スルモノハ之ヲ日本銀行ニ預託シ又ハ郵便局過超金ノ振換拂込ニ充用スルコトヲ得(同上)

前項ノ規定ニ依リ拂込マレタル預託金又ハ郵便局過超金ニ付テハ日本銀行ハ其ノ證券ヲ現金ニ引換ヘタル後ニ非サレハ預託金領收證書又ハ郵便局過超金領收證書ヲ交付スルコトヲ得ス(同上)

國稅徵收　證券ヲ以テスル歳入納付ニ關スル法律施行細則

第一號樣式

「何官署」「何市町村」扱

第二號樣式　用紙適宜　輪廓寸法　縱四寸五分　橫三寸三分

字體　楷書
寸法　曲尺　縱一寸　橫五分

號　第　書譯仕券證

種類	枚數	券面金額	
小切手			
國利債證券ノ札			
郵便爲替證書			
郵便振替貯金證書			
合計			

年　月　日

名　氏　官吏官納出署官何　㊞

又ハ

名　氏　長村町市何　㊞

備考

一　本書記載事項ニ訂正ヲ加ヘタルトキハ出納官吏又ハ市町村長其ノ認印ヲ押捺スルモノトス

二　本書ハ正副二通ヲ作リ副本ハ拂込、預託又ハ送付金額ニ對スル日本銀行ノ領收證書ヲ添附シ置クモノトス

三　國債證券ノ利札ニシテ第一條ノ二ニ該當スル場合ニ於テハ券面金額欄ニ納付金額ヲ記載シ利子支拂ノ際課稅セラルル租稅ノ額ニ相當スル金額ヲ外書スルモノトス

第三號樣式

小切手ヲ以テ納付スル場合ニハ支拂銀行ノ支拂保證ヲ要セス

「何官署」

字體　楷書
寸法　適宜

○證券納付ニ關スル制限（大正五年十二月二十一日大藏省令第三十號）

改正　大正一一年藏令三四號　同五年藏令三一號　昭和一五年藏令五二號

大正五年勅令第二百五十六號第六條第一項ニ依リ證券ノ納付ニ關スル制限左ノ通相定ム

第一條　政府ノ振出シタル小切手ハ其ノ振出日付ヨリ一年ヲ經過セルモノニシテ且指圖禁止ノ旨ノ記載ナキモノナルコトヲ要ス（大正十一年大藏省令第三十四號及昭和十五年大藏省令第五十二號改正）

國稅徵收　證券納付ニ關スル制限

前項以外ノ小切手ハ左ニ揭クル銀行ニ宛テタルモノナルコトヲ要ス（同上）

一　特別ノ法律ニ依リ設立セラレタル銀行（本店及支店）

二　手形交換所ニ加入シタル銀行（當該本店若ハ支店ニ限ル第三號乃至第五號之ニ倣フ）

三　國庫金出納事務ノ取扱ニ付日本銀行ノ代理店タル銀行

四　道府縣本金庫ノ事務所ヲ取扱フ銀行

五　朝鮮ノ道金庫、臺灣ノ州金庫、及廳金庫又ハ關東州ノ地方費現金取扱所ノ事務ヲ取扱フ銀行

六　第二號乃至第五號ニ該當スル銀行ノ所在地ニ在ル同一銀行ノ支店

第二條　第一條第二項ノ規定ニ依ル小切手ハ左記各號ノ一ニ該當スル場合ヲ除クノ外其ノ一通ノ金額又ハ一口ノ歲入納付ニ使用スル其ノ合計金額一萬圓以上ナルトキハ支拂銀行ノ支拂保證アルモノナルコトヲ要ス（大正十一年大藏省令第三十四號及昭和十五年大藏省令第五十二號改正）

一　日本銀行本店、支店又ハ國庫金出納事務ノ取扱ニ付日本銀行ノ代理店タル銀行ニ宛テタルモノニシテ之ヲ日本銀行ニ納付スルトキ

二　第一條第二項ノ銀行ニ宛テタル其ノ銀行振出ノ小切手ニシテ之ヲ日本銀行ニ納付スルトキ

三　歲入納付ノ告知ヲ爲ス官署ニ於テ支拂保證アルコトヲ要セサル旨ノ承認ヲ與ヘタルトキ

歲入納付ノ告知ヲ爲ス官署ハ保證人又ハ擔保物アル歲入ニシテ其ノ告知額ヲ納付スルモ直ニ保證證書又ハ擔保物ノ返還ヲ要セサルモノニ限リ前項第三號ノ承認ヲ與フルコトヲ得（昭和十五年大藏省令第五十二號改正）

第三條　爲替手形ハ日本銀行本店、支店又ハ國庫金出納事務ノ取扱ニ付日本銀行ノ代理店タル銀行（當該本店若ハ支店ニ限ル）ニ宛テタルモノニシテ振出人ニ於テ支拂拒絕證書ノ作成ヲ免除シタルモノナルコトヲ要ス（大正十一年大藏省令第三十四號改正）

第四條　爲替手形ハ日本銀行ニ歲入ヲ納付スル場合ノ外之ヲ使用スルコトヲ得ス（同上）

第五條　國債證券（記名式ノモノヲ除ク）ノ利札ニシテ法令ノ規定ニ依リ租稅ヲ課セラレサルモノハ日本銀行其ノ他ノ利子支拂場所ニ歲入ヲ納付スル場合ノ外之ヲ使用スルコトヲ得ス（大正十五年大藏省令第三十一號及昭和十五年大藏省令第五十二號改正）

附　則

本令ハ大正六年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

○大藏省主管歲入ニ證券ヲ以テ納付スル件

（大正五年十二月二十一日大藏省令第三十一號）

改正　大正一一年勅令三五號　昭和一五年勅令六五號

第一條　大藏省主管ノ歲入ハ別段ノ規定アルモノヲ除クノ外總テ證券ヲ以テ之ヲ納付スルコトヲ得

第二條　政府以外ノ者ノ提出シタル小切手又ハ爲替手形ハ左ニ揭クル歲入ノ納付ニ之ヲ使用スルコトヲ得ス（大正十一年大藏省令第三十五號改正）

一　科料及過料

二　間接國稅犯則者納金及間接國稅犯則者處分費辨納金

三　關稅法第九十四條ノ規定ニ依ル納金

第三條　郵便局ニ於テ取扱フ歲入ハ左ニ揭クル證券ヲ以テ之ヲ納付スルコトヲ得ス（同上）

一　政府以外ノ者ノ振出シタル小切手ニシテ納付スヘキ郵便局所在地ノ手形交換所ニ加入セル銀行ニ宛テタルモノ但シ其ノ手形交換所ニ加入セル銀行ノ所在地ニ在ル同一銀行ノ支店ニ宛テタルモノヲ除ク

二　郵便爲替證書（日滿郵便爲替證書ヲ含ム）又ハ郵便振替貯金拂出證書ニシテ納付スヘキ郵便局以外ノ郵便局ヲ拂渡郵便局トシテ指定シタルモノ

三　政府以外ノ者ノ振出シタル小切手又ハ郵便爲替證書（日滿郵便爲替證書ヲ含ム）若ハ郵便振替貯金拂出證書

國稅徵收　租稅其ノ他ノ收入徵收處分嘱託ニ關スル法律
歲入年度等誤謬ノ場合訂正手續

以外ノ證券ニシテ其ノ支拂場所カ納付スヘキ郵便局ノ所在地ニ在ラサルモノ

第四條　町村ニ於テ徵收スル歲入ハ政府以外ノ者ノ振出シタル小切手ヲ以テ之ヲ納付スルコトヲ得ス但シ左ニ揭クル町村ノ徵收スル歲入ニ付テハ此ノ限ニ在ラス（同上）

一　市ニ接續スル町村

二　大正五年大藏省令第三十號第一條ニ揭ケタル銀行ノ所在地タル町村

附　則

本令ハ大正六年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

○租稅其ノ他ノ收入徵收處分嘱託ニ關スル法律

（明治四十年四月九日法律第三十四號）

第一條　法令ノ規定ニ依リ國稅ヲ徵收セラルヘキ者又ハ其ノ者ノ財產ニシテ其ノ法令施行地外ニ在ルトキハ當該官吏ハ本人又ハ財產所在地ノ當該官吏又ハ吏員ニ其ノ徵收ヲ嘱託スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於ケル國稅ノ徵收ハ嘱託ヲ受ケタル地ノ當該法令ニ依ル

第二條　前條ノ規定ハ公共團體又ハ之ニ準スヘキモノノ租稅其ノ他ノ收入ヲ徵收セラルヘキ者又ハ其ノ者ノ財產カ其ノ公共團體又ハ之ニ準スヘキモノノ區域外ニ在ル場合ニ之ヲ準用ス

○歲入年度等誤謬ノ場合訂正手續

（大正十一年四月五日大藏省令第三十八號）

第一條　歲入徵收官ハ出納官吏、郵便局又ハ日本銀行ニ於テ現金收納後納稅告知書、納入告知書、拂込通知書、納付書又ハ送付書ニ記載セル年度、所管、會計名、經常臨時部別又ハ款項ニ誤謬アルコトヲ發見シタルトキハ當該年度所屬歲入金ノ受入ヲ爲シ得ル期間出納官吏、取纏郵便局又ハ日本銀行ニ之カ訂正ヲ請求スルコトヲ得

第二條　前條ノ場合ニ於テ其ノ歲入金ニシテ郵便局ノ取扱ニ係リ其ノ誤謬ヲ發見シタルトキ既ニ日本銀行ニ振替拂込ヲ了シタル後ナルトキハ歲入徵收官ハ直ニ日本銀行當該店ニ對シ前條ノ手續ヲ爲スヘシ

第三條　歲入徵收官出納官吏、取纏郵便局又ハ日本銀行ヨリ誤謬訂正濟ノ報告ヲ受ケタルトキハ該報告書ニ依リ其ノ訂正シタル月ニ於テ徵收簿ヲ訂正シ其ノ事由ヲ領收濟ノ報告書又ハ通知書ニ記載スヘシ

前項ノ記入ヲ爲シタルトキ既ニ其ノ月ノ計算締切後ナルトキハ訂正ヲ爲シタル月ノ徵收報告書ニ其ノ事由ヲ附記スヘシ

第四條　甲廳歲入徵收官誤テ乙廳所管歲入金ヲ徵收シタル場合ニ於テハ甲乙兩廳歲入徵收官連署ノ上關係出納官吏、取纏郵便局又ハ日本銀行ニ對シ之カ更正ヲ請求スヘシ

前三條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第五條　歲入徵收官當該年度出納閉鎖前歲入年度誤謬ノ訂正ヲ了セサル場合又ハ出納閉鎖後歲入年度ノ誤謬ヲ發見シタルトキハ誤謬ノ儘據置整理シ其ノ事由及金額ヲ記載シ歲入事務管理廳ヲ經由シテ之ヲ大藏大臣ニ報告スヘシ

附　則

本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ適用ス

明治二十四年大藏省令第十一號ハ之ヲ廢止ス

○諸收入收納取扱規程（明治三十三年四月六日大藏省訓令第二十七號）

改正　明治三三年藏訓六二號　同三四年藏訓一二號　同年藏訓一七號　大正二年藏訓一〇號　昭和一〇年藏訓一〇號　同一六年藏訓一三號　同一九年藏訓九號

明治二十六年大藏省訓令第四十二號諸收入收納取扱規程左ノ通改正シ明治三十三年度ヨリ施行ス

第一條　東京都、警視廳、北海道廳、府縣、財務局及稅務署ニ於テ收納スル國外ノ諸收入ハ大藏省主管トシテ特別ノ規定アルモノヲ除クノ外此規程ニ依リ取扱フヘシ（明治三三年第六二號、同三四年第二號、同三五年第四六號、昭和一〇年第一〇號、同一六年第一三號、同一九年第九號改正）

第二條　歲入徵收官ハ諸收入ヲ徵收セントスルトキハ特別ノ規定アルモノヲ除クノ外十五日以內ニ於テ適宜納期日ヲ定メ各納人ニ對シ別記書式ノ納入告知書ヲ發スヘシ但シ納入ヲシテ收入官吏ニ卽納セシムル場合ニ於テハ納入告知書ヲ發スルコトヲ要セス（大正一一年第一〇號改正）

第三條　歲入徵收官ハ其所屬部署長ニ委任シテ諸收納事務ヲ分掌セシムルコトヲ得（大正一一年第一〇號昭和一〇年第一〇號改正）

第四條　納入告知書ハ納人ヲシテ納金ヲ納付スルトキ之ヲ添付セシムヘシ

第五條　歲入徵收官ハ納金ヲ其期限內ニ納付セサル者アルトキハ直チニ督促シ尙ホ完納ニ至ラサルトキハ速ニ相當ノ手續ヲ爲スヘシ（大正一一年第一〇號改正）

第六條　歲入徵收官ハ徵收簿ニ據リ徵收報告書ヲ調製シ歲入金月計突合表ヲ添ヘ翌月十五日迄ニ大藏省ニ送付スヘシ

東京都、北海道廳、府縣管下ノ所屬部署長ニシテ歲入徵收官タル者又ハ稅務署長ノ提出スル徵收報告書ハ東京都、北海道廳、府縣又ハ財務局ヲ經由スヘシ（昭和一六年第一三號、同一九年第九號改正）

前項ノ場合第一項ニ依ル徵收報告書竝歲入金月計突合表ハ翌月五日迄ニ經由廳ヘ送付スヘシ（大正一一年第一〇號、昭和一〇年第一〇號改正）

第七條　東京都長官、北海道長官、府縣知事、財務局長前條ノ徵收報告書ヲ受ケタルトキハ徵收報告書ニ準シタル集計書ヲ添付シ前條第一項ノ期限迄ニ大藏省ニ送付スヘシ（明治三五年第四六號、大正一一年第一〇號、昭和一〇年第一三號、同一六年第一三號、同一九年第九號改正）

第八條　諸收入ノ徵收事務ニ關スル取扱手續及帳簿報告等ノ書式ハ適宜之ヲ定ムヘシ

第九條　（削除）（明治三四年第一七號、大正一一年第一〇號、昭和一〇年第一〇號改正）

附　則（昭和十年六月大藏省訓令第十號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ從前ノ書式ニ依ル納入告知書ハ當分ノ內仍之ヲ使用スルコトヲ得

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ從前ノ書式ニ依ル納入告知書ハ當分ノ內仍之ヲ使用スルコトヲ得

領収済通知書

第何號	（納入）	
何年度	住所	
會計名	氏名	
經常「臨時」	何款	何項
大藏省主管	取扱廳名	歳入徴収官官氏名
金	萬 千 百 十 圓 十 錢	何日

但　何々（収入ノ目的ヲ記載ス）

「何年何月何日領収
日本銀行何店㊞」

「何年何月何日領収
何廳収入官吏　官氏　名㊞」

領収證書

（別記）

第何號	（納入）	
何年度	住所	
會計名	氏名	
大藏省主管	取扱廳名	
金	萬 千 百 十 圓 十 錢	何日

但　何々（収入ノ目的ヲ記載ス）

「何年何月何日領収
日本銀行何店㊞」

「何年何月何日領収

何廳収入官吏　官氏　名㊞」

納入告知書

第何號	（納入）	
何年度	住所	
會計名	氏名	
經常「臨時」	何款	何項
大藏省主管	取扱廳名	歳入徴収官官氏名
金	萬 千 百 十 圓 十 錢	何日

但　何々（収入ノ目的ヲ記載ス）
納期日　何年何月何日限
納付場所　日本銀行何店、何廳収入官吏「又ハ日本銀行本店、支店又ハ代理店」

上記ノ通納付セラルヘシ
何年何月何日
歳入徴収官「官掌官分官収歳入徴収官又ハ歳入」
何廳官氏　名㊞

備考

一　用紙寸法各片日本標準規格A6輪廓寸法各片縦百三十粍横九十五粍

二　領収済通知書及領収證用紙ノ番號、年度、會計名、經常「臨時」、歳入科目、取扱廳名、歳入徴収官官氏名、金額、納入（住所氏名）ハ總テ納入告知書發行者ニ於テ記入スルモノトス

三　番號、年度及金額ハ亞剌比亞數字ヲ以テ明瞭ニ記入スルモノトス

○國庫出納金端數計算法（大正五年一月二十九日法律第二號）

改正　昭和一七年法七二號　同一九年法七號　同二一年法一四號

第一條　國庫ノ收入金又ハ仕拂金ニシテ一錢未滿ノ端數アルトキハ其ノ端數ハ之ヲ切捨ツ其ノ金額一錢未滿ナルトキハ之ヲ一錢トス

命令ヲ以テ指定スル國稅ノ收入金又ハ還付金ニシテ十錢未滿ノ端數アルトキハ其ノ端數ハ之ヲ切捨ツ（昭和一九年法七號、同二一年法一四號改正）

第二條　國稅ノ課稅標準額ノ算定ニ付テハ前條第一項ノ規定ヲ準用ス（昭和一九法七號改正）

命令ヲ以テ指定スル國稅ノ課稅標準額ニシテ一圓未滿ノ端數アルトキハ其ノ端數ハ之ヲ切捨ツ

第三條　分割シテ收入シ又ハ仕拂フ金額ニ在リテハ其ノ總額ニ付第一條ノ規定ヲ準用ス

第四條　分割シテ收入又ハ仕拂フ爲ス場合ニ於テ分割金額一錢未滿ナルトキ又ハ之ニ一錢未滿ノ端數ヲ生シタルトキハ其ノ分割金額又ハ端數ハ最初ノ收入金又ハ支拂金ニ之ヲ合算ス

命令ヲ以テ指定スル國稅ヲ分割シテ收入スル場合ニ於テ分割金額十錢未滿ナルトキ又ハ之ニ十錢未滿ノ端數ヲ生シタルトキハ其ノ分割金額又ハ端數ハ最初ノ收入金ニ之ヲ合算ス（昭和一七年法第七二號、同一九年法第七號改正）

第五條　郵便切手ヲ以テ納ムル郵便料金ニ付テハ本法ヲ適用セス（同上）

法律ニ別段ノ定アルモノノ外本法ヲ適用セサルモノハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條　本法ハ北海道府縣市町村其ノ他勅令ヲ以テ指定シタル公共團體ノ收入及仕拂ニ關シテ之ヲ準用ス（昭和一七年第七二號改正）

附　則

第七條　本法ハ大正五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第八條　明治四十年法律第三十一號ハ之ヲ廢止ス但シ本法施行前納入ノ告知ヲ爲シ又ハ仕拂ノ命令ヲ發シタルモノニ付テハ仍其ノ效力ヲ有ス

附　則（昭和十七年法律第七十二號）

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（昭和十九年法律第七號）

第三十一條　本法ハ昭和十九年四月一日ヨリ之ヲ施行ス（以下略）

第四十四條　本法施行前納入ノ告知ヲ爲シタル國稅ノ收入金及還付金ノ端數ノ計算ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附　則（昭和二十一年法律第十四號）

第二十九條　この法律施行の期日は、各規定について、勅令でこれを定める。（昭和二十一年勅令第四百號により、昭和二十一年九月一日から施行）

○國庫出納金端數計算法第一條第二項、第二條第二項及第四條第二項ノ國稅指定ノ件（昭和十九年三月三十一日大藏省令第四十二號）

改正　昭和二十一年勅令第九十八號

第一條　國庫出納金端數計算法第一條第二項ノ國稅ヲ指定スルコト左ノ如シ（昭和二十一年大藏省令第九十八號改正）

一　所得稅（甲種ノ配當利子所得ニ對スル分類所得稅及所得稅法第百六條第一項ニ規定スル綜合所得稅ヲ除ク）

二　法人稅

國稅徵收　國庫出納金端數計算法

國稅徵收、國庫出納金端數計算法

三　相續稅
四　建築稅
五　鑛區稅
六　酒　稅
七　淸凉飮料稅
九　織物消費稅
十　物品稅
十一　遊興飮食稅
十二　特別行爲稅
十三　取引所稅
十四　入場稅
十五　廣告稅
十六　馬券稅
十七　關　稅
十八　噸　稅
十九　臨時利得稅
二十　特別法人稅
二十一　地　租
二十二　家屋稅
二十三　營業稅

第二條　國庫出納金端數計算法第二項ノ國稅ヲ指定スルコト左ノ如シ（昭和二十一年大藏省令第九十八號改正）

一　所得稅（甲種ノ配當利子所得ニ對スル分類所得稅及所得稅法第百六條第一項ニ規定スル綜合所得稅ヲ除ク）
二　法人稅
三　相續稅
四　建築稅
五　取引所稅
六　臨時利得稅
七　特別法人稅
八　家屋稅
九　營業稅

第三條　國庫出納金端數計算法第四條第二項ノ國稅ヲ指定スルコト左ノ如シ（昭和二十一年大藏省令第九十八號改正）

一　所得稅
二　個人臨時利得稅
三　個人營業稅

附　則

本令ハ昭和十九年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
大正五年三月大藏省令第二號ハ之ヲ廢止ス

附　則（昭和二十一年大藏省令第九十八號）

第十三條　この省令は、公布の日から、これを施行する。（昭和二十一年九月一日公布）

國稅徵收　國庫出納金端數計算法

○國庫出納金端數計算法第六條ニ於テ準用スル同法第一條第二項及第四條第二項ノ地方稅指定ノ件

（昭和十九年內務省令第十四號）

第一條　國庫出納金端數計算法第六條ニ於テ準用スル同法第一條第二項及第四條第二項ノ規定ニ依リ地方稅（樺太ニ於ケル地方稅ヲ除ク）ヲ指定スルコト左ノ如シ但シ東京都條例、北海道條例、府縣條例又ハ市町村條例ヲ以テ定ムル稅目ハ之ヲ除ク

一　東京都稅
二　北海道地方稅
三　府縣稅
四　市町村稅

第二條　國庫出納金端數計算法第六條ニ於テ準用スル同法第一條第二項及第四條第二項ノ規定ニ依ル樺太ニ於ケル地方稅ノ指定ハ樺太廳長官ノ定ムル所ニ依ル

附　則

本令ハ昭和十九年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○相續稅物納不動產收納規則

（昭和十七年二月十八日勅令第九十一號）

第一條　稅務署長ハ本令ノ定ムル所ニ依リ相續稅物納不動產ノ收納ニ關スル事務ヲ取扱フベシ

第二條　稅務署長不動產ニ依ル相續稅ノ物納ヲ許可シタルトキハ遲滯ナク當該不動產ノ所有權移轉ノ登記ヲ登記所ニ囑託スベシ

第三條　前條ノ登記完了シタルトキハ稅務署長ハ相續稅物納不動產收納濟證書ヲ納稅者ニ交付スルト共ニ相續稅物納不動產明細書ヲ當該不動產ヲ管理スベキ官廳ニ送付スベシ

第四條　稅務署長ハ每月相續稅物納報告書ヲ調製シ參照書類ヲ添ヘ之ヲ歲入事務管理廳ニ送付スベシ

第五條　歲入事務管理廳ハ相續稅物納報告書ニ依リ每月相續稅物納總報告書ヲ調製シ參照書類ヲ添ヘ其ノ翌月中ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スベシ

第六條　稅務署長ハ會計檢査院ニ證明ノ爲相續稅物納額計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ之ヲ歲入事務管理廳ニ送付シ歲入事務管理廳ハ之ヲ會計檢査院ニ送付スベシ

會計規則第七十五條及第百六十二條ノ規定ハ前項ノ計算書ニ付之ヲ準用ス

第七條　稅務署長ハ相續稅物納額ヲ記入スベシ

第八條　歲入事務管理廳ハ相續稅物納總括簿ヲ備ヘ之ニ相續稅物納總額ヲ記入スベシ

第九條　第三條乃至第五條ノ書類ノ樣式竝ニ前二條ノ帳簿ノ樣式及記入ノ方法ハ大藏大臣之ヲ定ム

附　則

本令ハ公告ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第四條又ハ第五條ノ報告書ノ調製ハ當分ノ內大藏大臣ノ定ムル所ニ依リ會計規則第三十七條又ハ第三十八條ノ徵收報告書又ハ徵收總報告書ニ爲ス記載ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

○相續稅物納不動產收納規則ノ規定ニ依リ調製スルコトヲ要スル書類ノ樣式竝ニ帳簿ノ樣式及記入ノ方法

（昭和十七年三月十二日大藏省令第十四號）

一　相續稅物納不動產收納濟證書　別表第一號書式ニ依ル
一　相續稅物納不動產明細書　別表第二號書式ニ依ル
一　相續稅物納報告書　別表第三號書式ニ依ル
一　相續稅物納總報告書　別表第四號書式ニ依ル
一　相續稅物納簿　別表第五號書式ニ依ル
一　相續稅物納總括簿　別表第六號書式ニ依ル
附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（別表）

第一號書式

「相續稅物納不動產收納濟證書」

（原　符）

第　何　號		某年度
何郡市何區町村大字何何番地		何某納
租　稅	相　續　稅	
金		
	年　月　日　收　納　印	

收納濟證書

第　何　號		某年度
何郡市何區町村大字何字何何番地		何某納
租　稅	相　續　稅	
金		
上記金額ニ相當スル別紙記載ノ不動產收納候也		
年　月　日		
	何稅務署長	
	官　氏　名　印	

備考　一　用紙寸法日本標準規格A6ノモノ二枚接續
二　別紙トシテ相續稅物納不動產明細書ノ寫ヲ添付スルモノトス

第二號書式

國稅徵收　相續稅物納不動產收納規則ノ規定ニ依リ調製スルコトヲ要スル書類ノ樣式竝ニ帳簿ノ樣式及記入方法

相續稅物納不動產明細書

所在	種目	構造（又ハ細分）	數量	收納價格	沿革	備考
何道府縣何郡市何區町村大字何字何何番地	宅地	—	ヽヽヽヽ歩	圓 ○	何年何月何日何某ヨリ收納	
何道府縣何郡市何區町村大字何字何何番地	住宅建	木造瓦葺二階建	建坪ヽヽ坪 延坪ヽヽ坪	○	何年何月何日何某ヨリ收納	
何道府縣何郡市何區町村大字何字何何番地	何何	何々	何々	○	何々	
計	—	—	—	○		

年　月　日

何稅務署長

官氏　名　印

備考

一　用紙寸法日本標準規格B5

二　種目、構造（又ハ細分、數量、沿革及備考ノ各欄記載ハ國有財產法施行規則第一號樣式（國有財產臺帳）ノ記載例ニ從ヒ記載スルモノトス

三　登記濟證ハ本明細書ト共ニ當該財產ヲ管理スベキ官廳ニ送付スルモノトス

第三號書式

某年度相續稅物納報告書

大藏省所管　何稅務署　何何年何月分

物納額		備考
本月分	本月迄累計	
圓 ○	圓 ○	

年　月　日

何稅務署長

官氏　名　印

備考

一　用紙寸法日本標準規格B6

二　當分ノ內徵收報告書ノ相續稅收入濟額ノ下欄ニ「物納」ノ二字ヲ冠記ノ上物納額ノ本月分及本月迄ノ累計ヲ記載シ本報告書ノ調製ニ代フルコトヲ得

第四號書式

某年度相續稅物納總報告書

大藏省所管　何年何月分

物納額		備考
本月分	本月迄累計	
圓 ○	圓 ○	

年　月　日

相續稅物納總報告書ヲ調製スル官吏

官氏　名　印

備考

一　用紙寸法日本標準規格B6

二　當分ノ內徵收總報告書ノ相續稅收入濟額ノ下欄ニ「物納」ノ二字ヲ冠記ノ上物納額ノ本月分及本月迄ノ累計ヲ記載シ本報告書ノ調製ニ代フルコトヲ得

國稅徵收　相續稅物納不動產收納規則ノ規定ニ依リ調製スルコトヲ要スル書類ノ樣式竝ニ帳簿ノ樣式及記入方法

第五號書式

某年度相續稅物納簿

何郡市何區町村　何　某

年月日	摘要	物納額	備考
何年何日	何年何月何日物納許可 何登記所ヘ登記囑託何年何月何日登記完了ノ分	圓 〇	相續稅額　圓　錢 內 物納許可額　圓　錢

備考

一　用紙寸法日本標準規格B5

二　物納額ノ欄內ニハ登記完了シタル物納不動產ノ收納價格ニ相當スル額ヲ記入スルモノトス

三　本簿ハ各人別ノ口座ノ外合計ノ口座ヲ設ケ整理スルモノトス

四　本簿ハ便宜縱書ト爲スコトヲ得

第六號書式

某年度相續稅物納總括簿

年月日	摘要	物納報告年月	稅務署名	物納額	備考
何年何		何	何稅務署	圓 〇	

備考

用紙寸法日本標準規格B5

納稅施設

○納稅施設法（昭和十八年三月十五日法律第六十四號）

改正　昭和十九年法律第七號、昭和二十一年法律第十四號

第一章　納稅團體

納稅團體ノ定義

第一條　本法ニ於テ納稅團體トハ團體員ノ命令ヲ以テ定ムル租稅公課ノ納付又ハ其ノ納付資金（納稅資金ト稱ス以下同ジ）ノ管理及當該租稅公課ノ納付ニ關シ必要ナル事業ヲ行フ町內會部落會其ノ他ノ團體ヲ謂フ

〔施規〕一　〔昭和一八、四　告示一五一號〕

屆出義務

第二條　町內會部落會以外ノ納稅團體（納稅組合ト稱ス以下同ジ）ヲ組織シタルトキ又ハ町內會部落會ガ前條ニ規定スル事業ヲ行ハントスルトキハ團體ノ代表者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ規約ヲ稅務署長又ハ市町村長ニ屆出ヅベシ規約ヲ變更シタルトキ亦同ジ

〔施規〕二・三・四・五・六・七・八・九・一〇・一一

納稅資金保有方法

第三條　納稅團體ノ管理スル納稅資金ハ納稅準備預金又ハ郵便貯金ヲ以テ之ヲ保有スベシ

〔施規〕一四・一五

記帳義務

第四條　納稅團體ノ代表者ハ其ノ事業ニ關スル帳簿ヲ備ヘ（命令ヲ以テ定ムル事項ヲ之ニ記載スベシ

〔施規〕一二・一三

補助金奬勵金

第五條　政府ハ豫算ノ範圍內ニ於テ納稅團體ニ補助金又ハ奬勵金ヲ交付スルコトヲ得

第六條　稅務署長若ハ其ノ代理官又ハ市町村長必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ納稅團體ノ代表者

納稅團體ニ對スル監督權

ニ對シ其ノ事業ニ關シ質問ヲ爲シ若ハ報告ヲ爲サシメ又ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ檢査スルコトヲ得

稅務署長又ハ市町村長必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ納稅團體ノ代表者ニ對シ規約ノ變更其ノ他監督上必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

〔施規〕一六・一七・一八

亡失納稅資金ノ減免

第六條ノ二　政府ハ納稅團體ノ管理スル納稅資金又ハ納稅團體ニ對シ國稅ノ納付ヲ委託シテ交付シタル金錢等ガ亡失シタル爲被害ヲ受ケタル團體員ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ國稅ヲ輕減又ハ免除スルコトヲ得

團體員前項ノ規定ニ依リ國稅ノ輕減又ハ免除ヲ受ケタルトキハ當該團體員ガ前項ノ管理ニ關シ又ハ前項ノ委託ニ基キ有スル權利ハ輕減又ハ免除ヲ受ケタル國稅額ノ限度ニ於テ消滅ス

第一項ノ規定ニ依リ輕減又ハ免除セラルル國稅ハ法令上ノ納稅資格要件ニ關シテハ輕減又ハ免除セラレザルモノト看做ス（昭和二十年法第十六號追加）

〔施規〕一八ノ二・一八ノ三・一八ノ四

亡失納稅資金ノ賠償責任

第六條ノ三　政府ハ前條第一項ノ規定ニ依リ國稅ヲ輕減又ハ免除シタル場合ニ於テ同項ニ規定スル亡失ガ納稅團體ノ役員、使用人等ノ故意又ハ過失ニ因ルト認メラルルトキハ納稅資金亡失責任審査委員會ノ諮問ヲ經テ此等ノ者ニ對シ輕減又ハ免除シタル國稅額ノ全部又ハ一部ニ相當スル金額ノ賠償ヲ命ズルコトヲ得

前項ノ賠償金ノ徵收ニ付テハ國稅徵收ノ例ニ依ル

第一項ノ規定ニ依リ賠償ヲ命ゼラレタル者其ノ命令又ハ賠償金ノ徵收ニ付不服アルトキハ訴願ヲ爲シ又ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

納稅資金亡失責任審査委員會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（同上）

〔施規〕一八ノ四・一八ノ五・一八ノ六

第六條ノ四　第六條ノ二並ニ前條第一項及第二項ノ規定ハ都道府縣、市町村其他命令ヲ以テ定ムル公共團體ノ租稅公課ニ付之ヲ準用ス此ノ場合ニ於テ政府トアルハ都道府縣、市町村其ノ他命令ヲ以テ定ムル公共團體トシ納稅資金亡失責任審査委員會ノ諮問トアルハ都道府縣參事會、市參事會、町村會其ノ他之ニ準ズルモノノ議決トス

前項ニ於テ準用スル前條第一項ノ規定ニ依リ賠償ヲ命ゼラレタル者其ノ處分ニ付不服アルトキハ都道府縣ニ對スル賠償ニ在リテハ主務大臣ニ訴願ヲ爲シ市町村其ノ他ノ公共團體ニ對スル賠償ニ在リテハ地方長官ニ訴願ヲ爲シ其裁決ニ不服アルトキハ主務大臣ニ訴願ヲ爲スコトヲ得

前項ノ賠償ヲ命ゼラレタル者賠償金ノ徵收ニ付不服アルトキハ都道府縣ニ對スル賠償金ニ在リテハ行政裁判所ニ出訴シ市町村其ノ他ノ公共團體ニ對スル賠償金ニ在リテハ地方長官ニ訴願ヲ爲シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前二項ノ規定ニ依ル地方長官ノ裁決ニ付テハ市町村長其ノ他之ニ準ズル者ヨリモ主務大臣ニ訴願ヲ爲シ又ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得（同上）

〔施規〕一八ノ七・一八ノ八

第二章　法人納稅積立金

法人納稅積立金積立義務及使用制限

第七條　法人ハ毎事業年度ノ利益金又ハ剩餘金ノ處分ニ當リ法人稅其ノ他命令ヲ以テ定ムル租稅ニ付命令ノ定ムル所ニ依リ納稅積立金ヲ積立ツベシ

納稅積立金ハ當該事業年度分ノ前項ニ規定スル租稅ノ納付ニ充ツル場合ヲ除クノ外之ヲ使用スルコトヲ得ズ但シ命令ノ定ムル所ニ依リ稅務署長ノ承認アリタル場合又ハ納稅積立金ガ前項ニ規定スル租稅ノ額ヲ超過スル場合ニ於ケル其ノ超過額ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

〔施規〕一九・附則Ⅱ・二〇・二一

同保有義務

第八條　納稅積立金ハ命令ノ定ムル所ニ依リ納稅準備預金ヲ以テ之ヲ保有スベシ

納稅積立金中納稅準備預金ヲ以テ保有スベキ割合ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

〔施規〕二二・二三　附則Ⅲ・二四・二五

同保有義務免除　第九條　稅務署長ハ命令ノ定ムル所ニ依リ前條ノ規定ニ依リ義務ノ全部又ハ一部ヲ免除スルコトヲ得

〔施規〕　二六・二七

第三章　納稅準備預金

納稅準備預金ノ定義　第十條　本法ニ於テ納稅準備預金トハ命令ヲ以テ定ムル租稅公課ノ納付ニ充ツル爲命令ヲ以テ定ムル金融機關（指定金融機關ト稱ス以下同ジ）ニ預入レタル預金又ハ貯金ヲ謂フ

〔施規〕　二八・二九・〔昭和一八、四　告示一五一號〕

同受入同引出制限　第十一條　指定金融機關ハ他ノ法律ニ拘ラズ納稅準備預金ヲ受入ルルコトヲ得

第十二條　納稅準備預金ハ第十條ニ規定スル租稅公課ノ納付ニ充ツル場合其ノ他命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外之ヲ引出スコトヲ得ズ

〔施規〕　三〇・三一・三二・三三・三四・三五

租稅公課ノ納付委託　第十三條　納稅準備預金ヲ引出シ第十條ニ規定スル租稅公課ノ納付ニ充テントスルトキハ納稅告知書其ノ他納付ニ必要ナル書類ヲ指定金融機關ニ提出シ租稅公課ノ納付ヲ委託スベシ

指定金融機關ハ正當ノ事由ナクシテ前項ノ委託ヲ拒ムコトヲ得ズ

讓渡禁止差押制限　第十四條　納稅準備預金ハ之ヲ讓渡スルコトヲ得ズ

第十五條　納稅準備預金ハ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外之ヲ差押フルコトヲ得ズ

〔施規〕　三六

分類所得稅免除　第十六條　納稅準備預金ノ利子ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ所得稅ヲ免除ス（昭和十九年法第七號改正）

〔施規〕　三七・三八

第四章　削除（昭和二十一年法第十四號ニヨリ削除）

第十七條乃至第二十五條　削除（同上）

第五章　雜則

印紙稅非課稅罰則　第二十六條　納稅團體ノ業務及納稅準備預金ニ關スル書類ニハ印紙稅ヲ課セズ（昭和二十一年法第十四號改正）

第二十七條　左ノ場合ニ於テハ法人ノ代表者ヲ千圓以下ノ過料ニ處ス

一　第七條ノ規定ニ違反シ納稅積立金ヲ積立テズ又ハ納稅積立金ヲ使用シタルトキ

二　第八條ノ規定ニ違反シ納稅積立金ヲ納稅準備預金ヲ以テ保有セザルトキ

第二十八條　左ノ場合ニ於テハ納稅團體ノ代表者ヲ三百圓以下ノ過料ニ處ス

一　第三條ノ規定ニ違反シ納稅資金ヲ納稅準備預金又ハ郵便貯金ヲ以テ保有セザルトキ

二　第六條第二項ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタルトキ

第二十九條　左ノ場合ニ於テハ納稅團體ノ代表者ヲ百圓以下ノ過料ニ處ス

一　本法ニ依ル屆出ヲ爲サザルトキ

二　第四條ノ規定ニ依ル帳簿ノ記載ヲ爲サズ又ハ虛僞ノ記載ヲ爲シタルトキ

三　第六條第一項ノ規定ニ依ル稅務署長若ハ其ノ代理官又ハ市町村長ノ質問ニ對シ答辯ヲ爲サズ又ハ虛僞ノ陳述ヲ爲シタルトキ

四　第六條第一項ノ規定ニ違反シ報告ヲ爲サズ若ハ虛僞ノ報告ヲ爲シ又ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ノ檢査ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シタルトキ

第三十條　市制第六條又ハ第八十二條第三項ノ市ニ於テハ本法中市長ニ關スル規定ハ區長ニ之ヲ適用ス

町村制ヲ施行セザル地ニ於テハ本法中町村ニ關スル規定ハ町村長ニ準ズベキモノニ、町村長ニ關スル規定ハ町村長ニ準ズベキモノニ之ヲ適用ス

第三十一條　本法ニ規定スルモノノ外納稅團體、法人納稅積立金及納稅準備預金ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム（昭和二十一年法第十四號改正）

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（昭和十八年三月三十日勅令第三二四號ニ依リ昭和十八年四月一日ヨリ施

行）

法人納稅積立金ニ付テハ昭和十八年十月一日以後終了スル事業年度分ヨリ本法ヲ適用ス

本法施行ノ際現ニ第一條ニ規定スル事業ヲ行フ町村部落會其ノ他ノ團體ノ代表者ハ本法施行ノ日ヨリ二月以內ニ命令ノ定ムル所ニ依リ規約ヲ稅務署長又ハ市町長ニ屆出ヅベシ

（施規）附則Ⅳ・Ⅴ

附　則（昭和十九年法律第七號）

第三十一條　本法ハ昭和十九年四月一日ヨリ之ヲ施行ス（以下略）

附　則（昭和二十年法律第十六號）

第十八條　本法ハ昭和二十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ第十四條及第十五條ノ規定ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（昭和二十一年法律第十四號）

第二十九條　この法律施行の期日は、各規定について、勅令でこれを定める。（昭和二十一年勅令第四百號によリ昭和二十一年九月一日から施行）

○納稅施設法施行規則　（昭和十八年三月三十一日大藏、內務省令第一號）

改正　昭和十八年大藏、內務省令第二號　同昭和十九年大藏、內務省令第一號　昭和二十年大藏、內務省令第一號　同年大藏、內務省令第二號

第一章　納稅團體

第一條　納稅施設法第一條ノ租稅公課ヲ定ムルコト左ノ如シ（昭和二十年大藏、內務省令第一號改正）（昭和二十年大藏、內務省令第二號）

一　國稅徵收法ニ依リ市町村（東京都ノ區ノ存スル區域ニ於テハ東京都）ニ於テ徵收スル國稅

二　地方稅法ニ依リ市町村ニ於テ徵收スル東京都稅、北海道地方稅又ハ府縣稅

三　市町村稅（東京都ノ區ノ存スル區域ニ於ケル東京都稅ヲ含ム）

四　東京都、北海道、府縣、市町村、市町村組合、町村組合、水利組合、耕地整理組合、北海道土功組合、市農會又ハ町村農會ノ公課

第二條　町內會部落會以外ノ納稅團體（納稅組合ト稱ス以下同ジ）ノ規約ニハ少クトモ左ノ事項ヲ記載スベシ

一　名稱及事務所ノ所在地

二　組合員タル資格ニ關スル規定

三　組合員ノ加入及脫退ニ關スル規定

四　代表者其ノ他ノ役員ノ選任及解任ニ關スル規定

五　納稅資金ノ蓄積及管理ニ關スル規定

六　租稅公課ノ納付ニ關スル規定

七　規約ノ變更ニ關スル規定

第三條　町內會部落會ノ納稅施設法第一條ノ事業（納稅事業ト稱ス以下同ジ）ニ關スル規約ニハ少クトモ左ノ事項ヲ記載スベシ

一　納稅事業ノ利用ニ關スル規定

二　納稅資金ノ蓄積及管理ニ關スル規定

三　租稅公課ノ納付ニ關スル規定

四　規約ノ變更ニ關スル規定

第四條　納稅組合ハ其ノ名稱中ニ納稅組合ナル文字ヲ用フベシ

第五條　納稅組合ニハ之ヲ管理シ代表スル組合長ヲ置クコトヲ要ス

第六條　納稅施設法第二條ノ規定ニ依ル屆出ハ規約ノ成立又ハ變更ノ日ヨリ二週間以內ニ之ヲ爲スベシ

前項ノ屆出ニハ納稅組合ニ在リテハ組合員ノ住所及氏名、町內會部落會ニ在リテハ納稅事業ノ利用者ノ住所及

氏名ヲ記載シタル名簿ヲ添附スベシ但シ規約ノ變更ノ場合ニ在リテハ此ノ限ニ在ラズ

第七條　前條第一項ノ届出ハ同業者又ハ勤務先ヲ同ジクスル者ヲ以テ組合員タル資格要件トスル納稅組合（職域納稅組合ト稱ス以下同ジ）ニ在リテハ其ノ組合ノ主タル事務所ノ所在地ヲ管轄スル稅務署長ニ、町内會部落會ノ組合ニ在リテハ市町村長ニ之ヲ爲スベシ

第八條　納稅團體ノ代表者ニ變更アリタルトキハ其ノ變更ノ日ヨリ二週間以内ニ之ヲ稅務署長又ハ市町村長ニ届出ヅベシ

第九條　納稅組合ノ組合員又ハ町内會部落會ノ納稅事業ノ利用者ニ異動アリタルトキハ納稅團體ノ代表者ハ遲滯ナク之ヲ稅務署長又ハ市町村長ニ届出ヅベシ

第十條　納稅組合解散シ又ハ町内會部落會納稅事業ヲ行ハザルニ至リタルトキハ納稅團體ノ代表者ハ遲滯ナク之ヲ稅務署長又ハ市町村長ニ届出ヅベシ

第十一條　第七條ノ規定ハ前三條ノ届出ニ付之ヲ準用ス

第十二條　納稅團體ノ代表者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スベシ

一　納稅組合ノ組合員又ハ町内會部落會ノ納稅事業ノ利用者每ノ納稅資金ノ受拂額及現在額

二　納稅組合ノ組合員又ハ町内會部落會ノ納稅事業ノ利用者每ノ租稅公課ノ納付額及納付年月日

三　納稅資金以外ノ資金受拂額及現在額

第十三條　町内會部落會ノ納稅事業ニ關スル經理ハ他ノ事業又ハ施設ニ關スル經理ト之ヲ分別スベシ

第十四條　納稅團體ノ管理スル納稅資金ハ納稅團體ノ代表者ノ名義ヲ以テ之ヲ納稅準備預金又ハ郵便貯金トシテ預ケ入ルルコトヲ得

第十五條　前條ノ規定ニ依リ納稅團體ノ代表者ガ預ケ入レタル納稅準備預金ニ付利子ノ支拂ヲ受クル場合ニ於テハ第三十七條但書又ハ第三十八條ノ二但書ノ規定ニ依リ所得稅又ハ樺太ニ於ケル所得稅（第一種ノ所得ニ對スル所得稅ヲ除ク）及資本利子稅ヲ免除セラレザル利子金額アルトキハ代表者ハ其ノ利子金額ニ付團體員每ノ明細

書ヲ支拂者ニ提出スベシ（昭和十九年令第一號改正）

第十六條　稅務署長又ハ其ノ代理官ハ職域納稅組合ノ代表者ニ對シ、市町村長ハ納稅事業ヲ行フ町内會部落會ノ代表者ニ對シ其ノ事業ニ關シ質問ヲ爲シ若ハ報告ヲ爲サシメ又ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ノ檢査ヲ爲スコトヲ得

第十七條　稅務署長若ハ其ノ代理官又ハ市町村長前條ノ規定ニ依リ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ檢査スルトキハ別記書式ニ依ル檢査章ヲ携帶スベシ

第十八條　稅務署長ハ職域納稅組合ノ代表者ニ對シ、市町村長ハ納稅事業ヲ行フ町内會部落會ノ代表者ニ對シ規約ノ變更其ノ他監督上必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第十八條ノ二　納稅團體ノ管理スル納稅資金ガ亡失シタル爲被害ヲ受ケタル者ニ對シテハ其ノ被害金額中國稅ノ納付資金ニ相當スル金額ノ稅額ヲ被害アリタル後最初ニ到來スル納期（被害アリタル日ノ屬スル納期ヲ含ム）ニ於テ納付スベキ當該國稅ヨリ順次輕減又ハ免除ス（昭和二十年令第一號追加）

前項ニ規定スル國稅ノ納付資金ニ相當スル金額ハ被害金額ニ當該納稅團體ノ管理スル納稅資金ニ依リ納付スベキ租稅公課ノ被害アリタル日（但シ被害アリタル日ガ納期中ナルトキハ當該納期ノ最終日トス）以前一年内ニ納付シタル金額ニ對スル當該納稅資金ニ依リ納付スベキ國稅ノ當該期間中ニ納付シタル稅額ノ割合ヲ乘ジテ之ヲ計算ス

第十八條ノ三　納稅團體ニ對シ國稅ノ納付ヲ委託シテ交付シタル金錢等ノ一部又ハ全部ガ亡失シタル爲被害ヲ受ケタル者ニ對シテハ其ノ被害金額ニ相當スル稅額ヲ當該國稅ニ付輕減又ハ免除ス（同上）

第十八條ノ四　前二條ノ規定ニ依リ國稅ノ輕減又ハ免除ヲ受ケントスル者ハ被害ノ狀況及被害金額ヲ記載シタル申請書ヲ被害ノ事實ヲ知リタルトキヨリ三十日以内ニ所轄稅務署ニ提出スベシ（同上）

第十八條ノ五　稅務署長第十八條ノ二又ハ第十八條ノ三ノ規定ニ依リ國稅ヲ輕減又ハ免除シタル場合ニ於テ同條ノ規定スル亡失ガ納稅團體ノ役員、使用人等ノ故意又ハ過失ニ因ルト認ムルトキハ亡失ノ事由及金額、關係人ノ氏名其ノ他必要ト認ムル事項ヲ財務局長ニ報告スベシ（同上）

第十八條ノ六　納稅施設法第六條ノ三第一項ノ規定ニ依リ賠償ヲ命ズル場合ニ於テハ財務局長ハ其ノ金額及理由ヲ賠償ヲ命ズベキ相手方ニ通知スベシ（同上）

第十八條ノ七　納稅施設法第六條ノ四ノ公共團體ヲ定ムルコト左ノ如シ（同上）

一　市町村組合及町村組合
二　水利組合
三　耕地整理組合
四　北海道土功組合
五　市農會及町村農會

第十八條ノ八　第十八條ノ二乃至第十八條ノ四及第十八條ノ六ノ規定ハ都道府縣、市町村及前條ニ規定スル公共團體ノ租稅公課ニ付之ヲ準用ス此ノ場合ニ於テ稅務署トアルハ當該公共團體トシ財務局長トアルハ東京都長官、北海道廳長官、府縣知事、市町村長、市町村組合管理者、町村組合管理者、水利組合管理者、耕地整理組合長、北海道土功組合長、市農會長又ハ町村農會長トス（同上）

第二章　法人納稅積立金

第十九條　法人ハ毎事業年度ノ利益金又ハ剩餘金ノ處分ニ當リ當該事業年度分トシテ課セラルベキ法人稅、臨時利得稅、營業稅及營業稅附加稅（樺太ニ於ケル第一種所得稅、第一種所得稅附加稅、特別所得稅、法人資本稅、臨時利得稅、營業收益稅及營業收益稅附加稅ヲ含ム）ヲ計算シ其ノ額ニ相當スル納稅積立金ヲ積立ツベシ（昭和十八年令第二號改正）

第二十條　法人納稅施設法第七條第一項ノ規定ニ依リ納稅積立金ヲ積立テタルトキハ「納稅積立金」勘定（貸方勘定）ヲ設ケ之ニ繰入ルベシ

第二十一條　法人納稅施設法第七條第二項但書ノ規定ニ依リ納稅積立金ノ使用ニ付稅務署長ノ承認ヲ受ケントスルトキハ其ノ金額及事由ヲ記載シタル申請書ヲ所轄稅務署ニ提出スベシ

第二十二條　法人納稅積立金ヲ積立テタルトキハ其ノ積立ノ日ヨリ二月以内ニ納稅準備預金ヲ以テ之ヲ保有スベシ

第二十三條　納稅積立金中納稅準備預金ヲ以テ保有スベキ割合ハ第十九條ノ規定ニ依リ積立ツベキ納稅積立金ノ百分ノ六十五ヲ下ルコトヲ得ズ

第二十四條　法人納稅準備預金ヲ保有シタルトキハ「納稅準備預金」勘定（借方勘定）ヲ設ケ之ニ繰入ルベシ

第二十五條　法人納稅施設法第八條第一項ノ規定ニ依ル納稅準備預金ノ預ケ入ヲ爲サントスルトキハ當該預金ニ對應スル納稅積立金ノ屬スル事業年度名ヲ金融機關ニ明示スベシ

第二十六條　法人左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ稅務署長ハ納稅施設法第八條第一項ニ規定スル納稅準備預金ノ保有義務ノ全部又ハ一部ヲ免除スルコトヲ得

一　最近ノ決定ニ係ル三事業年度分ノ法人稅、臨時利得稅、營業稅及營業稅附加稅（樺太ニ於ケル第一種所得稅、第一種所得稅附加稅、特別所得稅、法人資本稅、臨時利得稅、營業收益稅及營業收益稅附加稅ヲ含ム）ヲ納期限内ニ納付シ且將來滯納ノ虞ナシト認メタルトキ（昭和十八年令第二號改正）
二　戰時災害其ノ他ノ災害ニ因リ所得ノ基因タル資産又ハ事業ノ用ニ供スル資産ニ付甚大ナル被害ヲ受ケタルトキ
三　前各號ノ外稅務署長ニ於テ已ムコトヲ得ザル事由アリト認メタルトキ

第二十七條　法人前條ノ規定ニ依リ納稅準備預金保有義務ノ全部又ハ一部ノ免除ヲ受ケントスルトキハ其ノ金額及事由ヲ記載シタル申請書ヲ所轄稅務署ニ提出スベシ

第三章　納稅準備預金

第二十八條　納稅施設法第十條ノ租稅公課ヲ定ムルコト左ノ如シ（昭和二十年令第一號改正）

一　法人稅、法人ノ臨時利得稅、法人ノ營業稅及法人ノ營業稅附加稅（樺太ニ於ケル第一種所得稅、第一種所得稅附加稅、法人ノ特別所得稅、法人資本稅、法人ノ臨時利得稅、法人ノ營業收益稅及法人ノ營業收益稅附

加稅ヲ含ム）

二　國稅徵收法ニ依リ市町村（東京都ノ區ノ存スル區域ニ於テハ東京都）ニ於テ徵收スル國稅

三　地方稅法ニ依リ市町村ニ於テ徵收スル東京都稅、北海道地方稅又ハ府縣稅

四　市町村稅（東京都ノ區ノ存スル區域ニ於ケル東京都稅ヲ含ム）

五　東京都、北海道、府縣、市町村、市町村組合、町村組合、水利組合、耕地整理組合、北海道土功組合、市農會又ハ町村農會ノ公課

第二十九條　納稅施設法第十條ノ金融機關（指定金融機關ト稱スル以下同ジ）ヲ定ムルコト左ノ如シ

一　銀行（日本銀行ヲ除ク）

二　市街地信用組合

三　市町村農業會（昭和十八年令第二號改正）

四　信用事業ヲ行フ產業組合

第三十條　納稅準備預金ハ預金者又ハ其ノ家族以外ノ者ノ租稅公課ノ納付ニ充ツルコトヲ得ズ

納稅團體ノ代表者名義ヲ以テ預ケ入レタル納稅準備預金ハ當該納稅團體ノ團體員又ハ其ノ家族以外ノ者ノ租稅公課ノ納付ニ充ツルコトヲ得ズ

第三十一條　指定金融機關ハ預金者ノ請求ニ依リ納稅準備預金ヲ他ノ指定金融機關ニ移轉スルコトヲ得

第三十二條　前條ノ規定ニ依リ納稅準備預金ノ移轉アリタル場合ハ納稅準備預金ノ引出ナカリシモノト看做ス

第三十三條　左ノ場合ニ於テハ法人ノ納稅準備預金ニ付テハ市町村長ノ承認ヲ受ケ第二十八條ニ規定スル租稅公課ノ納付以外ノ目的ノ爲納稅準備預金ヲ引出スコトヲ得（昭和二十年令第二號改正）

一　預金者又ハ其ノ家族ガ戰時災害其ノ他ノ災害ニ因リ所得ノ基因タル資產又ハ事業ノ用ニ供スル資產ニ付甚大ナル被害ヲ受ケタルトキ

二　預金者又ハ其ノ家族ガ第二十八條ニ規定スル租稅公課ノ納稅義務ナキニ至リタルトキ

三　指定金融機關ガ業務ヲ廢止シ又ハ廢止セントスルトキ

四　前號ノ外稅務署長又ハ市町村長ニ於テ已ムコトヲ得ザル事由アリト認メタルトキ

前項第三號ノ規定ニ依リ引出シタル納稅準備預金ハ七日以內ニ他ノ指定金融機關ニ預ケ入ルベシ

第三十四條　納稅施設法第八條第一項ノ規定ニ依リ法人ノ保有スル納稅準備預金ガ同法第七條第一項ニ規定スル租稅ノ納付義務額ヲ超過スル場合ニ於ケル其ノ超過額ニ付テハ稅務署長ノ證明ヲ受ケ之ヲ引出スコトヲ得

第三十五條　第三十三條ノ規定ニ依リ納稅準備預金ノ引出ニ付承認ヲ受ケントスルトキハ其ノ金額及事由ヲ記載シタル申請書ヲ稅務署長又ハ市町村長ニ提出スベシ

第三十六條　納稅準備預金ハ左ノ場合ニ限リ之ヲ差押ヲルコトヲ得

一　納稅施設法第八條第一項ノ規定ニ依リ法人ノ保有スル納稅準備預金ニ付同法第七條第一項ニ規定スル租稅ノ徵收ノ爲必要アルトキ

二　納稅施設法第八條第一項ノ規定ニ依リ法人ノ保有スル納稅準備預金ニ付同法第七條第一項ニ規定スル租稅ノ納付義務額ヲ超過スル場合ニ於ケル其ノ超過額又ハ納稅施設法第八條第一項ノ規定ニ依ラザル法人ノ納稅準備預金若ハ法人以外ノ者ノ納稅準備預金ニ付第二十八條ニ規定スル租稅公課ノ徵收ノ爲必要アルトキ

三　前各號ノ外法人ノ納稅準備預金ニ付テハ稅務署長、法人以外ノ者ノ納稅準備預金ニ付テハ市町村長ノ承認ヲ受ケタルトキ

第三十七條　納稅準備預金ノ利子ニ付テハ所得稅ヲ免除ス但シ第二十八條ニ規定スル租稅公課ノ納付以外ノ目的ノ爲引出サレタル納稅準備預金ニ對スル利子ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ（昭和十九年令第一號改正）

第三十三條第二項ノ規定ニ依リ納稅準備預金ヲ預ケ入レタルトキハ當該納稅準備預金引出ノ際支拂ヲ受ケタル利子ニ對スル所得稅ハ之ヲ免除ス（昭和二十年令第二號追加）

前項ノ規定ニ依リ所得稅ノ免除ヲ受ケタル者所得稅ニ相當スル金額ノ還付ヲ受ケントスルトキハ所轄稅務署長

ヲ經由シ財務局長ニ請求書ヲ提出スベシ（同上）

第三十八條　前條但書ノ規定ニ依リ所得稅ヲ賦課スル場合ニ於テハ納稅準備預金ノ預ケ入ノ順序ニ從ヒ順次之ガ引出（第二十八條ニ規定スル租稅公課ノ納付ニ充テラルルモノノ引出ヲ含ム）アリタルモノト看做シ其ノ利子金額ヲ計算ス（昭和十九年令第一號改正）

第三十八條ノ二　樺太ニ於テ支拂ヲ受クル納稅準備預金ノ利子ニ付テハ所得稅（第一種ノ所得ニ對スル所得稅ヲ除ク）及資本利子稅ヲ免除ス但シ第二十八條ニ規定スル租稅公課ノ納付以外ノ目的ノ爲引出サレタル納稅準備預金ノ利子ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ（昭和十八年令第二號　同十九年令第一號改正）

第三十八條ノ三　第三十八條ノ規定ハ前條但書ノ規定ニ依リ所得稅（第一種ノ所得ニ對スル所得稅ヲ除ク）及資本利子稅ヲ賦課スル場合ノ利子金額ノ計算ニ付之ヲ準用ス（昭和十八年令第二號　同十九年令第一號改正）

第四章　雜則

第三十九條　東京都ノ區ノ存スル區域又ハ市制第六條若ハ第八十二條第三項ノ市ニ於テハ本令中市長ニ關スル規定（第十八條ノ六ノ規定ヲ除ク）ハ之ヲ區長ニ適用ス（昭和二十年令第一號改正）

町村制ヲ施行セザル地ニ於テハ本令中町村ニ關スル規定ハ町村長ニ準ズベキモノニ、町村長ニ關スル規定ハ町村ニ之ヲ適用ス

第三十九條ノ二　樺太ニ於テハ本令中稅務署長トアルハ樺太廳支廳長トシ財務局長トアルハ樺太廳長官トシ稅務署トアルハ樺太廳支廳トス（昭和二十年令第一號改正）

附　則

本令ハ納稅施設法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

昭和二十三年九月三十日以前ニ終了スル事業年度分ノ法人納稅積立金ハ第十九條ノ規定ニ依リ計算シタル金額ニ左ノ割合ヲ乘ジタル額ニ依ルコトヲ得

一　昭和十八年十月一日以後昭和十九年九月三十日迄ニ終了スル事業年度分　百分ノ三十

二　昭和十九年十月一日以後昭和二十年九月三十日迄ニ終了スル事業年度分　百分ノ四十

三　昭和二十年十月一日以後昭和二十一年九月三十日迄ニ終了スル事業年度分　百分ノ五十五

四　昭和二十一年十月一日以後昭和二十二年九月三十日迄ニ終了スル事業年度分　百分ノ七十

五　昭和二十二年十月一日以後昭和二十三年九月三十日迄ニ終了スル事業年度分　百分ノ八十五

昭和二十二年九月三十日以前ニ終了スル事業年度分ノ法人納稅積立金中納稅準備預金ヲ以テ保有スベキ割合ハ第十九條ノ規定ニ依リ計算シタル金額ニ左ノ割合ヲ乘ジタル額ニ依ルコトヲ得

一　昭和十八年十月一日以後昭和十九年九月三十日迄ニ終了スル事業年度分　百分ノ二十

二　昭和十九年十月一日以後昭和二十年九月三十日迄ニ終了スル事業年度分　百分ノ三十

三　昭和二十年十月一日以後昭和二十一年九月三十日迄ニ終了スル事業年度分　百分ノ四十

四　昭和二十一年十月一日以後昭和二十二年九月三十日迄ニ終了スル事業年度分　百分ノ五十

納稅施設法施行ノ際現ニ納稅事業ヲ行フ町內會部落會其ノ他ノ團體ノ代表者ガ同法附則第三項ノ規定ニ依リ爲ス屆出ハ職域納稅組合ニ在リテハ組合ノ主タル事務所ノ所在地ヲ管轄スル稅務署長ニ職域納稅組合以外ノ納稅組合及町內會部落會ニ在リテハ市町村長ニ之ヲ爲スベシ此ノ場合ニ於テハ第六條第二項ノ規定ヲ準用ス

職域納稅組合以外ノ納稅組合ハ第八條乃至第十一條、第十六條及第十八條ノ規定ノ適用ニ付テハ之ヲ町內會部落會ト看做ス

附　則（昭和十八年大藏、內務省令第二號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス（昭和十八年十一月十七日公布）

第十九條及第二十六條ノ改正規定ハ昭和十九年一月一日以後終了スル事業年度分ヨリ之ヲ適用ス

附　則（昭和十九年大藏、內務省令第一號）

本令ハ昭和十九年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（昭和二十年大藏、內務省令第一號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（昭和二十年大藏、內務省令第二號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

別記書式　用紙寸法　縱三寸　橫二寸

表面

官（又ハ市町村及職名）氏名

納稅國體檢査章

稅務署（又ハ市町村）

稅務署又ハ市町村印

裏面

第　號　昭和　年　月　日交付

○納稅資金亡失責任審査委員會官制

（昭和二十年三月七日勅令第九十八號）

改正　昭和二十一年勅令第四一四號

第一條　納稅資金亡失責任審査委員會ハ財務局長ノ監督ニ屬シ納稅施設法第六條ノ三第一項ノ規定ニ依リ其ノ權限ニ屬セシメタル事業ヲ調査審議ス

第二條　委員會ハ財務局所轄內ニ之ヲ置ク

第三條　委員會ハ會長一人及委員十五人以內ヲ以テ之ヲ組織ス

第四條　會長ハ財務局長ヲ以テ之ニ充ツ

第五條　委員ハ關係各廳所屬ノ一級又ハ二級ノ官吏、稅務署長、市區町村長及學識經驗アル者ノ中ヨリ大藏大臣之ヲ命ズ（昭和二十一年勅令第四百十四號改正）

第六條　會長ハ會務ヲ總理ス

會長事故アルトキハ財務局長ノ指名スル委員其ノ職務ヲ代理ス

第七條　委員會ニ幹事ヲ置ク關係各廳所屬ノ一級又ハ二級ノ官吏ノ中ヨリ大藏大臣之ヲ命ズ幹事ハ會長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス（昭和二十一年勅令第四百十四號改正）

第八條　委員會ニ書記ヲ置ク財務局長之ヲ命ズ

書記ハ上司ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（昭和二十一年九月一日勅令第四百十四號）

第二十一條　この勅令は、公布の日から、これを施行する。（以下省略）

行政訴訟及訴願

○行政廳ノ違法處分ニ關スル行政裁判ノ件（明治二十三年十月十日法律第百六號）

法律勅令ニ別段ノ規程アルモノヲ除ク外左ニ掲クル事件ニ付行政廳ノ違法處分ニ因リ權利ヲ毀損セラレタル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

行政訴訟事項

一　海關稅ヲ除ク外租稅及手數料ノ賦課ニ關スル事件
二　租稅滯納處分ニ關スル事件
三　營業免許ノ拒否又ハ取消ニ關スル事件
四　水利及土木ニ關スル事件
五　土地ノ官有民有區分ノ査定ニ關スル事件

○行政裁判法（明治二十三年六月三十日法律第四十八號）

改正　大正五年法律第三十七號

第一章　行政裁判所組織

第一條　行政裁判所ハ之ヲ東京ニ置ク

行政裁判官

第二條　行政裁判所ニ長官一人及評定官ヲ置ク評定官ノ員數ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

行政裁判所ニ書記ヲ置ク其員數及職務ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

任用資格

第三條　長官ハ親任トス評定官ハ勅任又ハ奏任トス

長官及評定官ハ三十歲以上ニシテ五年以上高等行政官ノ職ヲ奉シタル者若ハ裁判官ノ職ヲ奉シタル者ヨリ任命セラルルモノトス

書記ハ長官之ヲ判任ス

禁止行爲

第四條　長官及評定官ハ在職中左ノ諸件ヲ爲スコトヲ得ス

一　公然政事ニ關スルコト

二　政黨ノ黨員又ハ政社ノ社員トナリ又ハ衆議院議員府縣郡市町村會ノ議員若クハ參事會員タルコト

三　衆官ノ場合ヲ除ク外俸給アル又ハ金錢ノ利益ヲ目的トスル公務ニ就クコト

四　商業ヲ營ミ其他行政上ノ命令ヲ以テ禁シタル業務ヲ營ムコト

地位ノ保障

第五條　第六條ノ場合ヲ除ク外長官及評定官ハ刑法ノ宣告又ハ懲戒ノ處分ニ由ルニ非サレハ其意ニ反シテ退官轉官又ハ非職ヲ命セラルルコトナシ

行政裁判所ノ長官又ハ評定官ヲ兼任スル者ハ其本官在職中前項ヲ適用ス

懲戒處分ノ法ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條　長官及評定官身體若クハ精神ノ衰弱ニ因リ職務ヲ執ルコト能ハサルトキハ內閣總理大臣ハ行政裁判所ノ總會ノ決議ニ依リ其退職ヲ上奏スルコトヲ得

長官ノ職務

第七條　長官ハ行政裁判所ノ事務ヲ總理ス

長官故障アルトキハ評定官中官等最モ高キ者之ヲ代理ス

裁判長

第八條　長官ハ自ラ裁判長トナリ若クハ評定官ニ裁判長ヲ命スルコトヲ得

裁判ノ構成及議決方法

第九條　行政裁判所ノ裁判ハ勅令ノ定ムル所ニ依ル

部ヲ分ツノ必要アルトキハ其組織及事務分配ハ勅令ノ定ムル所ニ依ル

裁判長及評定官ヲ併セ五人以上ノ列席合議ヲ要ス但列席ノ人員ハ奇數ニ限ル若シ缺席ノ者ヲ爲偶數トナリタルトキハ官等最モ低キ評定官ヲ議決ヨリ除ク官等同シキトキハ任官ノ順序ニ依リ其ノ後ナル者ヲ除ク

議決ハ過半數ニ依ル

裁判官ノ除斥

第十條　長官又ハ評定官ハ左ノ場合ニ於テ評議及議決ニ加ハルコトヲ得ス

一　裁判スヘキ事件自己又ハ父母兄弟姉妹若クハ妻子ノ身上ニ關スルトキ

二　裁判スヘキ事件一私人ノ資格ヲ以テ意見ヲ述ヘタルモノニ關スルトキ

三　裁判スヘキ事件行政官タルノ資格ヲ以テ其ノ事件ノ處分又ハ裁決ニ參與シタルモノニ關スルトキ

裁判官ノ忌避

第十一條　前條ノ場合ニ於テ原告又ハ被告ハ原因ヲ疏明シテ文書又ハ口頭ヲ以テ長官又ハ評定官ヲ忌避スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ行政裁判所ハ本人ヲ回避セシメ之ヲ議決ス

第十二條　忌避若クハ除斥ノ原因タル事情ニ付キ長官又ハ評定官カ法律ニ依リ評議及ヒ決議ニ加ハルヲ得サルノ疑アルトキハ行政裁判所ハ本人ヲ回避セシメ之ヲ議決ス

第十三條　行政裁判所ノ處務規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

辯護人ノ資格

第十四條　行政訴訟ノ辯護人タルコトヲ得ルハ行政裁判所權限ニ關スルトキ

第二章　行政裁判所權限

審査權ノ範圍

第十五條　行政裁判所ハ法律勅令ニ依リ行政裁判所ニ出訴ヲ許シタル事件ヲ審判ス

經由手續

第十六條　行政裁判所ハ法律勅令ニ特別ノ規定アルモノヲ除ク外地方上級行政廳ニ訴願シ其ノ裁決ヲ經タル後ニ非サレハ之ヲ提起スルコトヲ得ス

判決ノ效力

第十七條　行政訴訟ハ法律勅令ニ特別ノ規定アルモノヲ除ク外地方上級行政廳ノ處分ニ對シテハ直ニ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

各省大臣ノ處分又ハ內閣直轄官廳又ハ地方上級行政廳ノ處分ニ對シテハ直ニ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

各省又ハ內閣ニ訴願ヲ爲シタルトキハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス

第十八條　行政裁判所ノ判決ハ其事件ニ付キ關係ノ行政廳ヲ羈束ス

再審　權限ノ自決　權限爭議　判決執行ノ囑託

第十九條　行政裁判所ノ裁判ニ對シテハ再審ヲ求ムルコトヲ得ス

第二十條　行政裁判所ハ其權限ニ關シテハ自ラ之ヲ決定ス

行政裁判所ト通常裁判所又ハ特別裁判所トノ間ニ起ル權限ノ爭議ハ權限裁判所ニ於テ之ヲ裁判ス

第二十一條　行政裁判所ノ判決ノ執行ハ通常裁判所ニ囑託スルコトヲ得

第三章　行政訴訟手續

出訴期間

第二十二條　行政訴訟ハ行政廳ニ於テ處分書若クハ裁決書ヲ交付シ又ハ告知シタル日ヨリ六十日以內ニ提起スヘシ六十日ヲ經過シタルトキハ行政訴訟ヲ爲スコトヲ得ス但法律勅令ニ特別ノ規程アルモノハ此限ニ在ラス

訴訟提起ノ日限其他此法律ニ依リ行政裁判所ノ指定スル月限ノ計算竝ニ災害事變ノ爲メ遷延シタル期限ニ關シテハ民事訴訟ノ規定ヲ適用ス

訴訟提起ノ效果

第二十三條　行政訴訟ハ法律勅令ニ特別ノ規程アルモノヲ除ク外行政廳ノ處分又ハ裁決ノ執行ヲ停止セス但行政廳及行政裁判所ハ其職權ニ依リ又ハ原告ノ願ニ依リ必要ト認ムルトキハ其處分又ハ裁決ノ執行ヲ停止スルコトヲ得

訴狀

第二十四條　行政訴訟ハ文書ヲ以テ行政裁判所ニ提起スヘシ

法律ニ依リ法人ト認メラレタル者ハ其名ヲ以テ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

訴狀ノ記載事項

第二十五條　訴訟ハ左ノ事項ヲ記載シ原告署名捺印スヘシ

一　原告ノ身分、職業、住所、年齡

二　被告ノ行政廳又ハ其他ノ被告

三　要求ノ事件及其理由

四　立證

五　年月日

訴狀ニハ原告ノ經歷シタル訴願者裁決者竝ニ證據書類ヲ添フヘシ

訴訟要件ノ審理及却下ノ裁決

第二十六條　訴狀ニハ被告ニ送付スル爲メニ必要文書ノ副本ヲ添フヘシ

第二十七條　行政裁判所ハ原告ノ訴訟ニ就テ審査シ若シ法律勅令ニ依リ行政訴訟ヲ提起スヘカラサルモノナルカ又ハ適法ノ手續ニ違背スルモノナルトキハ其ノ理由ヲ付シタル裁決書ヲ以テ之ヲ却下スヘシ

其訴訟ノ方式ヲ缺クニ止マルモノハ之ヲ改正セシムル爲メ其期限ヲ指定シテ還付スヘシ

答辯書

第二十八條　行政裁判所ニ於テ訴狀ヲ受理シタルトキハ其副本ヲ被告ニ送付シ相當ノ期間ヲ指定シテ答辯書ヲ差出サシムヘシ

答辯書ニハ原告ニ送付スル爲メ必要文書ノ副本ヲ添フヘシ

辯駁書及再度答辯書

第二十九條　行政裁判所ハ必要ナリト認ムルトキハ其期限ヲ指定シテ原告被告交互ニ辯駁書及再度ノ答辯書ヲ差出サシムヘシ

訴訟文書ノ閱覽

第三十條　行政裁判所ハ訴狀及答辯書ノ附屬文書ノ副本ヲ原告被告交互ニ送付スル代リニ所內ニ於テ之ヲ閱覽セシムルコトヲ得

訴訟參加

第三十一條　行政裁判所ハ訴訟審問中其事件ノ利害ニ關係アル第三者ヲ訴訟ニ加ハラシメ又ハ第三者ノ願ニ依リ訴訟ニ加ハルコトヲ許可スルヲ得

前項ノ場合ニ於テハ行政裁判所ノ判決ハ第三者ニ對シテモ其效力ヲ有ス

行政官廳ノ訴訟代理人

第三十二條　行政官廳ハ其官吏又ハ其申立ニ依リ主務大臣ヨリ命シタル委員ヲシテ訴訟代理ヲ爲サシムルコトヲ得

代理者ハ委任狀ヲ以テ代人タルコトヲ證明スヘシ

口頭審問

第三十三條　行政裁判所ハ豫メ指定シタル期日ニ於テ原告被告及第三者ヲ召喚シテ審廷ヲ開キ口頭審問ヲ爲スヘシ

書面審理

原告及被告及第三者ニ於テ口頭審問ヲ爲スコトヲ望マサル旨ヲ申立タル場合ニ於テハ行政裁判所ハ文書ニ就キ直ニ判決ヲ爲スコトヲ得

審廷ニ於ケル審理手續

第三十四條　審廷ニ於テハ原告被告及第三者ノ辯明ヲ聽クヘシ
審廷ニ於テハ裁判長ノ許可ヲ得タル者ヨリ順次發言スヘシ
原告被告及第三者ハ事實上及法律上ノ點ニ就キ文書ニ盡ササル所ヲ補足シ又ハ誤謬ヲ更正シ若クハ新ニ證憑ヲ提出シ及證書ヲ提示スルコトヲ得

公益辯護委員

第三十五條　主務大臣ハ必要ト認ムル場合ニ於テハ公益ヲ辯護スル爲メ委員ヲ命シ審廷ニ差出スコトヲ得行政裁判所ハ判決ヲ爲ス前ニ委員ヲシテ意見ヲ陳述セシムヘシ

裁判ノ公開

第三十六條　行政裁判所ノ對審判決ハ之ヲ公開スヘシ
安寧秩序又ハ風俗ヲ害スルノ虞アリ又ハ行政廳ノ要求アルトキハ行政裁判所ノ決議ヲ以テ對審ノ公開ヲ停ムルコトヲ得

證據調

第三十七條　公開ヲ停ムルノ決議ヲ爲シタルトキハ公衆ヲ退カシムルノ前之ヲ言渡ス
第三十八條　行政裁判所ハ原告被告及第三者ニ出廷ヲ命シ竝ニ必要ト認ムル證憑ヲ徵シ證人及鑑定人ヲ召喚シ審問ニ應シ證明及鑑定ヲ爲サシムルコトヲ得
證人又ハ鑑定人トシテ審問ニ應シ證明及鑑定ヲ爲スヘキ義務ニ關シテハ民事訴訟ノ規程ヲ適用ス其義務ヲ盡ササル場合ニ於テ處スヘキ科罰ハ行政裁判所自ラ之ヲ判決ス
行政裁判所ハ口頭審問ニ於テ擧證ノ手續ヲ爲シ又ハ評定官ニ委任シ若クハ通常裁判所又ハ行政廳ニ囑託シテ之カ調査ヲ爲サシムルコトヲ得

辯論ノ中止

第三十九條　行政裁判所ニ於テ審問中ノ事件ニ關シ民事上ノ訴訟起ルコトアリテ通常裁判ノ確定ヲ待ツノ必要アリト認ムルトキハ其ノ審判ヲ中止スルコトヲ得

故障申立ノ決定

第四十條　審問手續ニ關スル故障ノ申立ハ行政裁判所自ラ之ヲ判決ス

當事者缺席ノ場合

第四十一條　召喚ノ期日ニ於テ原告若クハ被告若クハ第三者出廷セサルコトアルモ行政裁判所ハ其審判ヲ中止セス
原告被告及第三者共ニ出廷セサルトキハ行政裁判所ハ審問ヲ行ハス直ニ判決ヲ爲スコトヲ得

裁判宣告書

第四十二條　裁判宣告書ハ理由ヲ付シ裁判長評定官及書記之ニ署名捺印シ其謄本ニ行政裁判所ノ印章ヲ捺シ之ヲ原告被告及第三者ニ交付スヘシ

民事訴訟法ノ適用

第四十三條　行政訴訟ノ文書ニハ（訴訟用印紙）ヲ貼用スルヲ要セス
行政訴訟手續ニ關シ此法律ニ規程ナキモノハ行政裁判所ノ定ムル所ニ依リ民事訴訟ニ關スル規程ヲ適用スルコトヲ得

第四章　附則

第四十四條　此法律ハ明治二十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス
第四十五條　第二十條第二項ノ權限爭議ハ權限裁判所ヲ設クル迄ノ間樞密院ニ於テ之ヲ裁定ス
裁定ノ手續ハ勅令ノ定ムル所ニ依ル
第四十六條　從前ノ法令ニシテ此法律ト牴觸スルモノハ此法律施行ノ日ヨリ廢止ス
第四十七條　此法律施行ノ前既ニ行政訴訟トシテ受理シ審理中ニ係ル者ハ仍從前ノ成規ニ依リ處分スヘシ

○訴願法（明治二十三年十月十日法律第百五號）

訴願事項

第一條　訴願ハ法律勅令ニ別段ノ規程アルモノヲ除ク外左ニ揭クル事件ニ付之ヲ提起スルコトヲ得
一　租稅及手數料ノ賦課ニ關スル事件
二　租稅滯納處分ニ關スル事件
三　營業免許ノ拒否又ハ取消ニ關スル事件
四　水利及土木ニ關スル件
五　土地ノ官有民有區分ニ關スル事件
六　地方警察ニ關スル事件
行政訴訟及訴願　訴願法

其他法律勅令ニ於テ特ニ訴願ヲ許シタル事件

訴願手續

第二條　訴願セントスル者ハ處分ヲ爲シタル行政廳ヲ經由シ直接上級行政廳ニ之ヲ提起スヘシ訴願ノ裁決ヲ受ケタル後更ニ上級行政廳ニ訴願スルトキハ其裁決ヲ受ケシタル行政廳ヲ經由スヘシ國ノ行政ニ付此法律ニ依リ郡參事會ノ處分若クハ裁決ヲ爲シタル郡參事會又ハ市參事會ヲ經由シテ府縣參事會ニ之ヲ提起スヘシ

各省大臣ノ處分ニ對スル訴願

第三條　各省大臣ノ處分ニ對シ訴願セントスル者ハ其省ニ之ヲ提起スヘシ

第四條　裁判所ノ裁判各省ノ裁決及第二條第三項府縣參事會ノ裁決ヲ經タルモノハ其事件ニ付更ニ訴願スルコトヲ得ス

訴願ノ制限

第五條　訴願ハ文書ヲ以テ之ヲ提起スヘシ

訴願書

訴願書ノ侮辱誹毀ニ渉ルモノハ之ヲ受理セス

第六條　訴願書ハ其不服ノ要點理由要求及訴願人ノ身分職業住所年齡ヲ記載シ署名捺印シ訴願書ニハ證憑書類ヲ添ヘ竝下級行政廳ノ裁決ヲ經タルモノハ其訴願書ニ各訴願人ノ身分職業住所年齡ヲ記載シ署名捺印シ

第七條　多數ノ人員共同シテ訴願セントスルトキハ其中ヨリ三名以下ノ總代人ヲ選ヒ之ニ委任シ總代委任ノ正當ナルコトヲ證明スヘシ

法律ニ依リ法人ト認メラレタルモノハ其名ヲ以テ訴願ヲ提起スルコトヲ得ス

訴願提起期間

第八條　行政處分ヲ受ケタル後六十日ヲ經過シタルトキハ其處分ニ對シ訴願スルコトヲ得ス

行政廳ノ裁決ヲ經タル訴願ニシテ其裁決ヲ受ケタル後三十日ヲ經過シタルモノハ更ニ上級行政廳ニ訴願スルコトヲ得ス

行政廳ニ於テ宥恕スヘキ事由アリト認ムルトキハ期限後ニ於テモ仍之ヲ受理スルコトヲ得

訴願ノ却下

第九條　法律勅令ニ依リ訴願ヲ提起スヘカラサルモノナルカ又ハ適法ノ手續ニ違背スルモノナルトキハ之ヲ却下ス

其訴願書ノ方式ヲ缺クニ止マルモノハ期限ヲ指定シテ還付スヘシ

訴願書ノ提出

第十條　訴願書ハ郵便ヲ以テ差出スコトヲ得

郵便遞送ノ日數ハ第八條ノ訴願期間内ニ之ヲ算入セス

經由廳ノ處理

第十一條　第二條第一項ノ場合ニ於テ訴願書ノ經由ニ當レル行政廳ハ訴願書ヲ受取リタル日ヨリ十日以内ニ辯明書及ヒ必要文書ヲ添ヘ上級行政廳ニ之ヲ發送スヘシ

第二條第二項ノ場合ニ於テ訴願書ノ經由ニ當レル行政廳ハ訴願書ヲ受取リタル日ヨリ三日以内ニ上級行政廳ニ之ヲ發送スヘシ

第二條第三項ノ場合ニ於テ訴願書ヲ發送スルトキ亦前二項ノ例ニ依ルヘシ

訴願提起ノ效果

第十二條　訴願ハ法律勅令ニ別段ノ規程アルモノヲ除ク外行政處分ノ執行ヲ停止セス但行政廳ハ其職權ニ依リ又ハ訴願人ノ願ニ依リ必要ナリト認ムルトキハ其執行ヲ停止スルコトヲ得

審理

第十三條　訴願ハ口頭審問ヲ爲サス其文書ニ就キ之ヲ裁決ス但行政廳ニ於テ必要ナリト認ムルトキハ口頭審問ヲ爲スコトヲ得

裁決

第十四條　訴願ノ裁決ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其理由ヲ付スヘシ訴願ヲ却下スルトキ亦同シ

裁決書ノ交付

第十五條　訴願ノ裁決書ハ其處分ヲ爲シタル行政廳ヲ經由シテ之ヲ訴願人ニ交付スヘシ訴願書ヲ却下スルトキ亦同シ

裁決ノ效果

第十六條　上級行政廳ニ於テ爲シタル裁決ハ下級行政廳ヲ羈束ス

訴願手續ニ關スル特別法ノ效力

第十七條　訴願ノ手續ニ關シ他ノ法律勅令ニ別段ノ規定アルモノハ各其規定ニ依ル

附則

第十八條　明治十五年十二月第五十八號布告請願規則ハ此法律施行ノ日ヨリ廢止ス

第十九條　此法律施行前請願規則ニ依リ受理シタル請願ハ仍其規則ニ依リ之ヲ處分ス

請願規則ニ依リ下級行政廳ノ指令ヲ受ケタル者訴願スヘキ場合ニ於テ更ニ訴願セントスルトキハ此法律ニ從ヒ行政訴訟及訴願　訴願法

其上級行政廳ニ之ヲ提起スヘシ

第二十條　第八條ノ訴願期限ハ此法律ノ前行政處分ヲ受ケ又ハ指令ヲ受ケタル日ヨリ滿五年ヲ經過セサルモノニ對シテハ此法律施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第二十一條　行政廳ニ呈出スル請願ハ此法律ニ依ルノ限ニ在ラス

○會計法

（大正十年四月八日法律第四十二號）

會計

總則

第一章　總則

第一條　政府ノ會計年度ハ每年四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル

一會計年度所屬ノ歲入歲出ノ出納ニ關スル事務ハ翌年度七月三十一日迄ニ悉皆完結スヘシ

〔會規〕

第二條　租稅其ノ他一切ノ收納ヲ歲入トシ一切ノ經費ヲ歲出トシ歲入歲出ハ之ヲ總豫算ニ編入スヘシ

第三條　每會計年度ニ於ケル經費ノ定額ハ其ノ年度ノ歲入ヲ以テ之ヲ支辨スヘシ

第四條　各官廳ニ於テハ法律勅令ヲ以テ規定シタルモノヲ除クノ外特別ノ資金ヲ有スルコトヲ得ス

第五條　政府ハ日本銀行ヲシテ國庫金出納ノ事務ヲ取扱ハシム

前項ノ規定ニ依リ日本銀行ニ於テ受入レタル國庫金ハ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ預金トス

〔會規〕　三・四

第六條　政府ハ國庫金出納上必要アルトキハ大藏省證券ヲ發行シ又ハ日本銀行ヨリ借入ヲ爲スコトヲ得

大藏省證券及借入金ハ當該年度ノ歲入ヲ以テ之ヲ償還スヘシ

大藏省證券及借入金ノ最高額ハ每年度帝國議會ノ協贊ヲ經テ之ヲ定ム

豫算

第二章　豫算

第七條　歲入歲出ノ總豫算ハ前年ノ帝國議會集會ノ始ニ於テ之ヲ提出スヘシ

必要避クヘカラサル經費及法律又ハ契約ニ基ク經費ニ不足ヲ生シタル場合ヲ除クノ外追加豫算ヲ提出スルコト

ヲ得ス

第八條　歳入歳出ノ總豫算ハ經常臨時ノ二部ニ大別シ各部中ニ於テ之ヲ款項ニ區分スヘシ總豫算ニハ帝國議會參考ノ爲ニ左ノ文書ヲ添附スヘシ

一　歳入豫算明細書

二　各省ノ豫定經費要求書但シ各項中各目ノ明細ヲ記入スヘシ

〔會規〕　六・七・八・九・一〇・一一・一二・一三

豫備金

第九條　豫算中ニ設クヘキ豫備費ハ左ノ二項ニ分ツ

第一豫備金

第二豫備金

第一豫備金ハ避クヘカラサル豫算ノ不足ヲ補フモノトス

第二豫備金ハ豫算外ニ生シタル必要ノ費用ニ充ツルモノトス

〔會規〕　一七・一八・一九・二〇・二一・二二・二三

第十條　豫備金ヲ以テ支辨シタルモノハ其ノ第一豫備金支出ニ係ルモノハ次ノ常會ニ於テ帝國議會ニ提出シ其ノ承諾ヲ求ムルコトヲ要ス

〔會規〕　二四・二五

翌年度ニ亙ル契約

第十一條　政府ハ豫算ニ定ムルモノ及特ニ帝國議會ノ協賛ヲ經タルモノヲ除クノ外災害事變其ノ他避クヘカラサル事由アル場合ニ於テハ翌年度ニ亙ル契約ヲ締結スルコトヲ得

前項ノ規定ニヨリ翌年度ニ亙ル契約ヲ爲スコトヲ得ヘキ金額ハ每年度帝國議會ノ協賛ヲ經テ之ヲ定ム

〔會規〕　二六・二七

第三章　收入

收入

第十二條　租稅其ノ他ノ歳入ハ法令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ徵收又ハ收納スヘシ

法令ノ定ムル所ニ依リ當該官吏ノ資格アル者ニ非サレハ租稅其ノ他ノ歳入ヲ徵收又ハ收納スルコトヲ得ス

但シ各廳事務員ヲシテ收納ヲ分掌セシムル場合又ハ日本銀行ヲシテ收納ヲ取扱ハシムル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

〔會規〕　二八・二九・三〇・三一・三二・三三・三四・三五・三六・三七・三八・七三・一五二・一五三・一五四・一五五

第四章　支出

支出

第十三條　各年度ニ於テ決定シタル經費ノ定額ヲ以テ他ノ年度ニ屬スヘキ經費ニ充ツルコトヲ得ス

第十四條　國務大臣ハ其ノ所管ニ屬スル收入ヲ國庫ニ納ムヘシ直ニ之ヲ使用スルコトヲ得ス國務大臣ハ豫算ニ定メタル目的ノ外ニ定額ヲ使用シ又ハ各項ノ金額ヲ彼此流用スルコトヲ得ス

〔會規〕　三九・四〇

小切手ノ振出

第十五條　國務大臣其ノ所管定額ヲ支出セムトスルトキハ現金ノ交付ニ代ヘ日本銀行ヲ支拂人トスル小切手ヲ振出スヘシ但シ他ノ官吏ニ委任シテ小切手ヲ振出サシムルコトヲ得

〔會規〕　一四・一五・一六・四一・四二・四三・一五六・一五七

第十六條　國務大臣ハ債主ノ爲ニスルニ非サレハ小切手ヲ振出スコトヲ得ス但シ以下四條ノ規定ニ依リ主任ノ官吏又ハ日本銀行ニ對シ資金ヲ交付スル場合ニ於テハ此限ニ在ラス

〔會規〕　四四・四五・四六・四七・四九・五〇・五一・五三・五四・五五・五六・六六・六七・七四・七五

資金前渡

第十七條　國務大臣ハ勅令ヲ以テ定ムル經費ニ限リ主任ノ官吏ヲシテ現金支拂ヲ爲サシムル爲勅令ノ定ムル所ニ依リ之カ資金ヲ當該官吏ニ交付スルコトヲ得

〔會規〕　五七・五八・六四・六五

繰替拂

第十八條　國務大臣ハ日本銀行ニ命シ國債ノ元利拂ヲ爲サシムル爲之カ資金ヲ日本銀行ニ交付スルコトヲ得

第十九條　國務大臣ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ現金支拂ヲ爲サシムル爲當該官吏ヲシテ其ノ保管ニ係ル歳入金歳出金又ハ歳入歳出外現金ヲ繰替使用セシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ歳出金ニ繰替使用シタル現金ヲ補塡スル爲國務大臣ハ之カ資金ヲ當該官吏ニ交付スルコトヲ得

〔會規〕六二・六三

隔地者拂　第二十條　國務大臣隔地者ニ支拂ヲ爲サムトスルトキハ必要ナル資金ヲ日本銀行ニ交付シ之カ支拂ヲ爲サシムルコトヲ得

前項ノ規定ハ隔地ノ出納官吏ニ資金ヲ交付セムトスル場合ニ之ヲ準用ス

〔會規〕四八・五二

前金拂概算拂　第二十一條　國務大臣ハ勅令ヲ以テ定メタル場合ニ限リ前金拂又ハ概算拂ヲ爲スコトヲ得但シ軍艦、兵器、彈藥若ハ外國ヨリ直接購入スル機械圖書ノ代價及官公署ニ對シ支拂フヘキ經費ヲ除クノ外物件ノ製造若ハ買入又ハ工事ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

〔會規〕五九・六〇

渡切經費　第二十二條　國務大臣ハ特殊ノ經理ヲ必要トスル場合ニ限リ勅令ノ定ムル所ニ依リ各廳事務費ノ全部又ハ一部ヲ主務官吏ニ對シ渡切ヲ以テ支給スルコトヲ得

〔會規〕六一

決算

第五章　決算

第二十三條　會計檢査院ノ檢査ヲ經テ政府ヨリ帝國議會ニ提出スル歳入歳出ノ總決算ハ翌年開會ノ常會ニ於テ帝國議會ニ之ヲ提出スヘシ

〔會規〕六八・六九

總決算　第二十四條　總決算ハ總豫算ト同一ノ樣式ヲ用ヰ左ノ事項ノ計算ヲ明記スヘシ

歳入ノ部

歳入豫算額

調査濟歳入額

收入濟歳入額

不納缺損額

收入未濟歳入額

歳出ノ部

歳出豫算額

豫算決定後增加歳出額

支出濟歳出額

翌年度繰越額

不用額

第二十五條　總決算ニハ會計檢査院ノ檢査報告ト倶ニ左ノ文書ヲ添附スヘシ

一　歳入決算明細書

二　各省決算報告書

三　國債計算書

〔會規〕七〇・七一・七二・七六・七七

第六章　歳計剰餘定額繰越

歳計剰餘　第二十六條　各年度ニ於テ歳計ニ剰餘アルトキハ其ノ翌年度ノ歳入ニ繰入ルヘシ

定額繰越　第二十七條　豫算ニ於テ特ニ明許シタルモノ及一年度内ニ終ルヘキ工事製造又ハ物品ノ買入若ハ運搬ニシテ避クヘカラサル事故ノ爲ニ竣功又ハ納入若ハ運搬ヲ遲延シ年度内ニ其ノ經費ノ支出ヲ終ラサリシモノハ之ヲ翌年度ニ繰越シ使用スルコトヲ得

〔會規〕七八・七九・八〇

第二十八條　數年ヲ期シテ竣功スヘキ工事製造其ノ他ノ事業ニシテ繼續費トシテ總額ヲ定メタルモノハ毎年度ノ支出殘額ヲ竣功年度迄遞次繰越シ使用スルコトヲ得

過年度支出豫算外收入及定額戻入

第二十九條　過年度ニ屬スル經費ハ現年度定額ヨリ支出スヘシ但シ豫備金ヲ以テ補充シ得ヘキモノヲ除クノ外其經費所屬年度ノ每項定額中不用ト爲リタル金額ヲ超過スルコトヲ得ス

第三十條　出納ノ完結シタル年度ニ屬スル收入其ノ他豫算外ノ收入ハ總テ現年度ノ歲入ニ組入ルヘシ但シ支出濟歲出ノ返納金ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ各之ヲ支拂ヒタル經費ノ定額ニ戻入ルルコトヲ得

〔會規〕　八一・八二・八三・八四

第七章　契約

第三十一條　政府ニ於テ賣買貸借請負其ノ他ノ契約ヲ爲サムトスルトキハ勅令ヲ以テ定メタル場合ヲ除クノ外總テ公告シテ競爭ニ付スヘシ

契約

國務大臣前項ノ方法ニ依リ契約ヲ爲スヲ不利ト認ムル場合ニ於テハ指名競爭ニ付シ又ハ隨意契約ニ依ルコトヲ得但シ不動產賣拂ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

〔會規〕　八五・八六・八七　八八・八九・九〇・九一・九二・九三・九四・九五・九六・九七・九八・九九・一〇〇・一〇一・一〇二・一〇三・一〇四・一〇五・一〇六・一〇七・一〇八・一〇九・一一〇・一一一・一一二・一一三・一一四・一一五・一一六・一一七・一一八・一一九

第八章　時效

時效

第三十二條　金錢ノ給付ヲ目的トスル政府ノ權利ニシテ時效ニ關シ他ノ法律ニ規定ナキトキハ五年間之ヲ行ハサルニ因リテ消滅ス政府ニ對スル權利ニシテ金錢ノ給付ヲ目的トスルモノニ付亦同シ

第三十三條　金錢ノ給付ヲ目的トスル政府ノ權利ニ付消滅時效ノ中斷停止其ノ他ノ事項ニ關シ適用スヘキ他ノ法律ノ規定ナキトキハ民法ノ規定ヲ準用ス政府ニ對スル權利ニシテ金錢ノ給付ヲ目的トスルモノニ付亦同シ

第三十四條　法令ノ規定ニ依リ政府ノ爲ス納入ノ告知ハ民法第百五十三條ノ規定ニ拘ラス時效中斷ノ効力ヲ有ス

第九章　出納官吏

出納官吏

第三十五條　出納官吏ハ法令ノ定ムル所ニ依リ現金又ハ物品ヲ出納保管スヘシ

出納官吏ハ其ノ出納保管ニ係ル現金又ハ物品ニ付一切ノ責任ヲ負ヒ會計檢查院ノ檢查判決ヲ受クヘシ

〔會規〕　一一二四・一一二五・一一二六・一一三二・一一三三・一一三四・一一三五・一一三六・一一三七・一一三八・一一三九・一一四〇・一一四一・一一四二・一一四三・一一四四・一一四五・一一四六・一一四七・一一五八・一一五九・一一六二・一一六三・一一六四・一一六五

第三十六條　出納官吏其ノ保管ニ係ル現金又ハ物品ヲ亡失毀損シタルトキハ善良ナル管理者ノ注意ヲ怠ラサリシコトヲ會計檢查院ニ證明シ責任解除ノ判決ヲ受クルニ非サレハ其ノ亡失毀損ニ付辨償ノ責ヲ免ルルコトヲ得ス

〔會規〕　一三〇・一三一

第三十七條　國務大臣ハ特ニ必要アル場合ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ各廳ノ事務員ヲシテ現金又ハ物品ノ出納保管ヲ分掌セシムルコトヲ得

出納官吏ニ關スル規定ハ前項ノ事務員ニ付之ヲ準用ス

〔會規〕　一二七・一二八・一二九

第三十八條　第十五條ニ定メタル小切手振出ノ職務ハ現金出納ノ職務ト相兼ヌルコトヲ得ス

第十章　雜則

雜則

第三十九條　特別ノ須要ニ因リ本法ニ準據シ難キモノアルトキハ特別會計ヲ設置スルハ法律ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

特別會計

第四十條　政府ハ其ノ所有又ハ保管ニ係ル有價證券ノ取扱ヲ日本銀行ニ命スルコトヲ得

〔會規〕　一二〇・一二一・一二二・一二三

第四十一條　日本銀行ハ其ノ取扱ヒタル國庫金ノ出納、國債ノ發行ニ依ル收入金ノ收支、第十八條又ハ第二十條ノ規定ニ依リ交付ヲ受ケタル資金ノ收支及前條ノ規定ニ依リ取扱ヒタル有價證券ノ受拂ニ關シ會計檢查院ノ檢

査ヲ受クヘシ

〔會規〕　一四八・一四九・一五〇・一五一・一六〇

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（大正十年勅令第四百八十六號ヲ以テ大正十一年四月一日ヨリ施行）

明治二十七年法律第十六號、明治三十三年法律第五十五號及明治四十四年法律第二十四號ハ之ヲ廢止ス

本法施行前ニ爲シタル第二豫備金ノ支出竝本法施行ノ日ノ屬スル年度ノ前年度及前々年度ノ決算ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

本法施行前ニ滿期免除ト爲ラサル權利ニ付テハ本法其ノ他ノ法律中時效ニ關スル規定ヲ適用ス但シ其ノ期間ノ起算點ニ付テハ從前ノ規定ニ依ル

本法施行前ニ進行ヲ始メタル滿期免除ノ期間カ本法其ノ他ノ法律ニ定メタル時效ノ期間ヨリ長キトキハ從前ノ規定ニ依ル但シ其ノ殘期カ本法施行ノ日ヨリ起算シ本法其ノ他ノ法律ニ定メタル時效ノ期間ヨリ長キトキハ其ノ日ヨリ起算シテ本法其ノ他ノ法律ヲ適用ス

前三項ニ規定スルモノヲ除クノ外本法ノ施行ニ關シ必要ナル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

〔會規〕　一六六・一六七・一六八・一六九・一七〇・一七一・一七二・一七三・一七四

○會計規則（大正十一年一月九日勅令第一號）

改正　昭和七年勅一〇〇號　同八年勅三三〇號

第一章　總則

第一節　會計年度所屬區分

第一條　歲入ノ年度所屬ハ左ノ區分ニ依ル

一　納期一定シタル收入ハ其ノ納期末日ノ屬スル年度

二　隨時ノ收入ニシテ告知書ヲ要スルモノハ納入ノ告知書ヲ發シタル日ノ屬スル年度

三　隨時ノ收入ニシテ納入ノ告知書ヲ發セサルモノハ領收ヲ爲シタル日ノ屬スル年度

第二條　歲出ノ年度所屬ハ左ノ區分ニ依ル

一　國債ノ元利、年金、恩給ノ類ハ支拂期日ノ屬スル年度

二　諸拂戻金、缺損補塡金、償還金ノ類ハ其ノ決定ヲ爲シタル日ノ屬スル年度

三　俸給、給料、手當、旅費、手數料ノ類ハ其ノ支給スヘキ事實ノ生シタル時ノ屬スル年度

四　使用料、保管料、電燈電力料ノ類ハ其ノ支拂ノ原因タル事實ノ存シタル期間ノ屬スル年度

五　工事製造其、物件ノ購入代價、運賃ノ類ハ其ノ支拂ヲ爲スヘキ日ノ屬スル年度

六　前各號ニ該當セサル費用ニシテ繰替拂ヲ爲シタルモノハ其ノ繰替拂ヲ爲シタル日ノ屬スル年度、其ノ他ノモノハ小切手ヲ振出シタル日ノ屬スル年度

第二節　國庫金ノ出納

第三條　日本銀行ハ本令ニ依ル外大藏大臣ノ定ムル所ニ依リ國庫金出納ノ事務ヲ取扱フヘシ

日本銀行ニ於テ受入レタル國庫金ハ政府預金トシ其ノ種別受拂ニ關スル事項ハ大藏大臣之ヲ定ム

第四條　政府預金ニハ大藏大臣ノ特ニ定ムルモノニ限リ相當ノ利子ヲ附セシム

第五條　每年度所屬歲入金ヲ日本銀行ニ於テ受入ルルハ翌年度四月三十日限トス但シ左ニ揭クルノ場合ニ於テハ翌年度五月三十一日迄之カ受入ヲ爲スコトヲ得

一　出納官吏ヨリ其ノ領收シタル國庫金ハ政府預金ニ拂込アリタルトキ

二　市町村又ハ之ニ準スヘキモノヨリ其ノ收納シタル歲入金ノ送付アリタルトキ

三　國庫內ニ於テ移換ニ依ル歲入金ノ受入ヲ爲ストキ

每年度所屬歲出金ヲ日本銀行ニ於テ支拂フハ翌年五月三十一日限トス

第二章　豫算

第一節　總豫算

第六條　大藏大臣ハ歲入ノ景況ヲ調査シ各省ノ豫定經費要求書ニ基キ歲入歲出總豫算ヲ調製スヘシ總豫算ニハ歲計全體ニ關スル說明ヲ附スヘシ

第七條　歲入豫算ハ經常臨時共ニ款項ニ區分シテ調製シ成ルヘク歲入ノ性質ヲ明ニスヘシ

第八條　歲出豫算ハ經常臨時共ニ款項ニ區分シテ調製シ成ルヘク經費ノ目的ヲ明ニスヘシ

第九條　歲入歲出總豫算款項ノ區分ハ大藏大臣之ヲ定ム

第二節　歲入豫算明細書

第十條　大藏大臣ハ每年度歲入ノ豫定高ヲ算定シ前年度ノ豫算額ト比較ヲ爲シ歲入豫算明細書ヲ調製スヘシ歲入豫算明細書ハ經常臨時共ニ款項ニ區分シ更ニ各項ノ金額ヲ各目ニ區分シ各項每ニ增減ノ事由及計算ノ基ク所ヲ示スヘシ

第三節　豫定經費要求書

第十一條　各省大臣ハ每年度其ノ所管經費ノ豫定高ヲ算定シ前年度ノ豫算額ト比較ヲ爲シ豫定經費要求書ヲ調製シ前年度九月三十日迄ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第十二條　各省ノ豫定經費要求書ハ經常臨時共ニ款項ニ區分シ各項中所要ノ金額ヲ各目ニ區分シ必要ノ場合ニ於テハ更ニ之ヲ細分シ經費所要ノ理由及計算ノ基ク所ヲ示スヘシ

目ノ區分ハ各省大臣大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ム

第十三條　各省ノ豫定經費要求書ニハ各省所管經費全體ニ關スル說明及各款各項ノ說明ヲ附スヘシ

第四節　支拂豫算

第十四條　各省大臣ハ其ノ所管定額ノ範圍內ニ於テ支出官ノ支出ニ必要ナル費額ニ依リ支出官每ニ支拂豫算ヲ調製シ大藏大臣ノ承認ヲ經ヘシ

第十五條　削除（同上）

第十六條　大藏大臣支拂豫算ヲ承認シタルトキハ之ヲ會計檢査院及日本銀行ニ通知スヘシ（同上）

第五節　豫備金支出

第十七條　豫備金ハ大藏大臣之ヲ管理ス

第十八條　第一豫備金ヲ以テ補充シ得ヘキ費途ハ每年度豫メ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十九條　各省大臣第一豫備金ノ支出ヲ要スルトキハ金額、理由及計算ノ基ク所ヲ明ニシタル要求書ヲ調製シ大藏大臣ノ承認ヲ經ヘシ

第二十條　大藏大臣第一豫備金ノ支出ヲ承認シタルトキハ之ヲ會計檢査院ニ通知スヘシ

第二十一條　各省大臣第二豫備金ノ支出ヲ要スルトキハ金額、理由及計算ノ基ク所ヲ明ニシタル要求書ヲ調製シ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第二十二條　大藏大臣ハ前條ノ要求書ヲ調査シ意見ヲ附シテ勅裁ヲ請フヘシ

第二十三條　第二豫備金支出ノ勅裁アリタルトキハ大藏大臣ハ金額、理由及計算ノ基ク所ヲ明ニシタル書類ヲ添ヘ之ヲ會計檢査院ニ通知シ且其ノ事項及金額ヲ官報ニ揭載スヘシ

第二十四條　第一豫備金ヲ以テ補充シタル金額ハ各省大臣其ノ計算書ヲ調製シ各費途每ニ說明ヲ附シ翌年度八月三十一日迄ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

大藏大臣ハ第一豫備金支出ノ總計算書ヲ調製シ之ニ說明ヲ附シ各省大臣ヨリ送付シタル豫備金支出ノ計算書ト共ニ帝國議會ニ提出スルノ手續ヲ爲スヘシ

第二十五條　第二豫備金ヲ以テ支辨シタル金額ハ各省大臣其ノ調書ヲ調製シ各費途每ニ說明ヲ附シ每年度帝國議會ノ常會開會後直ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

大藏大臣ハ第二豫備金支出ノ總調書ヲ調製シ之ニ說明ヲ附シ各省大臣ヨリ送付シタル豫備金支出ノ調書ト共ニ

帝國議會ニ提出スルノ手續ヲ爲スヘシ

第六節　翌年度ニ亙ル契約

第二十六條　各省大臣災害事變其ノ他避クヘカラサル事由ノ爲會計法第十一條第一項ノ規定ニ依リ翌年度ニ亙ル契約ヲ結フノ必要アリト認ムルトキハ金額、理由及計算ノ基ク所ヲ明ニシタル要求書ヲ調製シ大藏大臣ノ承認ヲ經ヘシ

第二十七條　大藏大臣前條ノ承認ヲ爲シタルトキハ金額、理由及計算ノ基ク所ヲ明ニシタル書類ヲ添ヘ之ヲ會計檢査院ニ通知スヘシ

第三章　收入

第一節　徵收

第二十八條　歲入徵收官ハ法律又ハ勅令ニ特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外各省大臣ノ定ムル各廳ノ長ヲ以テ之ニ充ツ但シ各省大臣必要アリト認ムルトキハ大藏大臣ト協議シテ特例ヲ設クルコトヲ得

第二十九條　支出濟ト爲リタル歲出ノ返納金ヲ歲入ニ組入レムトスル場合ニ於テハ該經費ヲ支出シタル支出官之カ歲入徵收官トシテ徵收ノ手續ヲ爲スベシ

第三十條　歲入徵收官租稅其ノ他ノ歲入ヲ徵收セムトスルトキハ其ノ納付スヘキ金額、期日及場所ヲ記載シタル書面ヲ以テ誤ルコトナキカヲ調査シ之ヲ決定スヘシ

第三十一條　歲入徵收官前條ノ決定ヲ爲シタルトキハ納入ノ告知ヲ爲スヘシ但シ出納官吏又ハ出納員ニ即納セシムル場合ハ口頭ヲ以テ納入ノ告知ヲ爲スコトヲ得

第三十二條　納期ノ一定シタル收入ニシテ納期所屬ノ年度ニ於テ納入ノ告知書ヲ發セサルモノハ全テ納入ノ告知書ヲ發シタル年度ノ歲入ニ組入ルヘシ

第二節　收納

第三十三條　出納官吏又ハ出納員租稅其ノ他ノ歲入金ヲ收納シタルトキハ領收證書ヲ納入ニ交付スヘシ此ノ場合ニ於テハ出納官吏收納濟ノ旨ヲ歲入徵收官ニ報告スヘシ

第三十四條　出納官吏又ハ出納員ノ收納シタル現金ハ出納官吏之ヲ日本銀行ニ拂込ムヘシ

第三十五條　日本銀行ニ於テ歲入金ヲ收納シ又ハ歲入金ノ拂込ヲ受ケタルトキハ領收證書ヲ納入又ハ拂込人ニ交付シ領收濟ノ旨ヲ歲入徵收官ニ報告スヘシ

第三十六條　每年度所屬歲入金ヲ出納官吏又ハ出納員ニ於テ收納スルハ翌年度四月三十日限トス

第三節　報告

第三十七條　歲入徵收官ハ每月徵收報告書ヲ調製シ參照書類ヲ添ヘ之ヲ歲入事務管理廳ニ送付スヘシ

第三十八條　歲入事務管理廳ハ徵收報告書ニ依リ每月徵收總報告書ヲ調製シ參照書類ヲ添ヘ其ノ翌月中ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第四章　支出

第一節　總則

第三十九條　勅令ヲ以テ指定シタル費途ニ對シテハ大藏大臣ノ承認ヲ經ルニ非サレハ之ニ他ノ費途ノ金額ヲ流用スルコトヲ得ス

大藏大臣前項ノ承認ヲ爲シタルトキハ之ヲ會計檢査院ニ通知スヘシ

第四十條　豫備金ヲ以テ支辨スル費途ノ金額ハ他ノ費途ニ流用スルコトヲ得ス

第四十一條　各省大臣ノ官吏ヲシテ其ノ所管定額ノ支出ヲ爲サシメムトスルトキハ支拂豫算ヲ定メテ之ヲ委任スヘシ

第四十二條　支出官ニ事故アルトキハ各省大臣ハ臨時他ノ官吏ヲシテ其ノ事務ヲ代理セシムルコトヲ得

第四十三條　本章ノ規定ハ小切手法ノ適用ヲ妨ケス（昭和八年勅令第三百三十號改正）

第二節　小切手ノ振出

第四十四條　支出官ハ小切手振出前其ノ經費ハ豫算ノ目的ニ違フコトナキカヲ調査シ該經費ノ金額ヲ算定シ且該經費ハ支拂豫算額ニ超過スルコトナキカ、所屬年度及支出科目ヲ誤ルコトナキカヲ調査スヘシ

第四十五條　支出官ハ其ノ振出ス小切手ニ受取人ノ氏名、金額、年度、支出科目、番號其ノ他必要ナル事項ヲ記載スヘシ

第四十六條　小切手ハ一項毎ニ之ヲ振出スヘシ

第四十七條　支出官ノ振出ス小切手ハ大藏大臣ノ特ニ定ムル場合ヲ除クノ外之ヲ記名式持參人拂ト爲スヘシ（昭和八年勅令第三百三十號改正）

第四十八條　支出官隔地ノ債主ニ支拂ヲ要スルトキハ支拂場所ヲ指定シ日本銀行ニ之カ資金ヲ交付シ其ノ旨ヲ債主ニ通知スヘシ

前項ノ規定ハ隔地ノ出納官ニ資金ヲ交付スル場合ニ之ヲ準用ス

第四十九條　支出官小切手ヲ振出シタルトキハ其ノ都度之ヲ日本銀行ニ通知スヘシ

第五十條　每年度ニ屬スル經費ヲ精算シテ小切手ヲ振出スハ翌年度四月三十日限トス但シ國庫內ニ於ケル移換ノ爲ニスル支出又ハ會計法第十九條ノ規定ニ依リ歲出金ニ繰替使用シタル現金補塡ノ爲ニ支出スル支出ニ付テハ翌年五月三十一日迄小切手ヲ振出スコトヲ得

第三節　支拂

第五十一條　小切手ノ呈示アリタルトキハ日本銀行ハ其ノ小切手カ法令ニ違フコトナキカ、券面金額カ支拂豫算各項定額ノ殘高ニ超過スルコトナキカヲ調査シ之カ支拂ヲ爲スヘシ

前項ノ小切手ニシテ其ノ振出日附ヨリ十日ヲ經過シタルモノト雖一年ヲ經過セサル場合ニ於テハ之カ支拂ヲ爲スヘシ

第五十二條　日本銀行第四十八條ノ規定ニ依リ資金ノ交付ヲ受ケタル場合ニ於テ其ノ小切手ノ振出日附ヨリ一年ヲ經過シタルトキハ債主又ハ出納官吏ニ對シ之カ支拂ヲ爲スコトヲ得ス

第五十三條　每年度小切手振出濟金額中翌年度五月三十一日迄ニ支拂ヲ了セサル金額ニ相當スル資金ハ會計法第二十六條ノ歲計剩餘ニ組入レス之ヲ繰越整理スヘシ

第五十四條　前條ノ規定ニ依リ繰越シタル資金中小切手振出日附ヨリ一年ヲ經過シ未タ其ノ支拂ヲ了セサル金額ニ相當スルモノハ之ヲ其ノ期間滿了ノ日ノ屬スル年度ノ歲入ニ組入ルヘシ

前項ノ規定ハ日本銀行第五十二條ノ場合ニ於テ支拂ヲ了セサル金額ニ相當スル資金ノ返納ニ付之ヲ準用ス

第五十五條　支出官小切手ノ所持人ヨリ償還ノ請求ヲ受ケタル場合ニ於テハ之ヲ調査シ償還スヘキモノト認ムルトキハ事由ヲ具シ證憑書類ヲ添ヘ之ヲ所管大臣ニ提出シ所管大臣ハ審査ノ上之カ支拂ヲ大藏大臣ニ請求スヘシ

第五十六條　前條ノ規定ハ支出官第五十二條ノ場合ニ於テ其ノ支拂ヲ受ケサル債主又ハ出納官吏ヨリ更ニ支拂ノ請求ヲ受ケタル場合ニ之ヲ準用ス

第四節　資金前渡、概算拂及渡切經費

第五十七條　會計法第十七條ノ規定ニ依リ主任ノ官吏ヲシテ現金支拂ヲ爲サシムル爲其ノ資金ヲ當該官吏ニ前渡スルハ左ニ揭クル經費ニ限ル

一　陸軍ノ軍隊、學校及病院竝海軍ノ部隊、學校、病院及艦船ニ屬スル經費

二　陸海軍ノ行軍又ハ演習ニ要スル經費

三　陸軍ニ於テ馬匹又ハ糧秣ヲ生產者ヨリ直接購入スル場合ニ要スル經費

四　官船ニ屬スル經費

五　外國ニ於テ支拂ヲ爲ス經費

六　運輸通信ノ不便ナル地方ニ於テ支拂ヲ爲ス經費

七　廳中常用ノ雜費及旅費但シ一年ノ總額五千圓ヲ超ユルコトヲ得ス

八　場所ノ一定セサル事務所ノ經費

九　各廳直營ノ工事、製造又ハ造林ニ要スル經費但シ一主任官ニ付常時五萬圓ヲ超ユルコトヲ得ス

十　監獄作業賞與金
十一　囚人及刑事被告人押送費
十二　證人、鑑定人、通事又ハ參考人ニ支給スル旅費其ノ他ノ給與
第五十八條　前條ノ規定ニ依リ賚金ヲ前渡スルハ左ノ區分ニ依ル
一　常時ノ費用ニ係ルモノハ毎一月分以内ノ費額ヲ豫定シテ交付スヘシ但シ外國ニ於テ支拂ヲ爲ス經費ハ運輸通信ノ不便ナル地方ニ於テ支拂ヲ爲ス經費又ハ支拂場所ノ一定セサル經費ハ事務ノ必要ニ依リ六月分以内ヲ交付スルコトヲ得
二　隨時ノ費用ニ係ルモノハ所要ノ費額ヲ豫定シ事務上差支ナキ限リ成ルヘク分割シテ交付スヘシ
第五十九條　會計法第二十一條ノ規定ニ依リ前金拂ヲ爲シ得ルハ左ニ揭クル經費ニ限ル但シ第九號乃至第十三號ニ揭クル經費ニ付テハ所管大臣大藏大臣ト協議スルコトヲ要ス
一　軍艦、兵器又ハ彈藥ノ代價
二　外國ヨリ直接購入スル機械又ハ圖書ノ代價
三　朝鮮、臺灣、樺太、關東州又ハ南洋群島内ニ居住スル者ニ支給スル徵兵旅費
四　運賃
五　外國ニ於テ支拂ヲ要スル土地又ハ家屋ノ借料及公課
六　政府ノ買收又ハ收用ニ係ル土地ノ上ニ存スル物件ノ移轉料
七　官公署ニ對シ支拂フヘキ經費
八　外國ニ於テ研究又ハ調査ニ從事スル者ニ支給スル學資金其ノ他ノ給與
九　交通至難ノ場所ニ勤務スル者又ハ艦船乘組ノ者ニ支給スル俸給其ノ他ノ給與
十　軍人、軍屬及陸海軍ノ職工ニ支給スル旅費
十一　外國在勤陸海軍武官ニ支給スル俸給其ノ他ノ給與

十二　補助金
十三　諸謝金
第六十條　會計法第二十一條ノ規定ニ依リ概算拂ヲ爲シ得ルハ左ニ揭クル經費ニ限ル但シ第三號ニ揭クル經費ニ付テハ所管大臣大藏大臣ト協議スルコトヲ要ス
一　旅費
二　官公署ニ對シ支拂フヘキ經費
三　補助金又ハ補給金
第六十一條　會計法第二十二條ノ規定ニ依リ事務費ノ全部又ハ一部ヲ主務官吏ニ對シ渡切ヲ以テ支給シ得ルハ左ニ揭クル官署ノ經費ニ限ル
一　在外各廳
二　遞信官廳
三　區裁判所出張所
四　朝鮮、臺灣、樺太、關東州及南洋群島ニ於ケル官署
前項ノ官署ノ種類、渡切ト爲スヘキ歲出科目及支給方法ハ所管大臣大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ム
第五節　繰替拂
第六十二條　各省大臣ハ左ニ揭クル經費ノ支拂ヲ爲サシムル爲出納官吏ヲシテ其ノ保管ニ係ル前渡ノ資金ヲ繰替セシムルコトヲ得但シ第四號ニ揭クル經費ニ繰替使用スヘキ資金ハ艦船經費繰替金ニ限ル
一　旅費
二　埋葬費
三　在外公館ニ於ケル難民貸與金
四　海軍省所管艦船經費

第六十三條　所管大臣ハ左ニ揭クル官署ノ出納官吏又ハ出納員ヲシテ其ノ取扱ニ係ル歲入金歲出金及歲入歲出外現金ヲ交互ニ繰替使用セシムルコトヲ得

一　鐵道官署

二　遞信官署

前項ノ規定ニ依ル現金ノ繰替使用ニ關スル手續ハ所管大臣大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ム

第六十四條　各省大臣ハ資金前渡ヲ爲シ得ル經費ニ限リ必要已ムヲ得サル場合ニ於テハ當該年度開始前之カ資金ヲ交付スルコトヲ得

第六十五條　前條ノ場合ニ於テハ各省大臣其ノ前渡ヲ要スル經費ヲ算定シ計算書ヲ調製シ之ヲ大藏大臣及會計檢查院ニ送付スヘシ

大藏大臣前項ノ計算書ノ送付ヲ受ケタルトキハ審查ノ上之ヲ日本銀行ニ通知スヘシ

第七節　報告

第六十六條　支出官ハ每月支出濟額報告書ヲ調製シ之ヲ所管大臣ニ送付スヘシ

第六十七條　所管大臣ハ支出濟額報告書ニ依リ每月支出報告書ヲ調製シ支出濟額報告書ヲ添ヘ其ノ翌月中ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第五章　決算

第一節　總決算

第六十八條　歲入歲出總決算ト同一ノ區分ニ依リ大藏大臣之ヲ調製スヘシ

第六十九條　大藏大臣ハ總決算ニ歲入決算明細書、各省決算報告書及國債計算書ヲ添ヘ會計檢查院ニ送付ノ手續ヲ爲スヘシ

第二節　歲入決算明細書、各省決算報告書及收入支出計算書

第七十條　大藏大臣ハ歲入豫算明細書ト同一ノ區分ニ依リ歲入決算明細書ヲ調製シ各項每ニ豫算ニ對スル增減ノ事由ヲ說明スヘシ

第七十一條　歲入事務管理廳ハ大藏大臣ノ定ムル所ニ依リ每年度收入濟歲入額ニ付豫算ニ對スル增減計算書ヲ調製シ翌年七月三十一日迄ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第七十二條　各省大臣ハ各省豫定經費要求書ト同一ノ區分ニ依リ其ノ省所管ニ屬スル經費ノ決算報告書ヲ調製シ翌年度七月三十一日迄ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第七十三條　歲入徵收官ハ會計檢查院ニ證明ノ爲歲入徵收額計算書ヲ添ヘ其ノ歲入事務管理廳ニ送付シ歲入事務管理廳ハ之ヲ會計檢查院ニ送付スヘシ

第七十四條　支出官ハ會計檢查院ニ證明ノ爲支出計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ其ノ所管大臣ニ送付シ所管大臣ハ之ヲ會計檢查院ニ送付スヘシ

第七十五條　前二條ノ計算書ハ歲入事務管理廳又ハ所管大臣ヨリ特ニ委任ヲ受ケタル官吏ヲシテ直ニ之ヲ會計檢查院ニ送付セシムルコトヲ得

第三節　國債計算書

第七十六條　國債計算書ハ大藏大臣之ヲ調製スヘシ

第七十七條　國債計算書ニハ左ニ揭クル事項ヲ示スヘシ

一　當該年度末日ニ於ケル國債ノ種類及現在高ヲ示ス計算

二　當該年度ニ於テ償還シ及支拂ヒタル各種國債ノ元高及利子ノ計算

三　最近五年度間ニ於ケル各種國債增減ノ情況ヲ示ス計算

第六章　定額繰越及定額戻入

第一節　定額繰越

第七十八條　各省大臣會計法第二十七條及第二十八條ノ規定ニ依リ定額ノ繰越ヲ要スルトキハ翌年度四月三十日

迄ニ繰越計算書ヲ調製シ各事件毎ニ其ノ事由ヲ示シ大藏大臣ノ承認ヲ求ムヘシ繰越計算書ハ歲出豫算ト同一ノ區分ニ依リ調製シ左ニ揭クル事項ヲ示スヘシ

一　繰越ヲ要スル項ノ定額

二　定額中支出濟ト爲リタル額及當該年度所屬トシテ支出スヘキ額

三　定額中翌年度ニ繰越ヲ要スル額

四　定額中不用ト爲ルヘキ額

第七十九條　會計法第二十七條ノ規定ニ依リ繰越ヲ爲サムトスルトキハ豫算ニ於テ明許シタル場合ヲ除クノ外前條ノ繰越計算書ニ契約書ノ寫其ノ他ノ參照書類ヲ添付スヘシ

第八十條　大藏大臣各省定額ノ繰越ヲ承認シタルトキハ繰越計算書ノ寫ヲ添ヘ之ヲ會計檢査院ニ通知スヘシ

第二節　定額戻入

第八十一條　支出濟ト爲リタル歲出ノ返納金ハ其ノ支拂ヒタル經費ノ定額ニ之ヲ戻入ルルコトヲ得但シ重大ナル過失ニ因リ誤拂過渡ト爲リタル金額ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第八十二條　支出官前條ノ規定ニ依リ定額ニ戻入レムトスルトキハ返納人ヲシテ其ノ金額ヲ返納セシムヘシ

第八十三條　日本銀行ニ於テ前條ノ返納金ヲ領收シタルトキハ之ニ相當スル金額ヲ支拂豫算定額ニ戻入ノ記帳ヲ爲シ其ノ旨ヲ支出官ニ通知スヘシ

第八十四條　每年度ニ屬スル定額戻入ヲ爲スハ翌年度四月三十日限トス

第七章　契約

第一節　總則

第八十五條　各省大臣又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏契約ヲ爲サムトスルトキハ契約ノ目的、履行期限、保證金額、契約違反ノ場合ニ於ケル保證金ノ處分、危險ノ負擔其ノ他必要ナル事項ヲ詳細ニ記載シタル契約書ヲ作成スヘシ

第八十六條　契約書ニハ當該官吏記名捺印スルコトヲ要ス

第八十七條　各省大臣ハ左ニ揭クル場合ニ於テハ第八十五條ニ規定スル契約書ノ作成ヲ省略スルコトヲ得但シ第五號ノ場合ニ於テハ大藏大臣ト協議スルコトヲ要ス

一　三千圓ヲ超エサル指名競爭契約又ハ隨意契約ヲ爲ストキ

二　外國ニ於テ五千圓ヲ超エサル指名競爭契約又ハ隨意契約ヲ爲ストキ

三　糶賣ニ付スルトキ

四　物品賣拂ノ場合ニ於テ買受人直ニ代金ヲ納付シ其ノ物品ヲ引取ルトキ

五　第一號及第二號以外ノ隨意契約ニ付各省大臣契約書ヲ作成スルノ必要ナシト認ムルトキ

第八十八條　政府ト契約ヲ結ハムトスルモノハ現金又ハ國債ヲ以テ契約金額百分ノ十以上ノ保證金ヲ納ムヘシ指名競爭ニ付シ又ハ隨意契約ニ依ル場合ニ於テハ各省大臣ハ保證金ノ全部又ハ一部ヲ免除スルコトヲ得前條第三號及第四號ノ場合亦同シ

第八十九條　契約者其ノ義務ヲ履行セサルトキハ契約ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外保證金ハ政府ノ所得トス

第九十條　政府ニ屬スル財產ノ賣拂ヲ爲ストキハ法律勅令ニ特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外其ノ引渡前又ハ移轉ノ登記若ハ登錄前其ノ代金ヲ完納セシムヘシ

第九十一條　財產ノ賃付料ハ法律勅令ニ特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外之ヲ前納セシムヘシ但シ賃付期間ノ長期ニ涉ルモノニ付テハ每年定期ニ之ヲ納付セシムルコトヲ得

第九十二條　各省大臣三千圓ヲ超ユル工事、製造又ハ物件ノ買入ニ付テハ竣功又ハ完納ノ後之ヲ監督又ハ檢查シタル官吏又ハ技術者ヲシテ其ノ調書ヲ作成セシムヘシ

契約ニ依リ工事若ハ製造ノ既濟部分又ハ物件ノ既納部分ニ對シ完濟前又ハ完納前ニ代價ノ一部分ヲ支拂ハムトスルトキハ各省大臣ハ特ニ檢查ノ官吏又ハ技術者ヲ命シ事實ヲ調定シテ其ノ調書ヲ作成セシムヘシ

前各項ノ調書ニ依ルニ非サレハ支拂ヲ爲スコトヲ得ス

第九十三條　前條第二項ノ支拂ヲ爲サムトスルトキハ工事又ハ製造ニ付テハ其ノ既濟部分ニ對スル代價ノ十分ノ九、物件ノ買入ニ付テハ其ノ既納部分ニ對スル代價ヲ超ユルコトヲ得ス但シ個々ニ分立シ得ヘキ性質ノ工事又ハ製造ニ於ケル各箇ノ完濟部分ニ對シテハ其ノ代價ノ全額迄ヲ支拂フコトヲ得

第九十四條　前二條ノ規定ハ工事又ハ製造以外ノ請負契約ノ全部又ハ一部ノ履行ニ對シ支拂ヲ爲サムトスル場合ニ之ヲ準用ス

第九十五條　本章ニ定ムルモノノ外契約ニ關シ必要ナル事項ハ大藏大臣之ヲ定ム

第二節　一般競爭契約

第九十六條　一般ノ競爭ニ加ラムトスル者ニ必要ナル資格ハ大藏大臣ノ定ムル所ニ依ル

第九十七條　各省大臣ハ左ノ各號ノ一ニ該當スト認メタル者ヲ爾後二年間競爭ニ加ラシメサルコトヲ得之ヲ代理人、支配人、番頭、手代又ハ技術者トシテ使用シタル者亦同シ

一　契約ヲ履行スルニ當リ故意ニ工事、製造又ハ物件ヲ粗雜ニシ又ハ其ノ品質數量ニ關シ欺罔ノ行爲アリタル者

二　競爭ニ際シ不當ニ價格ヲ競上ケ又ハ競下クル目的ヲ以テ連合ヲ爲シタル者

三　競爭ノ加入ヲ妨害シ又ハ競落者ノ契約締結若ハ契約ノ履行ヲ妨害シタル者

四　檢查監督ニ際シ係員ノ執務執行ヲ妨ケタル者

五　正當ノ理由ナクシテ契約ヲ履行セサリシ者

六　前各號ノ一ニ該當スト認メラレタル後二年ヲ經過セサル者ヲ契約ニ際シ代理人、支配人、番頭、手代又ハ技術者トシテ使用スル者

第九十八條　各省大臣ハ前條ノ規定ニ該當スル者ヲ入札代理人トシテ使用スル者ヲ競爭ニ加ラシメサルコトヲ得

第九十九條　競爭ニ加ラムトスル者ハ現金又ハ國債ヲ以テ見積金額百分ノ五以上ノ保證金ヲ納ムヘシ

第百條　競落者契約ヲ結ハサルトキハ保證金ハ政府ノ所得トス

第百一條　競爭ハ第百九條ニ規定スル場合ヲ除クノ外總テ入札ノ方法ヲ以テ之ヲ行フヘシ

第百二條　入札ノ方法ニ依リ競爭ニ付セムトスルトキハ其ノ入札期日ノ前日ヨリ起算シ少クトモ十日前ニ官報、新聞紙、揭示其ノ他ノ方法ヲ以テ公告スヘシ但シ急ヲ要スル場合ニ於テハ其ノ期間ヲ五日迄ニ短縮スルコトヲ得

第百三條　前條ノ公告ニハ左ニ揭クル事項ヲ示スヘシ

一　競爭入札ニ付スル事項

二　契約條項ヲ示ス場所

三　競爭執行ノ場所及日時

四　入札ノ保證金額

第百四條　各省大臣又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏ハ其ノ競爭入札ニ付スル事項ノ價格ヲ豫定シ其ノ豫定價格ヲ封書トシ開札ノトキ之ヲ開札場所ニ置クヘシ

第百五條　開札ハ公告ニ示シタル場所、日時ニ入札者ノ面前ニ於テ之ヲ行フヘシ但シ入札者ニシテ出席セサル者アルトキハ入札ニ關係ナキ官吏ヲシテ開札ニ立會ハシムヘシ

第百六條　開札ノ場合ニ於テ各人ノ入札中第百四條ノ規定ニ依リ豫定シタル價格ノ制限ニ達シタルモノナキトキハ直ニ再度ノ入札ヲ爲サシムルコトヲ得

第百七條　落札ト爲ルヘキ同價ノ入札ヲ爲シタル者二人以上アルトキハ直ニ抽籤ヲ以テ落札者ヲ定ムヘシ

前項ノ場合ニ於テ當該入札者中出席セサル者又ハ抽籤ヲ爲ササル者アルトキハ入札ニ關係ナキ官吏ヲシテ之ニ代リ抽籤ヲ爲サシムヘシ

第百八條　入札者若ハ落札者ナキ場合又ハ落札者契約ヲ結ハサル場合ニ於テ更ニ入札ニ付セムトスルトキハ第百